

2018（平成30）年度

自己点検・評価報告書

沖縄キリスト教短期大学

目次

1. 英語科	1
2. 保育科	5
3. 総合教育系	8
4. 総務課	12
5. 財務課	19
6. 企画推進課	20
7. 教務課	26
8. 入試課	29
9. 学習支援課	31
10. 学生課	33
11. キャリア支援課	35
12. 図書課	40
13. 宗教部	44
14. 国際平和文化交流センター	47
15. 学習支援センター	51
16. IRセンター	52
17. キリスト教平和研究所	54

1. 英語科

報告者： 英語科長 柳田 正豪

○ 学習成果と各ポリシーを踏まえた点検評価

どの程度、学習成果と三つのポリシーに基づいた活動が行われ、理念・目的・目標等が達成できたか、自己評価欄に記入してください。「S：達成度が極めて高い」「A：ほぼ達成された」「B：やや不十分である」「C：不十分であり改善点が多い」

自己評価	点検評価項目
B	学習成果を踏まえた点検評価
B	ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえた点検評価
B	カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を踏まえた点検評価
A	アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を踏まえた点検評価

○ 取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価） Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	Plan
<p>● 2. 確かな思考力、実践力を育む教育研究環境の構築</p> <p>(1) キリスト教精神を基盤に確かな思考力と実践力を育む教育研究環境構築の推進</p> <p>③大学の使命から導かれる一貫性のある教育の確立 大学の使命・目的及び基本理念を踏まえた体系的、効果的な教育課程の構築を行い、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針を一貫性あるものとして整備する。</p> <p>⑤キャリア教育プログラムの強化 学生の多様な進路に対応可能な組織的協力関係を構築する。また、卒業後の社会的及び職業的自覚を促すためインターンシップを含むキャリア教育プログラムの拡充を図り継続的な支援に取り組む。</p> <p>● 3. 「国際的平和の島」に資する「万国津梁」の精神でグローバル化を推進</p> <p>(1) 多文化共生を可能にする教育プログラムの強化</p> <p>②共創型グローバル化プログラムの構築 「グローバル化プログラムの基本方針」を踏まえたグローバル化教育プログラムは優れて実践性に比重を置いたものにする。協定校派遣プログラムの充実化、留学生受入れ体制の整備、JICAプログラムの構築など、多様なプログラムを有機的に結び付け多文化共生を実現する。</p> <p>◆ (1) アドミッション・ポリシーに沿った2018年度計画 短大英語科のアドミッション・ポリシーの理解を深めてもらうため、新入生に対して、4月の入学後に「短大オリエンテーション」を実施する。このオリエンテーションでは、本学の建学の精神の理解を深め</p>	

つつ、英語コミュニケーション能力の必要性を知ってもらうために、TOEIC テストを実施する。なお、この TOEIC テストは1年半後に再度受験してもらい、英語能力の上達を点数で測る。また5月に行われる渡嘉敷島を含む「English Camp」では English skit や Treasure Hunting を中心に英語学習への意欲増進を図る。同時に渡嘉敷島では沖縄戦の歴史を再確認し、平和を担う者として、世界に奉仕してもらうことを確認する。

◆ (2) カリキュラム・ポリシーに沿った 2018 年度計画

入学前学習支援（各入試後に設定されている3回の Bridge Program 及び、3月に行われる3日間集中講座「Introduction to English Studies」）を設けたり、アドバイザーグループを活用し、新入生が早く大学での学びに慣れるよう働きかける。初年次教育には全1年生が履修する「フレッシュマン・セミナー」にて、大学のカリキュラムを理解させ、大学側・社会から求められているニーズについて理解を深める。また必修であるキリスト教関係科目を履修することで、総合的な教養と社会人基礎力を育む。英語科のコア科目である「オーラル・イングリッシュ」、「英作・文法」、および「英語講読」は、プレイスメントテストを通して、習熟度別クラスに分け、段階的なステップを踏みながら、少人数クラスの環境の下で、英語力の向上を目指す。また「多読」は読解力を向上させるだけでなく、総合的な英語力アップを援助するので、英検や TOEIC の高得点にもつながる。英語のみならず、「表現技法」、「コトバと論理」、「日本語表現法」等の母国語教育も展開する。上級クラスには、同時通訳、Oral Presentation、Making Newspaper 等を開設する。資格対策として、英語検定演習や TOEIC クラスを開設する。2018年度からは、就職活動に役立つクラスを新たに開設する。観光系の就職を手厚くするため、「エアラインサービス研究」、「航空ビジネス入門」、「ホスピタリティ&ツーリズム」を開設する。「エアラインビジネス研究」は客室乗務員に特化した内容、そして「航空ビジネス入門」は航空関係の職種を網羅した内容となっており、2科目とも夏休みの集中講座として開講する。

◆ (3) ディプロマ・ポリシーに沿った 2018 年度計画

キャリア支援課と連携し、6月にある進路セミナーをはじめ、早い段階から就労意識を高める。学生課や国際交流平和センターとも連携し、編入学の情報や留学先の情報を提供し、4年制大学への進学や留学を後押しする。英語科のコア科目を履修することで、幅広い英語力を身につけるサポートをする。キリスト教関連科目や時事問題を current issues を通して、学生は国際的な視野を持ち、グローバルな思考力を身につけることを支援する。観光系の科目や総合教育系にある一般教養を履修することで、豊かな教養と、社会人のマナーや基礎力を身につけることを支援する。

◆ (4) 海外研修

台湾研修とハワイ研修の充実性を図る。研修内容の見直しや、学生のニーズに合った研修内容に改善していく。

(3) 取り組みの結果及び点検・評価

Do・Check

◆ (1) アドミッション・ポリシーに沿った計画

今年度も同様に3月に短大オリエンテーションを開催した。建学の精神についての講話と全1年次を対象とした TOEIC IP テストを実施した。また5月には English Camp を行い、English Skit を行うなか、学生は英語の楽しさに触れ、同時に人間関係を構築する場ともなった。渡嘉敷島での Treasure Hunting では英語科を超え、他学科の学生や教員と英語で触れ合う場となった。また渡嘉敷島では集団自決の碑を訪れ、平和を担う者として、世界に奉仕する精神を養う良い機会になった。

◆ (2) カリキュラム・ポリシーに沿った計画

新入生が大学の学習環境に慣れるよう、入学前に3度のBridge Programと3日間に渡る集中講座を行った。これらのプログラムを入学前に受けることで、新入生は4月からの授業にスムーズに対応することができた。初年次教育の一環でもある「フレッシュマン・セミナー」では、大学のカリキュラムやネットリテラシー、建学の精神や就職とは何かについて学んでもらった。キリスト教関連科目や教養関連科目を履修することで、総合的な教養と社会人基礎力を身につけてもらった。また例年同様に、プレイスメントテストを行い、個々の英語レベルに応じたクラス分け（オーラル・イングリッシュ、英語講読、英作・文法）から段階的に履修した。母語のコミュニケーション能力は第2言語習得レベルに比例することから、日本語表現法関連科目も開設した。上級英語クラスでは、同時通訳もあるが、今年度開設したMaking Newspaperでは西原町役場を訪問し、西原町が抱える問題点を英字新聞にまとめた。この英字新聞はウェブ上にも公開されている。今年度から就職活動に役立つ3クラスを新設しており、どちらも沖縄観光産業に特化した授業となっている。夏期集中講座で行われた「エアラインサービス研究」と「航空ビジネス入門」は非常に人気があり、6割の学生が受講した。（●2. 確かな思考力、実践力を育む教育研究環境の構築 (1) ⑤)

◆ (3) ディプロマポリシーに沿った計画

新入生に早い段階から就労意識をつけてもらいたいという理由から、入学後の6月に進路セミナーを開催した。卒業生のOB・OGを招き、就職の意義について語ってもらった。また卒業後や在学中に留学を希望する学生も多いことから、留学に関する正しい知識を提供したり、編入希望の学生に対しては、過去の編入状況を提供した。また教養科目を履修することで、社会人としての基礎力を身につけてもらった。（●2. 確かな思考力、実践力を育む教育研究環境の構築 (1) ⑤)

◆ (4) 台湾研修は事前学習と位置づけている「多文化共生」を学生は履修することで、カルチャーショックや英語でのプレゼンテーションの練習に励んだ。（●3. 「国際的平和の島」に資する「万国津梁」の精神でグローバル化を推進 (1) ②)

(4) 次年度への課題・改善方策

Act

(1) アドミッション・ポリシーに沿った計画

English CampやTreasure Huntingは成功しているので、継続していきたい。建学の精神と授業の連携がとれていなく、渡嘉敷島のキャンプが終わると同時にその理念を忘れてしまいがちなので、「フレッシュマン・セミナー」等の授業と連携させる。

(2) カリキュラム・ポリシー

3度のBridge Programや3日間の集中講座を入学前にすることで、入学後の授業はスムーズに行えている。しかし、6月を超えたところで欠席数の多い学生が増えたり、退学する学生も少なくは無い。入学前から卒業後の意識付けを強く訴えていき、勉強のモチベーションへとつながるよう学生サポートを心がける。他の対策案としては、Bridge Programで就職に関する情報提供や、学習支援センター等の学内施設の活用方法を1年次の早い段階から伝えて行く。

沖縄の観光産業に特化した3つの授業は、学生の授業評価アンケートを読む限り成功していると思われるので、次年度も継続して行う。さらに次年度には国際観光ビジネス関連科目が増え、就労教育に重点を置く授業が多く開設される。

(3) ディプロマ・ポリシーに沿った計画

6月に行われた進路セミナーは、卒業後のビジョンをはっきりさせてくれるので、次年度も継続して行う。ただ、英語科の就職率が低いので、進路セミナーに似た全学生対象の就労イベントを後期に開催する必要があるかもしれない。就労関連科目が次年度から増えるので、授業内で取り組むことも可能である。

(4) 台湾研修ではうまく事前学習である「多文化共生」と連動できなかった。研修に参加した学生は「多文化共生」を履修していなかった。次年度からは、3月の登録期間中までには、ポスターやチラシを作成させ、台湾研修を希望する学生は必ず「多文化共生」を履修するよう呼びかける。

(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価

Check・Act

三つのポリシーに沿って計画を立案し実行した事を評価する。

(1) アドミッション・ポリシーについて、建学の精神と授業との連携強化を要望する。

TOEIC IP テストについては2回目（1年次半後）に再度実施される試験の受講率を高め、結果を学習成果等の検証に繋げて頂きたい。

English Camp は本学独特のプログラムであり、建学の精神を浸透させる必要な機会である。今後も学生の満足度を高めつつ、継続して実施する事を要望する。

(2) カリキュラム・ポリシーについて、Bridge Program や入学前集中講座を実施する事で大学での授業にスムーズに移行できている事を評価する。

進路セミナーにおいて、就職、進学、留学など卒業後のビジョンが明確となり学習意欲が高まるが、その後1年後期から2年前期にかけての学生の学習意欲を維持すべく、プログラム開発を検討して頂きたい。

沖縄の観光産業に特化した授業については、その後のインターンシップや就職先など継続した検証を進め、学習成果及びディプロマ・ポリシーの検証に繋げて頂きたい。

(3) ディプロマ・ポリシー及び学習成果について、短期大学基準協会が求める評価項目について、いくつか実施できていない項目が見受けられるが、今年度、策定したアセスメント・ポリシーを履行することで、評価項目を達成することができるであろう、積極的な点検評価に取り組んでいただきたい。

2. 保育科

報告者： 保育科長 照屋 建太

○ 学習成果と各ポリシーを踏まえた点検評価

どの程度、学習成果と三つのポリシーに基づいた活動が行われ、理念・目的・目標等が達成できたか、自己評価欄に記入してください。「S：達成度が極めて高い」「A：ほぼ達成された」「B：やや不十分である」「C：不十分であり改善点が多い」

自己評価	点検評価項目
B	学習成果を踏まえた点検評価
B	ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえた点検評価
B	カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を踏まえた点検評価
B	アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を踏まえた点検評価

○ 取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価） Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	Plan
<p>● 2. 確かな思考力、実践力を育む教育研究環境の構築</p> <p>(1) キリスト教精神を基盤に確かな思考力と実践力を育む教育研究環境構築の推進</p> <p>① 確かな思考力と実践力を育む 伝統的価値観が揺らぐ社会でキリスト教精神を基盤に変革期を生き抜く問題発見力、解決力を育む確かな思考力と実践力を修得できる教育研究環境の構築を推進する。</p> <p>② リベラルアーツ型教育と専門教育の融合 リベラルアーツ型教育に関する再検討を行い、国内外の多様な舞台で活躍できるための教育研究体系の再編成、融合化を行う。</p> <p>③ 大学の使命から導かれる一貫性のある教育の確立 大学の使命・目的及び基本理念を踏まえた体系的、効果的な教育課程の構築を行い、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針を一貫性あるものとして整備する。</p> <p>④ IR導入と教学体制拡充 IR室を新設し、学生相談室、学習支援センターと連携させて学生生活実態調査、既存調査の結果を一元管理しPDCAサイクルを推進して学生支援の強化を図る。また、給付型奨学金を含む多様な奨学金制度を設けて学生の離籍率を4%未満に抑える。</p> <p>⑤ キャリア教育プログラムの強化 学生の多様な進路に対応可能な組織的協力関係を構築する。また、卒業後の社会的及び職業的自覚を促すためインターンシップを含むキャリア教育プログラムの拡充を図り継続的な支援に取り組む。</p>	

<p>◆学生を中心とした子育て支援を体験的に学ぶ地域子育て支援実習を行う。</p> <p>◆保育の場を学ぶために保育所、施設にて保育ボランティア体験を行う。</p> <p>◆養成校にかかわる情報を得るため、全国のセミナーなどに参加する。</p> <p>◆カウアイコミュニティーカレッジとの受け入れプログラムを構築し、内容を充実させていく。また、本学からカウアイコミュニティーカレッジへの研修プログラムにつながるような内容を検討する。</p>
<p>(3) 取り組みの結果及び点検・評価 Do・Check</p>
<p>◆学生を中心とした子育て支援を体験的に学ぶ地域子育て支援実習</p> <p>今年度は、カリキュラム変更により1年次は選択科目、2年次は必修科目であった。そのため受講生数にばらつきがあった。地域子育て支援実習は、4クラス開設し、全4回、本学にて行った。子育て支援実習や保護者支援の実践も行い、学生にとって深い学びとなった。</p> <p>また、西原町保育協議連絡会と連携し「保護者支援について」講話を行ってもらった。今後も、地域と連携しながら、子育て支援実習や保護者支援の実践の学びの場を作りたい。</p> <p>◆保育の場を学ぶために保育所、施設にて保育ボランティア体験</p> <p>今年度はカリキュラム変更により1年次は選択科目となった。そのため、受講生が少なかったが、履修した学生には学びの深いものとなった。</p> <p>◆養成校にかかわる情報を得るため、全国のセミナーなどに参加する</p> <p>全国保育士養成セミナーは、2018年9月14日から16日まで行われ、本科からは糸洲理子准教授が参加した。また、九州ブロックセミナー熊本大会は、2018年8月29日から30日まで行われ、仲松あかり助教が参加した。全国の保育士養成にかかる動向、情報交換等を行った。</p> <p>◆カウアイコミュニティーカレッジとの受け入れプログラムを構築および本学からカウアイコミュニティーカレッジへの研修プログラムの検討</p> <p>カウアイコミュニティーカレッジより本科にて学生の研修受け入れを行ってほしいと要請があった。そのため、5月に研修プログラムを実施した。今回は、初回であったためカウアイコミュニティーカレッジ教員2名が実際に行うプログラムに参加した。本科学生との交流、保育園および幼稚園の見学、フレンドシップデーへの参加など内容の濃いプログラムとなった。</p>
<p>(4) 次年度への課題・改善方策 Act</p>
<p>◆点検評価について</p> <p>学修・学習成果を踏まえた点検評価、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえた点検評価、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を踏まえた点検評価、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を踏まえた点検評価については、今年度はしっかり行うことができなかった。評価方法を確立し点検に取り組む。</p> <p>◆学生を中心とした子育て支援を体験的に学ぶ地域子育て支援実習を行う。</p> <p>2019年度入学生から、2年次必修とし実習経験を活かしながら、地域子育て支援について実践を行う。</p> <p>◆保育の場を学ぶために保育所、施設にて保育ボランティア体験を行う。</p> <p>2019年度入学生から、1年次必修とし実習を行う前に保育の場にて子どもたちに関わる実践的経験を行う。</p>

- ◆養成校にかかわる情報を得るため、全国のセミナーなどに参加する。
全国保育士養成協議会など、教員の研修会に参加する。
- ◆カウアイコミュニティーカレッジとの受け入れプログラム
カウアイコミュニティーカレッジから本学への研修受け入れプログラムについて、内容を充実させていく。また、カウアイコミュニティーカレッジで行っている本学の研修プログラムの内容と、幼児施設の訪問先リストについても検討を行う。
- ◆専任教員と非常勤講師とのFD研修の実施
前期および後期に非常勤講師を含めた教育に関するFD研修を実施し、情報共有を行う。教育の資質向上のため講義内でICT活用に取り組む。
- ◆進度の速い学生について
春夏のワークショップや学科会議にて、講義中の支援や課外での学習支援について議論する。
- ◆学習成果の査定方法を定期的に点検
春夏のワークショップや学科会議にて処理・査定方法についての取り組みを検討する。
- ◆卒業後評価の取り組みについて
実習訪問や定期的に行っている団体との連絡会を通して卒業生の評価を聴取し、学習成果の改善に取り組む。
- ◆GPA分布、単位取得率、学位取得率、ルーブリック分布等の活用について
作成したGPA分布、単位取得率、学位取得率、ルーブリック分布を利用し、春夏のワークショップや学科会議にて活用方法について議論する。

(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価

Check・Act

2018年度の事業について、計画の通り実施したことを評価する。
大学が発展する上で地域連携は重要であり、地域に貢献することは大学の責務である。西原町保育協議連絡会との連携について、今後も相互協力を努めて頂きたい。また、カウアイコミュニティーカレッジとの受け入れプログラム及び本学からの研修プログラムの発展に期待する。
学習成果、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）が点検評価の起点となる。短期大学基準協会が求める評価項目について、いくつか実施できていない項目が見受けられる。今年度、策定したアセスメント・ポリシーを履行することで、評価項目を達成することができるであろう、積極的な点検評価に取り組んで頂きたい。

3. 総合教育系

報告者： 総合教育系主任 青野 和彦

○ 学習成果と各ポリシーを踏まえた点検評価

どの程度、学習成果と三つのポリシーに基づいた活動が行われ、理念・目的・目標等が達成できたか、自己評価欄に記入してください。「S：達成度が極めて高い」「A：ほぼ達成された」「B：やや不十分である」「C：不十分であり改善点が多い」

自己評価	点検評価項目
B	学習成果を踏まえた点検評価
B	ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を踏まえた点検評価
A	カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を踏まえた点検評価

○ 取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価） Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）	Plan
<p>● 1. 「建学の精神」の継承発展に向けて</p> <p>(1) キリスト教主義平和教育の拠点形成</p> <p>③ 自校史教育導入と多様なプログラムを通じたキリスト教主義平和学の深化</p> <p>キリスト教主義平和学の深化を図る一環として、新入生オリエンテーションの平和学習や月曜礼拝の運営方式を見直す一方で、沖縄キリスト教学院史を通じた自校史教育導入を通して学習者の想像力の覚醒を促す平和学の実質化を図る。</p> <p>● 2. 確かな思考力、実践力を育む教育研究環境の構築</p> <p>(1) キリスト教精神を基盤に確かな思考力と実践力を育む教育研究環境構築の推進</p> <p>① 確かな思考力と実践力を育む</p> <p>伝統的価値観が揺らぐ社会でキリスト教精神を基盤に変革期を生き抜く問題発見力、解決力を育む確かな思考力と実践力を修得できる教育研究環境の構築を推進する。</p> <p>② リベラルアーツ型教育と専門教育の融合</p> <p>リベラルアーツ型教育に関する再検討を行い、国内外の多様な舞台で活躍できるための教育研究体系の再編成、融合化を行う。</p> <p>③ 大学の使命から導かれる一貫性のある教育の確立</p> <p>大学の使命・目的及び基本理念を踏まえた体系的、効果的な教育課程の構築を行い、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針を一貫性あるものとして整備する。</p> <p>④ I R 導入と教学体制拡充</p> <p>I R 室を新設し、学生相談室、学習支援センターと連携させて学生生活実態調査、既存調査の結果</p>	

を一元管理しP D C Aサイクルを推進して学生支援の強化を図る。また、給付型奨学金を含む多様な奨学金制度を設けて学生の離籍率を4%未満に抑える。

⑤キャリア教育プログラムの強化

学生の多様な進路に対応可能な組織的協力関係を構築する。また、卒業後の社会的及び職業的自覚を促すためインターンシップを含むキャリア教育プログラムの拡充を図り継続的な支援に取り組む。

◆2018年度、総合教育系は本学院の建学の精神の理解、課題解決のための幅広い教養、文章・ITリテラシーおよび「批判的思考力」の習得という学習効果を反映させた「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」に基づき、以下の「事業計画」を掲げる。

1. 「建学の精神」の実効化：キリスト教平和教育の展開

(1) 建学の精神の理解をはかるための『建学の精神を学んで』（大学入学前教育課題報告集）の作成と発行。

(2) 学生・教職員を対象とした「平和研修ツアー」の継続実施。

2. 教養教育の計画 (Plan)

(1) 「大学教育学会」大会参加による情報収集と系会議等でのフィードバック。

(2) 2019年度の組織改編に向けた短大の教養教育の展開ための協議。

3. 教養教育の実効化(Do)

(1) 教養教育の「学習成果」の実現のための授業の展開。

(2) 「コア3科目」（キリスト教、表現技法、コンピュータ・リテラシー）の内容的充実。

※外部講師を招いての特別講義の実施。

(3) 自然科学分野の教養教育の継続強化。

(4) 地域に開かれた「特別公開講座」の継続実施。

4. 教養教育のアセスメント(Check)

(1) 「コア3科目」担当者連絡会議の実施による教育効果のアセスメントの実施。

(2) 系会議や系ワークショップ等における「学生による授業評価アンケート」のアセスメント、「シラバス」の点検と評価基準の策定。

※これらアセスメントを今後の教育改善 (Act)に反映させていく。

(3) 取り組みの結果及び点検・評価

Do・Check

1. 「建学の精神」の実効化：キリスト教平和教育の展開

(1) 2018年5月『建学の精神を学んで』（大学入学前教育課題報告集）を発行

【点検・評価】提出した学生は、熱心に本学のルーツを学ぼうという姿勢が見られる。しかし、保育科と比べ、英語科の報告集への記載者数が少なかったため、改善する必要がある。

(2) 「平和研修ツアー」の継続実施。

・2018年7月7日（土）の午前中、本学と縁の深い日本基督教団首里教会を訪問し、教会の歴史及び本学のルーツについて学んだ。

【点検・評価】学生の参加者数が年々減少傾向にある（今回は3名）ため、改善が必要である。但し、参加した学生の満足度は開催終了後の意見聴取（口頭）によると、とても高かった。

2. 教養教育の計画 (Plan)

(1) 第40回大学教育学会大会(筑波大学)に総合教育系主任が参加した。その概要と所感については学長に「出張報告書」の中で報告した。また、それを総合教育系の系会時にも共有した。

【点検・評価】従来、総合教育系主任が主に同学会に参加してきた。今後は、主に教養教育を担当する教員が交替で参加するのが、情報を共有化する意味で望ましいと判断される。なお、本学会では、教養教育のみならず、日本の大学教育の方向性を示唆する講演会、シンポジウム、分科会、研究発表が多いため、継続的参加は大変有意義であると判断される。

(2) 2019年度の組織改編に向けた短大の教養教育の展開については、組織改編事項のため、主任が学長と数回協議した。また、総合教育系の系会でも意見を交換した。その結果、学長から1月の大学運営協議会にて「教養教育運営委員会」の「申し合わせ」(素案)が提出され、承認された。※1月教授会で報告

【点検・評価】本短大の教養教育を維持・継承するために、同委員会今後組織化される決定がなされたことは有意義である。

3. 教養教育の実効化(Do)

(1) 2018年度は総合教育系主任が「アセスメント・ポリシー」を策定し、2019年1月の教学マネジメント委員会でそれが承認された。

【点検・評価】次年度以降、それを基準にそれぞれの教養教育科目をより精査することが可能になる。

(2) 「コア3科目」(キリスト教学、表現技法、コンピュータ・リテラシー)の内容的充実をはかるため、2019年2月21日(木)に「コア三科目担当者連絡会議」(教養教育FD)を実施する。

【点検・評価】2月実施のため、未実施。

(3) 自然科学分野の教養教育の継続強化については、理科教育(科学リテラシー)と数学基礎教育(文系学生のための数学基礎演習I・II)面で担当者が努力・工夫した。

【点検・評価】「学生による授業評価アンケート」で上記科目では高い評価を得た。また、今後は「ルーブリック」の導入により、学習成果の精査も可能になる。

(4) 「特別公開講座」については、2018年度は「健康と運動系」の分野(学群)から講師を選定し、2019年1月17日(木)に実施した。

【点検・評価】毎回、各分野で著名かつ経験豊かな講師を選定しているため、「アンケート」によると、参加者の満足度は非常に高い。但し、学内HPや授業、地元新聞をとおしてPRしたにもかかわらず、参加者数が少なかった。時期的な問題、放課後、アルバイト等のため学生達が残らない点等が、要因であると思われる。

4. 教養教育のアセスメント(Check)

(1) 前述のとおり、「コア三科目担当者連絡会議」を2月21日(木)に実施し、教育効果のアセスメントを行う予定である。

【点検・評価】2月実施のため、未実施。

(2) 総合教育系ワークショップを2018年9月20日(火)に実施し、「学生による授業評価アンケート」のアセスメントを行った。

【点検・評価】アセスメントの詳細については、2018年度総合教育系議事録に記録した。

(3) 「シラバス」の点検と評価基準の策定。

【点検・評価】評価基準については、教務課が設定している。2018年度の点検については、前年度に主任が実施したが、総合教育系内で十分な意見交換や検証ができなかった。

	Act
<p>(4) 次年度への課題・改善方策</p>	Act
<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度は総合教育系の組織がなくなり、従来の教養教育は「教養教育運営委員会」が担当することになる。また、同委員会の運営に関する「申し合わせ」も大学運営協議会で承認され、短大教授会で報告された。今後、同運営委員会において、短大部長の主導の下、前述の検証を行い、それに基づいた改善方策を考案する必要がある。 ・また、2023年度実施の短大基準協会による第3クールの「認証評価」に向けて教養教育の継続的な検証は求められる。なぜなら、「基準Ⅱ 教育課程と学生支援」「2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している」という点の検証が要求されるからである。また、その検証のエビデンスの蓄積も必要になる。 	Act
<p>(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価</p>	Check・Act
<p>【評価点】ディプロマ・ポリシーに示された、建学の精神を明確にし、その教育理念に依拠しカリキュラムを整備している。「総合教育系」の組織的廃止による教育効果の落差を埋めるべく「コア三科目担当者連絡会議」「教養教育運営委員会」を立ち上げたこと。アセスメント・ポリシーを定めて成績評価に公平性を期していることを評価する。</p> <p>【努力課題】 2023年度の短大基準協会による第3クールの「認証評価」に向けて中長期的に継続的な検証をおこなうこと。</p> <p>【改善勧告】 該当なし。</p>	Check・Act

4. 総務課

報告者：事務局長 與那原 馨（総務課長 中田 竜次）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）	
Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	Plan
<p>（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）</p> <p>● 4. 組織文化の変革と経営基盤の強化</p> <p>（1）組織ガバナンスの確立と危機管理の強化</p> <p>① 組織ガバナンスの確立</p> <p>学長のリーダーシップの下、理事会、教学部門、事務部門の相互連携を緊密にし、同時に3部門を統括する大学執行部間の一体感を強めた大学運営を確立し持続的な発展軌道に乗せる。この基本的考えを実行するに際し、組織運営の基底に「建学の精神」を据え、PDCAサイクルと外部評価委員の評価システムを確立する。</p> <p>② 危機管理の強化</p> <p>危機管理体制強化のため法令整備と教職員の意識改革を進める。まず、大規模災害発生に備えた危機管理体制の下、避難訓練等実施と災害発生時への即応体制を図る。次に、本学情報資産の安全確保のため情報セキュリティ対策を推進する。最後に人権尊重の啓蒙活動を強化し働き甲斐のある職場環境を確立する。</p> <p>（2）アメニティーキャンパス整備と改組・新学部等設置体制の強化</p> <p>①アメニティーキャンパス整備事業の推進</p> <p>アメニティーキャンパスマスタープランの下、2号基本金を活用した太陽光パネル活用の環境親和型駐車場整備の適正配置によるキャンパス内交通動線計画を推進して学生の満足度を高めた方策を展開する。また、学生の安定的確保のためにキャンパス緑化事業等によるキャンパスアメニティー整備を推進してキャンパス中央広場へのアプローチロードを常緑樹、花木、香木を植樹しシンボルロードとする。</p> <p>②校舎等の耐震化事業の推進</p> <p>学生及び教職員の安全確保の観点から建物診断調査等による校舎の劣化、損傷等の診断を行い、修繕方法や修繕時期等の修繕方針を策定し段階的耐震工事を行う。</p> <p>④こども園設置に向けたフィジビリティ調査実施</p> <p>短大保育学科、及び新学科等の実習体制強化のため、学院附属こども園等の設置に向けたフィジビリティ調査を実施する。</p> <p>（3）経営基盤強化に向けた執行体制の強化</p> <p>②財政基盤強化の構造的見直し</p> <p>財政安定策として、入学定員の安定的確保、休学・退学者の減少、各種特別補助金や寄付金等の外部資金獲得のための体制強化を図る一方で、支出抑制策はカリキュラムのスリム化等を通して行い、財政健全</p>	

化策を着実に実現する。

(2) 使命共同体としての同窓会・後援会との連携強化

- ①使命共同体として後援会、同窓会間の多分野での協力関係を構築する。
- ②同窓会ネットワークの構築に向けた環境を整備する。
- ③卒業生との繋がりを深め、在学生への支援体制を構築する。

◆ I. 重点施策

3. 財政基盤強化に向けた取り組みを加速し、大学運営の持続性の確保、学生の学習環境の充実化を図る。そのために外部資金である特定補助金、寄付金獲得のための体制を強化する。

4. 第4次中長期五カ年計画に基づき、アメニティーキャンパスの段階的整備事業を進める。景観に配慮し、出入口の渋滞緩和のための施策を検討する。

【個別分野事業】

9. 社会・地域貢献

(2) 公開講座

本学の教育資産を活用し、社会及び地域のニーズに応えるべく、学びやすい講座を提供する。

10. 施設整備・修繕計画

(1) 第4次中長期五カ年計画に基づき、学生及び教職員の安全確保の観点から校舎の劣化診断を行い、段階的修繕・耐震工事に着手する。

(2) チャペルの同時通訳システムのリニューアルを実施する。

(3) 省エネ型エアコンへの取替やトイレの整備等、学生満足度を高めるための施設整備を検討する。

11. 管理運営

(1) SDの取り組み

職員の能力及び資質を向上させるために全学的なSD実施計画を策定し、着実に実行する。

本学が直面する重要課題とその改善、解決に向け教職員の意識改革を図るため教職協働プログラムの充実を図る。

(3) リスクマネジメントへの対応

①防災・防犯対策

- 避難訓練を実施し、災害発生時の行動手順を確認する。
- 職員の安全パトロールにより、不審者・不審物の早期発見に努め、事件事故の未然防止に努める。夜間、構内死角となる場所等は、守衛による定期巡回を強化し安全を確保する。
- 学生の交通安全について、声かけ、掲示物等により、継続的に啓発活動を実施する。

②ハラスメント対策

ハラスメントを起こさない職場づくりのための啓発活動を中心に全学SDとして取り組む。

学生に対して、相談窓口の周知徹底を図り、ハラスメントの防止、解決に取り組む。

(3) 取り組みの結果及び点検・評価

Do・Check

●：中長期計画 取り組み結果

4. 組織文化の変革と経営基盤の強化

(1) 組織ガバナンスの確立と危機管理の強化

① 組織ガバナンスの確立

教学部門の大学運営協議会と法人事務連絡会議を毎月開催した。特に2018年度からは、法人事務連絡会議の構成員に理事である金永秀宗教部長を加え、組織運営の基底に「建学の精神」を据え、法人と教学の連携に関する事項を協議し、組織ガバナンスの確立を図った。学長のリーダーシップの下、理事会、教学部門、事務部門の相互連携を緊密にし、同時に3部門を統括する大学執行部間の一体感を強めた大学運営を確立した。外部評価委員の評価システムについては、引き続き検討する。

② 危機管理の強化

(ア) 防災・防犯対策

- ◆ 11月に学生・教職員を対象に地震発生を想定した対応行動及び避難訓練を実施した
- ◆ 総務課職員と守衛による校舎全体、特に校舎屋上、クラブ室、ピアノ練習室等(個室)の巡回を強化し不審者等の早期発見、事件等の未然防止に努めた。また、休日、夜間等については、守衛の巡回回数等を多くするなど安全対策の強化を行った
- ◆ 守衛による立哨、交通誘導を定期的に行い学生の交通事故防止に努めた。

(イ) 情報セキュリティ対策

教職協働SD(8月21日開催)において「情報セキュリティセミナー」を開催した。「情報セキュリティ10大脅威2018」に基づき、脅威等について理解を深めた。

(ウ) 人権尊重の啓蒙活動

教職協働SDにおいて沖縄労働局より講師を招き「総合的なハラスメント対策について」の講演を実施し、ハラスメント防止のための啓蒙を深めた。

働き甲斐のある職場環境を確立するため、事務局長・総務課長による事務職員との面談を行い、業務だけでなく、家庭環境や体調等、職場に配慮して欲しいことについてのヒアリングを実施した。また、今年度より、総務課長が同様に有期雇用事務職員との面談を実施した。

(2) アメニティーキャンパス整備と改組・新学部等設置体制の強化

①アメニティーキャンパス整備事業の推進

費用対効果を考慮し、学生の満足度を高めるためのキャンパス整備を模索している。緑のあふれるキャンパスを目指し、外部の協力を得てキャンパス内に花のプランターを多数配置した。

アメニティーキャンパスの段階的整備は、大規模修繕工事と並行して実施する。

②校舎等の耐震化事業の推進

2018年3月に非構造部材の耐震化調査を実施した。2019年度に大規模修繕計画を策定すべく準備を進めている。

④こども園設置に向けたフィジビリティ調査実施

那覇市公私連携幼保連携型認定こども園の公募があり、検討した。時間的制約、事務量、人員配置等精査した結果、法人事務連絡会議(8月7日開催)において、今回は応募しないことを決定した。今後、西原町との連携も視野に研究を始める。

(3) 経営基盤強化に向けた執行体制の強化

②財政基盤強化の構造的見直し

特定補助金獲得のための体制として、学長直轄のプロジェクトチーム(改革総合支援事業WG)を立ち上げ、獲得に向けて協議、各部署との調整の役割を担った。

(2) 使命共同体としての同窓会・後援会との連携強化

同窓会主催の「定期総会・懇親会」「学生会役員との懇親会」「創立 60 周年記念シンポジウム・茶話会」などに理事長・学長・事務局長が出席し、同窓会・卒業生・在学生との交流を深めた。

◆：事業計画 取り組み結果

I.重点施策

3. 財政基盤強化に向けた取り組みを加速し、大学運営の持続性の確保、学生の学習環境の充実化を図る。そのために外部資金である特定補助金、寄付金獲得のための体制を強化する。

◆ 補助金獲得のための体制は、上記(3)の②に記述のとおり。

◆ 寄付金獲得のための体制は、「創立 60 周年記念募金」を重点施策とし、以下のとおり実施した。

※ 「創立 60 周年記念募金」：修学支援のための給付型奨学金の創設【募金目標額：5,000 万円】

比嘉國郎後援会長を委員長に迎え、創立 60 周年記念募金実行委員会を立ちあげた。実行委員会は理事長、学長、同窓会、後援会が緊密に連携できる体制とし、理事会、評議員会、日本基督教団沖縄教区傘下の教会、学院附属 O I C 教会、西原町内企業・団体に加え、県内の企業・団体、卒業生、教職員等を対象に協力をお願いした。2019 年度 3 月末でのべ 371 件、8,589,982 円の募金があり、17.2%の達成率となった。今後も各種方面へのお願いを継続する。

4. 第 4 次中長期五カ年計画に基づき、アメニティーキャンパスの段階的整備事業を進める。

上記 中長期計画(2)の①に記述のとおり。

【個別分野事業】

9. 社会・地域貢献

(2) 公開講座

本学の教育資産を活用し、社会及び地域のニーズに応えるべく、以下の講座を提供し、のべ69人(前期36人・後期33人)が受講した。

① キリ学から見る沖縄 ～イントロダクション～ 24人

② 大学・短大生のための就活トレーニング～自己理解と面接トレーニング～ 12人

③ 基礎文法&英検2級講座 13人

④ ジェンダー・スタディーズ入門 20人

10.施設整備・修繕計画

◆ 学生・教職員の安全確保のため、北駐車場内一部に、車両及び歩行者対象のすべり止め工事を実施した。

◆ 体育館・チャペル・図書館内の老朽化した高所照明器具更新工事を実施した(LED化)。

◆ 電気設備について経年による事故を防ぐため、高圧引き込みケーブルの更新工事を実施した。

◆ 学生満足度を高めるための施設整備については、現状把握のための建物劣化調査の実施を次年度に向けて検討中である。

◆ 学生の学習環境の充実化については、中規模の教室へのプロジェクター配置とICT教育推進のため電子黒板の導入を実施した。

11.管理運営

(1) SDの取り組み

職員の能力及び資質を向上させるため、スタッフ・ディベロップメント（SD）に関する実施方針に基づき、実施した。12回実施し、のべ377人の教職員が参加した。

	開催日	内 容
1	4/4(水)	新入職員オリエンテーション
2	4/11(水)	建学の精神勉強会
3	4/26(木)	建学の精神ワークショップ
4	5/14(月)	3つのポリシー勉強会（四大）
5	5/21(月)	3つのポリシー勉強会（短大）
6	6/4(月)	経営・財務状況の把握・分析等についてのSD 経営・財務状況の説明会
7	7/9(月)	障害のある学生の修学支援
8	7/23(月)	補助金獲得に向けて
9	8/2(木)	グローバルSD（国際平和文化交流センター）
10	8/21(火)	教職協働ワークショップ
11	11/15(木)	県内私大協共同SD研修（沖縄国際大学で開催）
12	2/21(木)	教員のためのICT教育研修会

(3) リスクマネジメントへの対応

上記 中長期計画4の(1)の②に記載のとおり。

(4) 次年度への課題・改善方策

Act

【大学運営協議会】

1. 大学経営基盤の安定化

- ◆ 私立大学等改革総合支援事業確保に向け、学長主導の対策チームを強化する。
- ◆ 教育の体系性に則りカリキュラムの見直しを実施し、スリム化と人件費抑制を図る。

2. 組織ガバナンスの確立と危機管理体制の強化

働きがいのある職場環境の確立し、自らの職責を認識し能力を最大限発揮させる組織文化を確立させるためガバナンス体制の確立を行う。

- (1)教職員の連帯感を強めるため教職協働プログラム等を深化させる。
- (2)外部研修を奨励し本学の職場環境、業務執行を客観的に評価し職場の革新につなげる。

3. 高等教育の無償化への対応

機関要件を満たすための整備を着実に実行する。

4. 教職協働とSDの取り組み

- (1)本学が直面する重要課題とその改善、解決に向け教職員の意識改革を図るため教職協働プログラムの充実を図る。
- (2)職員の能力及び資質を向上させるために全学的なSD実施計画を策定し、着実に実行する。

【法人事務連絡会議】

1. 大学経営基盤の安定化

- ◆ 入学者の安定的確保のための取り組みへの人事面、財政面でのバックアップの検討。
- ◆ 寄付金確保に向けた取り組みを強化する。
- 2. 安心安全とアメニティー性のあるキャンパス構想の推進
 - ◆ 大規模修繕工事に着手するための調査・設計を実施する。
 - ◆ 省エネ型エアコンへの取替やトイレの整備等、学生満足度を高めるための施設整備を検討するとともに老朽化した設備の修繕を図る。
 - ◆ 学内美化、花や緑があふれるキャンパスづくりを推進する。
- 3. 働き方改革への対応
働き方改革関連法を順守し、働きがいのある職場づくりを整備する。
- 4. 財務計画
第4次中長期五カ年計画（2017年～2021年）の財政改善目標値に基づき、着実に取り組む。
 - (1) 経常収支差額は、人件費抑制と緊縮予算を堅持することで黒字を確保する。
 - (2) 減価償却引当特定資産（建物）は、積立率目標値（2021年）15%に対し13%を積み立てる。
 - (3) 退職給与引当特定資産は、積立率目標値（2021年）50%に対し40%を積み立てる。

【危機管理委員会】

リスクマネジメントへの対応

(1) 防災・防犯対策

(2) 避難訓練を実施し、災害発生時の行動手順を確認する。

(3) 職員の安全パトロールや守衛による定期巡回を行い、不審者・不審物の早期発見、事件事故の未然防止、安全確保に努める。

(4) 学生の交通安全について、声かけ、掲示物等により、継続的に啓発活動を実施する。

【ハラスメント防止啓発委員会】

(1) ハラスメント対策

(2) ハラスメントを起こさない職場づくりのための全学SDを通じて啓発活動に取り組む。

(3) 学生に対して、相談窓口の周知を図り、ハラスメントの防止、解決に取り組む。

【公開講座委員会】

本学の教育資産を活用し、社会及び地域のニーズに応えるべく、学びやすい講座を提供する。

(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価

Check・Act

●組織ガバナンスの確立と危機管理の強化

学長のリーダーシップの下、法人事務連絡会議において法人と教学の連携に関する事項を協議されているが、志願者数及び入学者の減少（特に英語科の定員割れ）についての具体的な対応策や新学科含めた改組等について今後のビジョンを示して頂きたい。

◆防災・防犯対策

学生・教職員を対象とした地震発生を想定した対応行動及び避難訓練を実施した事を評価する。

総務課職員と守衛による巡回を強化し不審者等の早期発見、事件等の未然防止に努め、また、休日、夜間等については、守衛の巡回回数等を多くするなど安全対策の強化を実施した事を評価する。

●人権尊重の啓蒙活動◆ハラスメントの防止・啓発

人権尊重の啓蒙活動については、沖縄労働局より講師を招き「総合的なハラスメント対策について」のSDを教職協働で実施した事を評価する。

働き甲斐のある職場環境を確立するため、事務局長・総務課長による事務職員及び有期雇用事務職員との面談を実施した事を評価する。

●◆アメニティーキャンパス整備事業 ●耐震化事業の推進 ◆施設整備・修繕計画

修繕計画を策定にあたり、学生の満足度を高めるうえで各種アンケート調査を活用すること、また財政状況が厳しい現状、補助金の活用も視野に入れた計画策定に取り組んで頂きたい。

理事長の強い思いにより、外部の協力を得てキャンパス内に花のプランターを多数配置した事を評価する。

◆財政基盤強化の構造的見直し

特定補助金獲得のための体制として、学長直轄のプロジェクトチーム（改革総合支援事業WG）を立ち上げ事を評価する。補助金獲得には幅広い協力が必要である、教職共同も含めた共同体制を構築し獲得に向けて努力して頂きたい。

●創立60周年記念募金（重点施策）

修学支援のための給付型奨学金を創設し、募金活動に取り組んでいることを評価する。達成率は17.2%と低調だが、目標達成に向けた努力して頂きたい。

●SDの取り組み

SDに関する実施方針を定め、建学の精神から三つのポリシー、経営・財務状況の把握など多岐に渡り実施し、のべ377人の教職員が参加したことを評価する。

◆社会・地域貢献

高校生の就業体験（インターンシップ）を受け入れた事を評価する。

公開講座について、4講座、69人の受講があった事を評価する。社会及び地域のニーズに応えるべく、学びやすい講座を提供するにあたり、地域の意見を取り入れる事を検討して頂きたい。

5. 財務課

報告者：事務局長 與那原 馨（財務課長 嘉陽田 直子）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価） Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画） 【理事会】 ● 4. 組織文化の変革と経営基盤の強化 (3) 経営基盤強化に向けた執行体制の強化 ③財政改善目標値 1. 経常収支差額の黒字幅を増やし達成目標黒字幅10%の内、2021年度までに達成値8%を実現する。 2. 減価償却引当特定資産（建物）の積立達成目標値40%の内、2021年度までに15%を実現する。 3. 退職給与引当特定資産の積立目標達成値50%の内、2021年度までに50%超を実現する。 ◆第4次中長期五カ年計画の財政改善目標値に基づき、2018年度の特定資産積立を着実に実行する。減価償却引当特定資産（建物）は、2021年度までの積立率目標値15%に対し12%を積み立てる。退職給与引当特定資産は、2021年度までの積立率目標値50%に対し36%を積み立てる。	Plan
(3) 取り組みの結果及び点検・評価 【理事会】 第4次中長期五カ年計画の財政改善目標値に基づき、2018年度事業計画に掲げた特定資産積立を実行した結果、減価償却引当特定資産（建物）の積立率は12.3%（2017実績10.7%）、退職給与引当特定資産の積立率は35.7%（2017実績30.8%）となり、2018年度の目標値を達成した。 経常収支差額については、3.6%の黒字を確保するものの、目標値には届かなかった。	Do・Check
(4) 次年度への課題・改善方策 【理事会】 第4次中長期五カ年計画の財政改善目標値に基づき、2019年度も着実に取り組んでいく。 経常収支差額については、学生生徒等納付金収入及び補助金収入の伸び悩みが懸念されるが、前年度に引き続き人件費抑制と緊縮予算を堅持することで黒字を確保する。 減価償却引当特定資産（建物）は、2021年度までの積立率目標値15%に対し13%の積立を達成する。 退職給与引当特定資産は、2021年度までの積立率目標値50%に対し40%の積立を達成する。	Act
(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価 入学者数低迷による厳しい現状にも関わらず、経常収支差額を除いて、改善目標値を達成した点は評価できる。	Check・Act

6. 企画推進課

報告者：事務局長 與那原 馨（企画推進課長 友利 道明）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）		
Check		
※2018年度は空欄となります。		
(2) 本年度の目標（方針）及び計画（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）		Plan
<p>【学部学科等改組検討委員会】</p> <p>● 4. 組織文化の変革と経営基盤の強化</p> <p>(2) アメニティーキャンパス整備と改組・新学部等設置体制の強化</p> <p>③改組・新学部等設置体制の強化 大学を持続可能な発展軌道に乗せるため、早急に詳細なロードマップを作成し新学科等設置申請作業に着手する。概略工程表は5月年以内の設置申請を目標とし、2017年度には新学科等設置検討委員会を設け事前作業を行い、2018年度は新学科等設置準備室を設置してカリキュラム、人事、校舎、駐車場、キャンパス整備に着手する。2019年度から新学科等の設置認可申請に係る事前相談を開始して新学科等開設に向けて取り組む。</p> <p>④こども園設置に向けたフィジビリティ調査実施 短大保育学科、及び新学科等の実習体制強化のため、学院附属こども園等の設置に向けたフィジビリティ調査を実施する。</p> <p>(3) 経営基盤強化に向けた執行体制の強化</p> <p>①学長を司令塔とした意思決定の機動性強化 「入学定員の厳密化」への備えと「教育の質保証」を確保する観点から、学長直属の作業班を司令塔に新設IR室と関係部署、各学科・系の連携を強化し基盤的財政の安定化を実現する。</p> <p>【広報・地域連携推進委員会】</p> <p>● 4. 組織文化の変革と経営基盤の強化</p> <p>(4) ブランディング広報戦略の確立</p> <p>①ブランディング広報手法を確立 学院ブランド復活に向けコンテンツ編集技術、各種メディア媒体を活用する広報技術の練度向上を実現し、ブランディング広報戦略を確立する。</p> <p>②受験生獲得のための魅力的素材の編成発信 意欲的受験生の獲得のために大学間の差別化戦略を構築し情報発信力を強化する。</p> <p>● 5. 共創型地域連携事業の推進</p> <p>(1) 地域と共に歩む大学を標榜した地域連携事業の推進</p> <p>②西原町との包括連携協力協定に基づく事業の展開 理科教育支援事業に加え、子育て支援事業やMICE事業への支援を始め、地域の高等教育機関として本学が擁する知的・物的財産を地域社会へ提供し絆を強める。</p> <p>③近隣自治体、団体との連携事業の拡充 近隣自治体、高大連携事業、沖縄国際センター、近隣市町村の商工会議所、商工団体等との連携協定を締結し地域に根差す大学としての使命を果たす。</p> <p>◆西原町地域連携事業 西原町との包括連携協力協定に基づき、地域に根差す大学としての使命を果たすために、平和事業に関する共同実施、西原町が抱える課題（地域振興）等において、相互に協力して地域社会の発展と人材育成に寄与するための連携事業を推進する。</p> <p>【沖縄キリスト教学院大学、沖縄キリスト教短期大学及び全学FD委員会】</p> <p>● 3. 「国際的平和の島」に資する「万国津梁」の精神でグローバル化を推進</p>		

<p>(1) 多文化共生を可能にする教育プログラムの強化 ③グローバル化プログラムの実質化体制確立 グローバル化教育プログラムの実質化を確保するために、外国語教授法に関する教員FDと事務的支援体制確立のためのSDを実施する。</p> <p>◆沖縄キリスト教学院大学によるFDの取り組み (1) 学力の質保証の策定 ・高大連携に準じたアドミッション・ポリシーの策定・三つのポリシーに沿ったカリキュラム見直し (2) 特別支援など、多様なバックグラウンドを持った学生の対応へ向けた体制作り (3) ハワイ研修とハワイアン・スタディーズの連携の教育実践報告会を実施</p> <p>◆沖縄キリスト教短期大学によるFDの取り組み (1) 学力の質保証の策定 ・学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）の策定（評価基準策定の研修会）・2017年度行った「ティーチング・アワード」の検証 (2) 短大教育の発展のための協議 ・短大全体としての教育の現状と課題を見据えつつ、今後の短大教育発展のために意見交換を行う。</p> <p>◆競争的外部資金獲得への取り組み 科学研究費補助金は、研究者の自由な発想に基づく研究を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であるため、研究計画調書の構成等の詳細な情報提供を行い、申請件数の向上を図るための支援を実施する。</p> <p>■全学FD研修会「入試における学習評価、シラバスと成績評価について」 ■「ティーチング・アワード」規程制定</p> <p>【沖縄キリスト教学院大学自己点検・評価・改善委員会】 【沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会】 ■教育の質保証システム構築ワーキンググループ設置</p> <p>【企画推進課】 ●4. 組織文化の変革と経営基盤の強化 (3) 経営基盤強化に向けた執行体制の強化 ④創立60周年記念事業の展開 創立60周年記念事業への取り組みを学院は先頭に立ち展開し、同窓会と後援会、自治体、企業等の協力を得ながら新キャンパス構想と改組転換事業の実現に向けた寄付金確保に向けた取り組みを推進する。</p> <p>■創立60周年記念募金実行委員会 ―修学支援のための給付型奨学金創設― ■創立60周年記念シンポジウム「キリ学、キリ短から始まる私の未来」 ■創立60周年記念コンサート「A Voi Serenita Solist Ensemble ～あなたへ～」</p> <p>◆競争的外部資金獲得への取り組み 私学助成については、私立大学等改革総合支援事業等の申請に引き続き取り組み、関係部署と連携して各種特別補助金の獲得に向け取り組む。</p>	
<p>(3) 取り組みの結果及び点検・評価</p>	<p>Do・Check</p>
<p>【学部学科等改組検討委員会】 開催実績無し。想定していた新学科長採用人事が進まず、計画が停滞した。</p> <p>【広報・地域連携推進委員会】 ●組織文化の変革と経営基盤の強化、「ブランディング広報」戦略および手法の確立について 審議実施無し。「ブランディング広報」以前に、「大学広報」の在り方について審議が必要であったが開催できなかった。</p> <p>◆西原町地域連携事業 「西原町と本学院との包括連携協力に基づく意見交換会」を4/4（水）に西原町役場において開催。本学から学長を含め7名、西原町側は町長、副町長、教育長など8名が参加。西原町より要望のあった「西原町の抱える課題（地域振興）」について意見交換を行った。その後、課題ごとに分かれ継続して意見交換会および課題解決を実施。 <英語コミュニケーション学科></p>	

- ①「グッジョブ☆にしはらわくわくワーク」を新垣誠教授・仲里和花准教授と学生で実施（就業意識向上支援）
- ②「防災・減災のための拠点づくり」を玉城直美准教授が担当する科目にて実施（災害緊急時に備えた体制強化）
1. 「国際ボランティア論」災害緊急時に備えた大学施設の体制強化に向けての取り組み
 2. 「アクションリサーチ」西原町のまちの歴史・文化に触れながら広報PR活動の展開
- <英語科>Michael Bradley 教授が担当する科目「Making a Newspaper」において、西原町を紹介した「KIRI TIME」を発行（広報活動）
- <保育科>6/29（金）保育に関する意見交換会を開催。「①地域こども・子育て支援」「②教員免許更新講習」「③保育現場充実強化に向けた支援」について意見交換を行い、下記3件の実施を決定。
- ①地域子育て支援（ワイワイプラザ）の最終講義において園長先生の講話を実施。
 - ②「教員免許更新講習」について、西原町で2名の枠を確保。
 - ③在学生に対して、保育現場へのボランティアを促進。
- <平和総合研究所>「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」共同開催（平和事業）
- <理科教育支援事業>
担当教員：内間清晴教授・照屋建太教授・高江洲義尚非常勤講師
対象校：西原町内の4小学校 担当時間：72コマ（1コマ：45分）
本事業の10周年にあたり、11/20（火）に西原町教育委員会において、内間清晴教授、大濱進教育長、島袋清指導主事、與儀直樹教諭（西原東小）の4名で沖縄タイムスの取材を兼ねた意見交換会を行った。與儀教諭より「大学のサポートはありがたい、チームティーチングで落ち着いた授業できる。」と評価して頂き、大濱教育長は「全国学力テストの理科の成績が全国や県を上回る成績が出ている。理科離れが叫ばれる中、子どもたちは目を輝かせて授業を受けている。授業向上に貢献してもらい、全体の底上げも見られる。長く続けていきたい」と感謝の言葉と継続への要望があった。

【沖縄キリスト教学院大学、沖縄キリスト教短期大学及び全学大学FD委員会】

◆沖縄キリスト教学院大学によるFDの取り組み

- ①学力の質保証の策定
- ・高大連携に準じたアドミッション・ポリシーの策定
アドミッション・ポリシーを含む、大学機関レベルにおける「三つのポリシー」を策定した。
 - ・三つのポリシーに沿ったカリキュラムの見直し
3月後期FDワークショップにおいてアセスメント・ポリシーおよび学修成果の議論をおこない、カリキュラムの問題点を共有し、見直しへ向けて、カリキュラムツリー作成の合意を図った。
- ②特別支援など、多様なバックグラウンドを持った学生の対応へ向けた体制作り
- 3月後期FDワークショップにおいて、特別支援の専門家を招いて理解を深め、体制作りに向けた議論をおこなった。
- ③ハワイ研修とハワイアン・スタディーズの連携の教育実践報告会を実施
- 3月の学科会議において、担当講師から教育実践報告を受けた。

◆沖縄キリスト教短期大学によるFDの取り組み

- ①学力の質保証の策定
- ・学習成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）の策定（評価基準策定の研修会）
9月28日（金）に短大ワークショップを開催し、その時に事前に学科長と調整の上、機関レベル・学科レベルの同ポリシーの素案を提出し、検討した。さらに、それらを教学マネジメント委員会、大学運営協議会、教授会を経て年度内に策定した。
 - ・前年度行った「ティーチング・アワード」の検証
今年度は上記アセスメント・ポリシーの作成が緊急課題であった。今年度は本件に集中した結果、「ティーチング・アワード」の検証はできなかった。次年度の課題としたい。
- ②短大教育の発展のための協議
- ・短大全体の教育の現状と課題を見据えつつ、今後の短大教育発展のために意見交換を行う。
9月28日（金）に短大ワークショップ時に、SWOT分析（特にSとW）を実施し、本学の強みと弱さについて分析した上で、意見を交換した。

■全学FD研修会

学生の自発的学習意欲を引き出す環境整備及び厳格な成績管理の実施に向けての研修を12月13日に開催した。はじめに、教学支援部長による要点の説明があり、更に理解を深めるため、関連DVDの

視聴を行った（DVD：講演「育成すべき資質・能力とは」関西大学森朋子教授）。また、厳格な成績管理の実施に向けて、教務課職員によるシラバス作成ガイドライン等の整備及び成績基準の統一を図るループリックの説明があった。その後も各教授会において審議を深めている。教育職員 28 人、事務職員 17 人が出席し、密度の濃い有意義な研修であった。

■「ティーチング・アワード」規程制定（2018/12/19）

2017 年度に行われた、「ティーチング・アワード」を検証した結果、現行の「ティーチング・アワード及び授業参観」規程を廃止し、新たに「ティーチング・アワード」規程を制定した。

◆競争的外部資金獲得への取り組み

2018 年度の実績は、「2019 年度科学研究費助成事業」への応募件数 2 件（沖縄キリスト教学院大学）、「科学研究費助成事業・分担研究」継続が 3 件（沖縄キリスト教学院大学 2 件・沖縄キリスト教短期大学 1 件）である。応募および分担研究ともに昨年より 1 件増加したが依然低い水準である。琉球大学で開催された「科研費応募説明会」に関して教員の参加者は確認できなかった。（説明会において、採択される研究計画書の作成方法などが詳しく説明される）

【沖縄キリスト教学院大学自己点検・評価・改善委員会】

【沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会】

■教育の質保証システム構築ワーキンググループの設置（2018/5/10 委員会承認）

設置の目的：第 3 期認証評価では、内部質保証システムのより一層の充実が問われることになり、大学内部で自らの提供する教育の質を確保・保証し、PDCA サイクルによって検証しながら、継続的に改善・向上させていくことが強く求められる。三つのポリシーに基づいて内部質保証システムの仕組みが確立され機能しているかどうか大きなポイントとなるため、第 3 期認証評価受審に向け、自己点検・評価・改善委員会に「教育の質保証システム構築ワーキンググループ」を設置する。

（6/5 と 6/19 の 2 回開催。）

【沖縄キリスト教学院大学大学院自己点検・評価・改善委員会】

開催実績なし

【企画推進課】

< 創立 60 周年記念事業 >

●（1）募金事業（創立 60 周年記念募金実行委員会設置 2018/2/20）

■創立 60 周年記念募金実行委員会 — 修学支援のための給付型奨学金創設 —

中長期計画では、改組転換事業に向けての寄付金を開始する計画であったが、現状、改組転換事業を目的としての募金活動は行っていない。学生支援の一環として「学生の修学支援のための給付型奨学金創設」募金事業を 2020 年 3 月まで展開している。2018 年度は、学内教職員はじめ、教会関係、同窓生を中心に募金活動を実施しているが、目標額の達成まではまだ厳しい状況にある。

（2）記念シンポジウム（創立 60 周年記念シンポジウム実行委員会設置 2018/2/15）

「創立 60 周年記念シンポジウム」を 11/10（土）にキリ学祭と共同開催

「キリ学、キリ短から始まる私の未来」のテーマのもと、基調講演とシンポジウムの 2 部構成で開催した。

第 1 部の「基調講演」は、山田真理子さん（英語科 2007 年卒業、フリーアナウンサー）にご講演頂き、第 2 部のシンポジウムでは、新垣誠教授コーディネートののもと、與儀 遙さん（保育科 2008 年卒業、すこやか未来保育園勤務）、山内 淳さん（人文学部 英語コミュニケーション学科 2008 年卒業、本大学非常勤講師）、山田真理子さんがシンポジストとして登壇され、キリ学の未来について意見が交わされた。参加者は全体で 40 名程度と少なく特に在学生の参加者が極端に少なかった。学生への周知方法として、ポスター掲示、メール配信、メールボックスへチラシのポスティング、専任教員による呼びかけなど行ったが集客には至らなかった。

（3）「創立 60 周年記念コンサート」

国際的に活躍する韓国の声楽家を中心としたグループ“A Voi Serenita Solist Ensemble”による記念コンサートが、2018 年 7 月 12 日チャペルに於いて行われた。オペラ楽曲をはじめ、讃美歌、韓国民謡等の曲が、力強い歌声と演奏により催された。集客は 84 名と少なく、広報の工夫が必要であった。収益金の一部は、本学院創立 60 周年記念募金へ寄付された。

◆競争的外部資金獲得への取り組み

私学助成については、これまで取り組んできた改革総合支援事業タイプ 1 の設問が大幅に変更されたため、得点が振るわず申請はしなかった。その他の特別補助及び新規「教育の質調査（一般補助）」の申請に取り組んだ。

	Act
(4) 次年度への課題・改善方策	
2018年度の取り組みを点検・評価した上で、2019年度は下記の事業を計画する。	
<p>【学部学科等改組検討委員会】 中長期計画において、2018年度は新学科等設置準備室を設置し、2019年度から新学科等の設置認可申請に係る事前相談を開始する計画であったが、現状、新学科等設置準備室の設置に至っていない。2019年度は新学科の申請に限らず既存学部・学科の在り方について検討し、中長期計画の見直しを図る。</p>	
<p>【広報・地域連携推進委員会】 広報について2018年度は委員会での審議は無かった。2019年度は中長期計画に掲げた「ブランディング広報戦略」を具体的に進める上で「大学広報」のあり方を検討する。 ①同委員会の機能を強化する上で、構成員を見直し入試広報についても審議を行う。また審議の結果を部局長会議に報告し連携を図る。 ②近隣自治体、団体、企業等との連携事業を拡充し、協定締結を推進する。</p>	
<p>西原町地域連携事業 西原町との包括連携協定締結に基づき依頼を受けた「西原町の抱える課題（地域振興）」について、2019年度も継続して取り組むと同時に地域社会の人材育成に寄与すべくリカレント教育を推進する。</p>	
<p>【沖縄キリスト教学院大学、沖縄キリスト教短期大学及び全学FD委員会】</p> <p>①グローバル化教育プログラムの実質化を確保するために、外国語教授法に関する教員FD [大学] 建学の精神やDPとの関係において、本学らしい「グローバル化教育プログラムの実質化」について議論する。外国語教授法の具体的な適応について議論する。 [短大] 毎学期開始前（4月上旬と9月下旬）にシャロム会館にて、非常勤講師を招いてFDを開催している。内容としては、評価方法・基準の確認、遅刻・欠席回数等の確認、教員としての振る舞い、使用教材、求めている授業のクオリティ等が話し合われる。（英語科）</p> <p>②ティーチング・アワードの実施 新たに制定されたティーチング・アワード規程に則り、9月までにアワードを選出する。</p> <p>③学生または学外者を参画させたFD委員会の開催 授業の評価改善に向けて、具体的な改善方策等について学生または学外者から意見を聴取する機会を設ける。</p> <p>④アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価のFD [大学] 成績評価の厳格化を通して、教育プログラム・機関レベルでの学修成果の向上を図る。 [短大] ・ループリック評価を導入するため、毎学期、お互いの教員のループリック評価を確認する。（英語科） ・学科会議やワークショップで点検評価し、保育科科目担当FD研修会にて共有する。（保育科） ・教養教育については「コア三科目担当者連絡会」で協議する予定であるが、2019年度の実施は「教養教育運営委員会」で協議する。</p> <p>⑤シラバス作成についてのFD [大学] シラバスの改善を通して、科目レベルでの学修成果の向上を図る。 [短大] ・毎月行われる英語科会議において、次年度に新設されている科目等のシラバスについて検討する。また、シラバスの内容が新カリキュラムに適しているか確認を行う。（英語科） ・学科会議やワークショップで点検評価し、保育科科目担当FD研修会にて共有する（保育科） ・教養教育科目については教養教育運営委員会で検討する。</p> <p>⑥競争的外部資金獲得への取り組み 科学研究費補助金は、研究者の自由な発想に基づく研究を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であるため、研究計画調書の構成等の詳細な情報提供を行い、申請件数の向上を図るための支援を実施する。2019年度は「科研費説明会」の周知を徹底し、とくに若手（准教授以下）を中心に科研費へ応募を促したい。2019年度目標応募件数：四大3件・短大3件</p> <p>⑦沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学によるFDの取り組み (1) 沖縄キリスト教学院大学 グローバル化対策教育プログラムの実質化を確保するため、「万国津梁」と「建学の精神」に基づいた地球市民・SDGs教育と外国語教授法に関する教員向けFDを実施する。</p>	

(2) 沖縄キリスト教短期大学
学習成果のアセスメント

学習成果を三つのポリシーとアセスメント・ポリシーに基づき、各学科・教養教育運営委員会において、検証（check）する。それを踏まえて、短大全体での学習成果を短大ワークショップやFD委員会等において検証する。

【沖縄キリスト教学院大学自己点検・評価・改善委員会】

【沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会】

教育の質保証システム構築ワーキンググループにおいて、アセスメント・ポリシーに基づき具体的に検証項目を定め、教育の質保証を検証し、改善につなげると同時に委員会の役割を検証し、廃止も含めた検討を行う。

【沖縄キリスト教学院大学大学院自己点検・評価・改善委員会】

次年度へ向けて在り方を検討する。

【企画推進課】

(1) 創立60周年記念募金事業

県内企業への訪問を中心に募金活動を行う。また、学内教職員、教会関係等へも継続して呼び掛けを行う。

(2) 競争的外部資金獲得への取り組み

私学助成については、改革総合支援事業タイプ1等の申請に引き続き取り組み、関係部署と連携して各種特別補助金の獲得に向け取り組む。

(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価

Check・Act

【評価点】

1. 広報・地域連携推進委員会

・中長期計画の「共創型地域連携事業の推進」について、英語コミ、英語科、保育科、平和総合研究所、理科教育支援事業のそれぞれにおいて、西原町との地域連携事業が推進されていることについて評価する。特に、理科教育支援事業は、10周年を迎え、西原長教育長より感謝と継続への要望があったことは高く評価できる。

2. 沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学および全学FD委員会

・沖縄キリスト教学院大学FDの取組みにおいて、大学機関レベルの「三つのポリシー」が策定されたことで、学力の質保証への取組みが推進されたことについて評価する。
・沖縄キリスト教短期大学FDの取組みにおいて、学習成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）の策定がなされたことにより、学力の質保証への取組みが推進されたことについて評価する。
・全学FD研修会において、「厳格な成績管理の実施に向けた」取組みとして、教務課によるレクチャーがなされ、ルーブリックやシラバス作成ガイドラインについて全学的な理解を深めることができたこと、さらに、各教授会での審議の深まりに貢献したことについて評価する。

【努力課題】

1. 広報・地域連携事業推進委員会

・「ブランディング広報戦略」についての推進を図るための、組織整備を早急に行い、「大学広報」の在り方についての具体的な審議と実行がなされることを期待する。

2. 企画推進課

・「競争的外部資金獲得への取り組み」について、教育環境や研究環境、大学運営業務への関わり等について、教員の置かれている状況を把握し、新しいアプローチでの申請増について検討してはどうだろうか。

【改善勧告】

1. 学部学科等改組検討委員会

・中長期計画の「組織文化の変革と経営基盤の強化」について、新学科等設置準備室の設置等、計画が停滞していることについては、社会的責任を勘案し、計画の修正を含めた課題解決が必要だと考える。

7. 教務課

報告者：教学支援部長 上原 明子（教務課長 真栄田 美奈）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）	
Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	Plan
（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）	
<p>● 2. 確かな思考力、実践力を育む教育研究環境の構築</p> <p>(1) キリスト教精神を基盤に確かな思考力と実践力を育む教育研究環境構築の推進</p> <p>① 確かな思考力と実践力を育む 伝統的価値観が揺らぐ社会でキリスト教精神を基盤に変革期を生き抜く問題発見力、解決力を育む確かな思考力と実践力を修得できる教育研究環境の構築を推進する。</p> <p>② リベラルアーツ型教育と専門教育の融合 リベラルアーツ型教育に関する再検討を行い、国内外の多様な舞台で活躍できるための教育研究体系の再編成、融合化を行う。</p> <p>③ 大学の使命から導かれる一貫性のある教育の確立 大学の使命・目的及び基本理念を踏まえた体系的、効果的な教育課程の構築を行い、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針を一貫性あるものとして整備する。</p> <p>④ I R 導入と教学体制拡充 I R 室を新設し、学生相談室、学習支援センターと連携させて学生生活実態調査、既存調査の結果を一元管理しP D C A サイクルを推進して学生支援の強化を図る。また、給付型奨学金を含む多様な奨学金制度を設けて学生の離籍率を4%未満に抑える。</p> <p>⑤ キャリア教育プログラムの強化 学生の多様な進路に対応可能な組織的協力関係を構築する。また、卒業後の社会的及び職業的自覚を促すためインターンシップを含むキャリア教育プログラムの拡充を図り継続的な支援に取り組む。</p> <p>● 3. 「国際的平和の島」に資する「万国津梁」の精神でグローバル化を推進</p> <p>(1) 多文化共生を可能にする教育プログラムの強化</p> <p>① グローバル化プログラムの基本方針 沖縄型グローバル化推進プログラムは多文化共生を図りながらも、そこには本学院の「国際的平和の島」拠点化構想を要にしたものでなければならず、また、その担い手養成は「万国津梁」の精神を踏まえたものであることを基本方針とする。</p> <p>② 共創型グローバル化プログラムの構築 「グローバル化プログラムの基本方針」を踏まえたグローバル化教育プログラムは優れて実践性に比重を置いたものにする。協定校派遣プログラムの充実化、留学生受入れ体制の整備、J I C A プログラムの構築など、多様なプログラムを有機的に結び付け多文化共生を実現する。</p>	

<p>◆高大連携教育等（教務課）</p> <p>【教務委員会】</p> <p>①西原高校との協定を継続実施する</p> <p>②近隣他校との協定締結について検討する</p>	
<p>(3) 取り組みの結果及び点検・評価</p>	Do・Check
<p>【教学マネジメント委員会】</p> <p>○全学的な取り組み</p> <p>①授業計画の充実を図るため、シラバス作成ガイドラインを改訂し、2019年度シラバス内容を変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナンバリングを記載。 ・授業時間外学習として、毎回の授業にかかる事前学習及び事後学習の具体的な学習内容を記載。 ・客観的で厳格な成績評価基準として、各授業科目について「ルーブリック」を導入することを明記。 ・シラバス記載内容の適正性について、カリキュラム・ポリシー及びシラバス作成ガイドラインに基づき、第三者によるチェック作業を実施。適正性に欠けるシラバスについては、内容改善を担当教員へ指示し修正を実施。 <p>②厳格かつ適正な評価を通じた単位又は履修の認定のため、成績評価において適切な基準を設定し、評価基準の統一を図った。また、「成績評価ガイドライン(学内用)」を作成し、(1)単位の認定方針(2)成績評価基準(3)GPA制度については、HP及び学生便覧で公表した。</p> <p>○沖縄キリスト教学院大学・大学院</p> <p>①沖縄キリスト教学院大学「三つのポリシー」の策定</p> <p>②沖縄キリスト教学院大学「アセスメント・ポリシー」の改定</p> <p>③英語コミュニケーション学科「学修成果」の改定</p> <p>④大学院 異文化コミュニケーション学研究科「三つのポリシー」の改定</p> <p>○沖縄キリスト教短期大学</p> <p>①沖縄キリスト教短期大学「総合教育系科目」の名称を、2019年度より「教養教育科目」に変更する。</p> <p>②沖縄キリスト教短期大学「学習成果」、「三つのポリシー」、「アセスメント・ポリシー」の策定</p> <p>③英語科、保育科、教養教育の「学習成果」、「三つのポリシー」の改定</p> <p>④英語科、保育科、教養教育の「アセスメント・ポリシー」の策定</p> <p>⑤「ナンバリング・システム」の導入</p> <p>【教務委員会】</p> <p>◆高大連携教育等</p> <p>①西原高校との協定を継続実施する</p> <p>西原高等学校と沖縄キリスト教学院大学/沖縄キリスト教短期大学との連携教育協定に基づき、2018年度前期保育科専門科目「手話Ⅰ（月曜5限）」を2人、後期保育科専門科目「手話Ⅱ（月曜5限）」を2人が受講した。</p> <p>②近隣他校との協定締結について検討する</p>	
<p>(4) 次年度への課題・改善方策</p>	Act
<p>【教学マネジメント委員会】</p> <p>○全学的な課題</p>	

- ①アセスメント・ポリシーに基づき、学修(学習)成果検証を実施する。
②ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、体系的な教育課程の構築を目指し、カリキュラム・ツリー及びマップの点検・見直しを実施する。

【教務委員会】

- ・西原高校との連携教育協定書に基づき授業科目を提供しているが、受講科目数及び人数が少ないため、提供科目を見直し、受講可能な時間帯へのクラス配置等を検討する。

(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価

Check・Act

【評価点】

- ・2019年度シラバスの内容改定に向けて、作成ガイドラインを改定し授業計画の充実を図ったこと、またシラバス記載内容の適正性について、第三者によるチェック作業を実現したことを評価する。

【努力課題】

- ・本年度の目標及び計画に挙げられているように、IR室と学習支援センターを連携させ、新規・既存調査の結果を一元管理することで、PDCAサイクルの推進・学生支援の強化を図ること。また、中途退学者・休学者および留年者への対応策を検討すること。
- ・次年度への課題に挙げられているように、アセスメント・ポリシーに基づいた学修(学習)成果の検証を遺漏なく行うこと。また、カリキュラム・ツリー及びカリキュラム・マップの点検・見直しを実施すること。
- ・ディプロマ・ポリシーを踏まえた、進級基準の策定について、検討を開始されたい。

8. 入試課

報告者：教学支援部長 上原 明子（入試課長 金城 繁正）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）	
Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）	Plan
<p>● 3. 「国際的平和の島」に資する「万国津梁」の精神でグローバル化を推進 (1) 多文化共生を可能にする教育プログラムの強化 ④入学生選抜制度の拡充 国際的素養を備えた学生、帰国子女入学のための条件を整備する。</p> <p>◆ 学生募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「オープンキャンパス」、「高校内説明会」、「業者主催ガイダンス」3本柱の強化 ・県内通信高校へのアプローチ ・高校生学び応援プログラムの強化 	
(3) 取り組みの結果及び点検・評価	Do・Check
<p>● 入学生選抜制度の拡充については、2021年度の新入試制度を構築していく中で並行して条件整備の検討を行う。今年度の帰国子女の入学者数は2名（クバサキハイスクール、ニューライフアカデミー）であった。</p> <p>◆ 今年度のオープンキャンパス参加者数は514名（前年度：737名）であった。減少した理由として、3回実施予定のうち2回が台風のためプログラムの変更や中止になったことが挙げられる。その代わりとして10月にミニオープンキャンパス（推薦入試対策講座）を実施し、50名が来校した。その内34名が3年生で17名が推薦入試を受験し合格している。</p> <p>◆ 高校内説明会と業者主催ガイダンスの参加者数は、1,143名（昨年1,783名）。今年度の高校説明会は、これまで本学のお得意様である高校を抽出し説明会を行った。結果として、県内全ての高校を回ることはできなかったが、過去4年間と比較しても同じくらいの参加者数であった。</p> <p>◆ 県内通信高校へのアプローチについては、現時点で実績がないため検討が必要である。今後の受験・入学希望者の学力等を見たうえで、通信高校の要望に応じていきたい。</p> <p>◆ 今年度の高校生学び応援プログラムは4講座であった。その内、1講座のみ実施した。</p>	
(4) 次年度への課題・改善方策	Act
<p>・各入試アンケートからもオープンキャンパスの参加が受験の決め手となっている。ここ数年プログラムも充実しており参加者から高い評価を得ている。ここで満足せず、新たな参加型の体験授業を検討していく。動員に関しては、高校訪問やガイダンス等で参加を促し、また、SNSを利用した情報の発信に努めていく。</p>	

- ・業者主催ガイダンスは、今後も継続していく。(例年同様の回数を予定)
- ・これまでも行われてきたが、高校生学び応援プログラムにも力を入れていきたい。出前講座は、各学科の“売り”や“魅力”を備えた科目とし、プレゼン力に優れた教員を選抜し対応する。できる限り高校側の要望に応えられるよう連携を図っていきたい。

(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価

Check・Act

- ・台風接近の理由により余儀なく変更や中止となったオープンキャンパスに代わり、別日に設けたり、入試課窓口で直接訪ねてくる受験希望者や保護者に対し、個別説明を行ったりなど臨機応変に対応していることを評価する。
- ・オープンキャンパスや高校内説明会、ガイダンスなどで募集活動に積極的に取り組んでいることを評価する。また、次年度の課題として挙げている「学び応援プログラムの強化」において高等学校との繋がりを強めていくことを期待する。
- ・評価基準チェックリストにある短大基準協会の設問「アドミッション・オフィス等を整備しているか」及び、「APを高等学校関係意見も聴取して定期的に点検しているか」が“未実施”と回答されているため、時期をみて検討が必要である。

9. 学習支援課

報告者：教学支援部長 上原 明子（学習支援課長 金城 雄彦）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）	
Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	Plan
<p>（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）</p> <p>●（1）組織ガバナンスの確立と危機管理の強化 ② 危機管理の強化 情報資産の安全確保のため情報セキュリティ対策を推進する。</p> <p>◆（3）リスクマネジメントへの対応 ③情報セキュリティ対策 本学が保有する情報資産の安全性の確保及び適正な運用管理を行うため、情報セキュリティに関する啓発セミナー等を定期的に SD として開催し、教職員の情報セキュリティに対する意識の向上と情報リテラシーの強化に取り組む。</p> <p>■ワンアジア財団寄附講座 本学院開学 60 周年記念事業の一環として、一般社団法人ワンアジア財団の講座開設助成金を活用し、英語コミュニケーション学科の 2018 年度後期科目「沖縄の平和への道標とアジア共同体」として開設した。さらに同講座を受講した学生の中から、学内選考基準に基づき「ワンアジア財団奨学生」の推薦者（英語コミュニケーション学科 7 人、英語科 2 人）を選考した後、同財団より奨学金（5 万円×9 人）が給付された。</p>	
(3) 取り組みの結果及び点検・評価	Do・Check
<p>●（1）組織ガバナンスの確立と危機管理の強化 ◆（3）リスクマネジメントへの対応 SD 情報セキュリティセミナー（任意参加）は 2017 年度より開催しているが、教員の参加が少なかったことから、2018 年度は情報セキュリティ委員会において審議した後、「教職協働ワークショップ（8 月 21 日開催）」のプログラムの一部に同セミナーを組み込んだことにより、全教職員が一堂に会して情報セキュリティに対する意識の向上が図れた。</p> <p>■ワンアジア財団寄附講座 それぞれの専門分野の講師陣（県内 8 人、県外 4 人、海外 3 人：計 15 人）を招聘し、オムニバス形式での講義を展開。その中の一つとして、Skype（インターネット電話）を使い、海外からリアルタイムでインタビュー形式の講義も実施した。</p>	
(4) 次年度への課題・改善方策	Act
<p>●（1）組織ガバナンスの確立と危機管理の強化 ◆（3）リスクマネジメントへの対応 情報セキュリティ対策には、ウィルス対策ソフトやネットワーク機器等のハード面の対策と、それを取り扱う人に関するソフト面の対策（情報セキュリティセミナー等の啓蒙活動）、その両方が必要だ</p>	

と考える。そのため、引き続きソフト面の対策を実施するとともに、今後は具体的なハード面の対策（例えば、学内ネットワーク及びコンピュータ機器等の脆弱性診断等）を検討していく必要がある。

■ワンアジア財団寄附講座

次年度以降も「ワンアジア財団寄附講座」の開設を目指すこととし、同講座を通じて、本学院が果たすべき社会的役割、存在意義をより進化させたい。そのためには、テーマ設定及び運営のあり方等について、違ったアプローチも必要であると考えます。

(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価

Check・Act

「SD 情報セキュリティセミナー」について 2017 年度の課題を点検・検証し、2018 年度には「教職協働ワークショップ」プログラムの一部に盛り込む事で、多くの教職員の情報セキュリティに対する意識向上に繋がった事を評価する。

ワンアジア財団寄附講座について、半年間にわたり 15 回の講座を開講した事を評価する。

「ワンアジア財団寄附講座」の在り方について、本学院が果たすべき社会的役割、存在意義を果たす事も重要であり、また本学生が履修する事で「建学の精神」を浸透させることのできる講座でもある。継続して開設することを要望する。

10. 学生課

報告者：学生支援部長 城間 仙子（学生課長 多根 宏治）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）	
Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	Plan
（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）	
◆学生支援 学生相談の整備体制 「障がい学生支援 基本方針」に基づいた支援体制の確立 学内給付型奨学金の充実 新たな給付制奨学金制度の検討（沖縄キリスト教学院 創立 60 周年記念事業として創設される奨学金）	
◆進学支援 他大学の編入学情報の充実 編入学試験への対策強化	
(3) 取り組みの結果及び点検・評価	Do・Check
【学生生活委員会】	
◆学生支援 今年度「脳性まひ」の障害を持つ新入生を受け入れることになり「障がい学生支援 基本方針」に基づき取り組んだ。専任職員を配置し、関係各部署が連携して安全かつ円滑な学生生活を受けられるように努めた。授業については教員、教務課と連携し授業の準備、教室の選択に配慮し、また学生ボランティアを中心にノートテークでサポートした。生活面では食事サポートは女性専任事務職員が持ち回りで対応。トイレサポートは男性専任事務職員がシフト制で対応。全学を挙げて取り組んだ。新たな給付制奨学金制度については新年度へ持ち越し、引き続き検討する。	
◆進学支援 積極的に進学できるよう情報提供に努め、保育科は県外の福岡女学院大（指定校推薦）2名、日本社会事業大学にも1名進学した。英語科は県内のみだが13名の編入学実績を残した。	
(4) 次年度への課題・改善方策	Act
◆学生支援 ・サークル活動の活性化：サークルや学生会と学生課との有機的な繋がりを構築していく。	
◆進学支援 ・特に英語科の編入学希望者には進路のなかに県外も視野に入れるようアドバイスしていく。 ・新たな給付制奨学金制度を引き続き検討する。	

(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価	Check・Act
<p>【評価】 障害を持つ学生への積極的な支援・指導に取り組んだことを評価する。 また計16名の編入学実績数を残したことを評価する。</p> <p>【努力課題】 サークルの活性化について検討すること。 新たな給付制奨学金制度について検討すること。</p>	

1 1. キャリア支援課

報告者：学生支援部長 城間 仙子（キャリア支援課長 仲間 末美）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）	
Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	Plan
<p>（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）</p> <p>【キャリア支援委員会】</p> <p>◆学生一人ひとりの進路・就職希望に対し、学科や他部署と連携を図りながら「学生個別支援」を行う。また、卒業後の社会的及び職業的自立という観点から、必要な能力を在学中に育むためのキャリア支援を行う。2018年度の就職支援としては、以下のとおりである。</p> <p>(1) 個別相談・個別支援：卒業年次を対象に、進路調査票を基に個別連絡及び助言を繰り返し行う。また四大3年次全員を対象に、進路や就職活動に関する相談会として個別面談を行う。</p> <p>(2) 進路セミナー：全1年次を対象に、キャリア支援課が中心となり、学生課、国際平和文化交流センター、各科と連携し開催する。各科別の卒業生（OB・OG）によるパネルディスカッションを通し、学生自身が進路について考える機会を設ける。また、セミナー終了後に、パネリストの卒業生と希望する四大4年次・短大2年次が交流する「卒業生との座談会（OB・OG cafe）」を開催する。</p> <p>(3) 就活スタートアップセミナー：英語科1年次、保育科2年次を対象に、各科別に就活スケジュールの流れや就活開始までに必要な準備についての講話等を行う。</p> <p>(4) キャリア&アカデミックプランニング講座：四大3年次を対象に、就職活動と学修の両立を目指しながら、在学中から卒業後までのキャリアプランを考える講座を学科と共同で開催する。</p> <p>(5) 就職ガイダンス（Tcafe）：少人数グループ向け就職ガイダンス（Tcafe）を適宜開催する。就職活動の準備として必要な様々なテーマで、年間を通し企画・主催する。</p> <p>(6) 就活体験合宿：四大3年次・短大1年次を対象に、就職活動で行われる一連のイベント（業界・企業研究、エントリーシート・履歴書作成、筆記試験、集団面接、グループディスカッション等）を体験する合宿（1泊2日）を開催する。</p> <p>(7) 業界・企業研究（業界研究cafe）：四大3年次・短大1年次を対象に、学生が業界や企業への理解を深め、興味を広げる機会を提供する。</p> <p>(8) 学内企業説明会：過去の就職実績等を踏まえ適宜開催する。また、学内小規模合同企業説明会として「マッチングcafe」を開催する。</p> <p>(9) 各種資格取得対策講座の開講、資格取得奨励：資格取得対策として、「英検対策講座（準1級、2級）」、「TOEIC対策講座」、「日本語検定対策講座（3級）」を開講する。また、在学中の資格取得を奨励する目的で、英語に関する資格取得奨励金を給付する。</p> <p>(10) 採用試験対策：採用試験対策として、「公務員・SPI試験対策講座」を開講する。一般常識模擬試験、SPI対策も適宜実施する。</p>	

- (1 1) 講義との連携：キャリア教育プログラムを段階ごとに効果的に実施することを目的に、キャリア関連授業との連携を図る。四大「キャリア開発演習」、短大「フレッシュマン・セミナー」、「キャリアガイダンス」、「文系学生のための基礎数学演習」と連携し、企業による講話や、就職ガイダンス、模擬試験等を行う。また、短大英語科2年次対象の新設科目「キャリア・レッスン」において、担当教員とキャリア支援課が協力しプログラムを実施する。
- (1 2) 保護者向け就職情報の提供：本学の就職状況や、保護者のかかわり方等を理解してもらうことを目的に、就職ガイダンスを開催する。
- (1 3) 県外就職促進事業：県外就職を希望する学生の経済的負担を軽減することを目的に、県外で就職活動を行ってきた学生に対し、2万円の助成金を支給する。（年度1回限り）

(3) 取り組みの結果及び点検・評価

Do・Check

【キャリア支援委員会】

◆学生一人ひとりの進路希望に対し『個別支援』を行い、実施した主な事業の概要は以下のとおりである。

<主な事業実施状況>

① 個別面談・個別支援

卒業後の進路希望を調査（1年次6月、卒業年次4月）し、卒業年次を対象に進路希望先に応じた個別相談及び助言を繰り返し実施した。また、沖縄県派遣の専任コーディネーター（本学常駐）2人と連携し密着支援を行った。

四大3年次対象「就活パーソナルメニュー相談会」を11月に開催し、就活や進路に関して学生一人ひとりと話し合う個人面談を88（63）人に対し実施した（2017年度より）。

②進路セミナー

全1年次を対象にした進路セミナーを6月に実施した。大学4年間、短大2年間の学生生活を見据え、学生課、国際平和文化交流センター、学科と連携し、学生自身の進路（就職、進学、留学等）について考える内容とした。各科別に卒業生（OB・OG）によるパネルディスカッションを実施し、全体参加率は92.4（85.8）%前年より6%増加した。

③ 就活スタートアップセミナー

短大・英語科1年次（7月）、保育科2年次（4月）を対象に、就活スタートアップセミナーを各科別に実施した。セミナーでは、就活スケジュールの流れや就活開始までに必要な準備についての講話等を行い、英語科ではV R Tカードを使用した職業興味検査による自己分析を行った。

④ キャリア&アカデミックプランニング講座（2017年度より）

四大3年次を対象に、就職活動と学修の両立を目指し「キャリア&アカデミックプランニング講座」を10月に開催し、85人が受講した。キャリア支援課と英語コミュニケーション学科が共催し、卒業後の社会的・職業的自立に必要な能力を在学中に育むための気づきとなる講座として、「キャリアプラン表」の作成や、卒業研究スケジュールと重ねた就職活動の流れの確認、「社会人基礎力」の解説、また4年次就職内定学生によるパネルディスカッションを実施した。

⑤ 就職ガイダンス（Tcafe）

キャリア支援課スタッフ主催、少人数グループ向けの就職ガイダンス（Tcafe）を実施した。「業界研究講座」「エントリーシート・履歴書対策講座」「キリ学・キリ短生の英語力&コミュニケーション

力を活かせる業界とは？」「内定者の話を聞こう」など全32（15）回開催し、就職活動の準備に取り組む学生を支援した。

⑥ 就職体験合宿

四大3年次、短大1年次を対象に、1泊2日の就活体験合宿を12月に実施し、28（29）人（四大17（20）人、短大11（9）人）が参加した。企業4社が参加する業界研究や就職活動で実施される一連のイベント（説明会、履歴書・ES作成、筆記試験、集団面接、グループディスカッション）を体験し、自信を持って今後の就職活動に臨むことができることを目的とした。

⑦ 業界研究 cafe

企業人事担当者と気軽に情報交換ができるようラウンジのテーブルを囲んだ業界研究Cafeを4回開催し、企業7社、学生61（53）人（四大3年次34（43）人、短大1年次12（10）人）が参加した。

⑧ 学内企業説明会の開催

(1) 学内企業説明会/就職説明会

学内企業説明会及び保育科向け就職説明会を開催し、学生233人（323人）（四大56（127）人、短大177（196）人）が参加した（参加企業20（40）、参加施設等45（42））。

(2) マッチングCafe

卒業年次で就活中の学生を対象に、採用活動中の企業とのマッチングCafe（学内小規模合同企業説明会）を1（2）回（10月）開催した。企業2（5）社が参加し、14（42）人（四大4（20）人、短大10（22）人）の学生が参加した。

⑨ 各種資格/試験対策講座の開催

(1) 英検対策講座

2級（年2（3）回）：29（43）人（四大14（27）人、短大15（16）人）、準1級（年3回）：28（32）人（四大23（27）人、短大5（5）人（内訳：英語科4人保育科1人））が受講した。

(2) TOEIC対策講座

年2回開講し、25人（四大21人、短大4人）が受講した。

英検、TOEICを含め英語系資格取得者のべ40（103）人（四大25（73）人、短大英語科12（29）人）、保育科3（1）人に対し、資格取得奨励金を給付した。

(3) 日本語検定3級対策講座

年2回開講し、24（15）人（四大16（11）人、短大8（4）人）が受講した。3級認定者は、四大5（4）人、短大1（1）人であった。

⑩ 採用試験対策

(1) 公務員・SPI試験対策講座

年1（3）回開講し、13（36）人（四大1（11）人、短大12（25）人）が受講した。

(2) 公務員採用試験（保育士・幼稚園教諭専門試験）対策講座

1次対策は年4日間開催し、保育科学生3（16）人、卒業生7（12）人が受講した。2次対策は年3日間開催し、保育科学生3（11）人、卒業生2（1）人が受講した。

(3) 一般常識模擬試験

四大「キャリア開発演習」、短大「キャリアガイダンス」の授業やTcafe等で一般常識模擬試験を実施し42人（四大27人、短大15人）が受験した。

(4) S P I 模擬試験

短大「文系学生のための基礎数学演習」の授業やTcafe等でS P I 模擬試験を実施し64（81）

人（四大6（30）人、短大58（51）人）が受験した。

⑪ 講義との連携

四大「キャリア開発演習」、短大「フレッシュマン・セミナー」、「文系学生のための基礎数学演習」等と連携し、企業研究や模擬試験等を行った。また、短大・英語科新設科目「キャリア・レッスン」において、担当教員とキャリア支援課が協力し15コマ（週）のプログラムを実施した。

⑫ 保護者向け就職情報の提供

- (1) 4月1日入学式後、新入生の保護者向け就職ガイダンスを実施。
- (2) 11月キリ学祭に合わせ、保護者向け就職活動セミナーを開催し、保護者33人が参加した。大学の就職状況及び支援内容、就職スケジュール等の情報を提供し、内定者報告会を実施した。

⑬ 県外就職促進事業

県外就職を目指す学生の経済的負担の軽減を目的とした県外就職促進事業（助成金）は、30（30）人（四大20（18）人、短大10（12）人）の学生が利用した。

<就職・キャリア支援状況総括>

全学科で就職内定率が9割を超え、引き続き好調を維持している。特に保育科は、就職内定率が高水準を維持し、正規雇用率が6割を超えるなど大幅に改善されている。ゼミや授業と連携した講義で就活を意識付けたことで就職希望率が増加した。また、電話や面談による丁寧な個別指導・個別密着型支援を行うことで、キャリア支援課における相談体制が認知された。県派遣の専任コーディネーターと連携した相談体制を確立し、在学中および卒業後のライフデザインを共に考える居場所として、キャリア支援課が学生に認識された。

表1. 就職状況（2019年5月1日現在）（ ）内は2017年度

	就職内定率	就職希望率	進路未定率
英語コミュニケーション学科	91.0% (96.6%)	80.4% (73.4%)	0% (0%)
英語科	91.3% (93.5%)	54.8% (55.4%)	0% (0%)
保育科	98.2% (97.8%)	93.4% (89.1%)	0% (0%)
(短大全体)	96.2% (96.3%)	77.6% (73.9%)	0% (0%)

※正規雇用率：英コミ学科 90.1%（前年 80.6%）、英語科 73.8%（前年 74.4%）、保育科 64.9%（前年 39.8%）

表2. 資格取得奨励金給付実績（各レベル1回のみ申請可能）（ ）内は2017年度 ※延べ人数

支給対象資格	大学・大学院	短大	合計
実用英語技能検定1級	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
準1級	4人(10人)	0人(0人)	4人(10人)
2級	4人(20人)	10人(17人)	14人(37人)
TOEIC 900点以上	0人(1人)	2人(1人)	2人(2人)
740 (700) 点以上	7人(14人)	2人(3人)	9人(17人)
600点以上	9人(8人)	1人(1人)	10人(9人)
500点以上	1人(2人)	0人(3人)	1人(5人)
TOEFL-CBT50-253点 or PBT470-610点以上	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
スコアUP300点以上 (2018廃止)	0人(2人)	0人(2人)	0人(5人)
スコアUP200点以上 (2018廃止)	0人(7人)	0人(3人)	0人(10人)

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価シート編

スコアUP100点以上 (2018廃止)	0人(8人)	0人(0人)	0人(8人)
合 計	25人(73人)	15人(30人)	40人(103人)

(4) 次年度への課題・改善方策	Act
<p>【キャリア支援委員会】</p> <p>2019年度も引き続き、学生一人ひとりに対し、きめ細かい『徹底した個別支援』に取り組む。学科との連携については、学部生に対する低年次（1,2年）向けガイダンスを開催し、経年経過（学生の変化）を把握し卒業時期のキャリア支援に繋げるシステムの構築を目指す。また、保育科向けガイダンスの参加者が減少しており、参加率向上を図るため学科と密に連携していく。特に、2021卒学生（現1年次）は、東京オリンピック、パラリンピック開催時期の就職活動となるため業界研究・企業研究の支援プログラム実施時期及び内容の見直しを図り学生に不利にならないよう支援する。</p>	
(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価	Check・Act
<ul style="list-style-type: none"> ・「学生一人ひとりの進路・就職希望に対し、学科や他部署と連携を図りながら「学生個別支援」を行う。」をテーマに掲げ、多く事業を実施した事を評価する。 ・全学科で就職内定率が9割を超え、保育科に関しては、正規雇用率が6割を超えた事を評価する。 ・ゼミや授業と連携した講義で就活を意識付けた事、また、電話や面談による丁寧な個別指導・個別密着型支援を行うことで、就職率のみならず進路未決率が0%という結果が出ている。県派遣の専任コーディネーターと連携した相談体制等、個別指導が徹底されている事を評価する。 ・在学期間中、途切れる事のない就職支援と事業の周知徹底を要望する。 	

12. 図書課

報告者：図書館長 内間 清晴（図書課長 渡慶次 智子）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）		
Check		
※2018年度は空欄となります。		
(2) 本年度の目標（方針）及び計画（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）		Plan
<p>【図書館委員会】</p> <p>◆①2015年度から取り組んでいるプログラムにおいて、学生の学習向上のための授業支援を行う。また、新規授業支援として2017年度から『絵本deブックトーク』、2018年度から四大の『1年次終了までに読みたい図書100冊』および短大の『1年次終了までに読みたい図書150冊』を追加する。</p> <p>（ア）『文献検索セミナー』では、図書館司書が講師となって、図書館の資料検索方法・データベース利用法等を指導している。論文作成の基礎的な知識・技能が前年学生に比べ向上していると報告を受け、3年次前期から学期ごとに初級・中級・上級編と段階的に習得できるよう企画し、理解が深まるような支援を実行する。</p> <p>（イ）英語コミュニケーション学科通年科目「フレッシュマン・セミナーⅠ」、英語科前期「フレッシュマン・セミナー」、保育科前期「表現技法」において、新入生を対象に図書館利用法を学んでもらう図書館ツアーを実施。また、ツアーにおいて『1年次終了までに読みたい図書100冊（短大では150冊）』リストおよび読書記録用紙を配布し、授業科目と連携して図書館利用を促す。</p> <p>（ウ）学生が本と出合える機会を作ることを目的に始めた『ビブリオバトル』では、英語科科目「プレゼンテーション概論」、英語コミュニケーション学科科目「卒業基礎研究」との連携で開催している。新規科目との授業連携を試みて認知度を高める。</p> <p>（エ）『絵本読み聞かせ講座』では、読み聞かせ技能や表現力の向上を目指して、2年次夏季休暇前に開催した。開催時期を検討した結果、保育所実習Ⅰの実習前の5月に開催し、実習先で技能を活用できるよう計画する。</p> <p>（オ）『絵本読み聞かせ講座』の準備講座として、2017年度から新たに『絵本deブックトーク』を保育科学生向けに開催した。児童館等でボランティア活動をする他学科学生の参加者も居り、2018年度からは、幅広く技能が習得できるよう対象学科を限定せず開催する。</p> <p>②県内唯一の「キリスト教系大学」としての存在意義を学内外へアピールするため、より一層キリスト教関連資料の収集について積極的に実行する。</p> <p>③数年継続してきたキャリア支援課と図書館が協力企画している春の「キャリアフェア」および国際平和文化交流センターも加えた「秋のキャリア&留学」フェアを開催する。フェア期間中、両課担当者による図書館内での講座も継続する。</p> <p>④海外データベースのさらなる利用促進を図るため、大学院生およびFD活動の一環とした教員対象の講習会を開催。英語で卒論を書く学部生の参加もあり、時期や時間を検討し継続して開催する。</p>		

- ⑤2016年度から開始した「図書館を活用した学習支援」が学生に認知され、多くの利用者がレポートの書き方、新聞要約、勉強方法、卒論構成、先行研究などの学習支援を受けた。学生サポーターを募集し継続して支援を行う。
- ⑥図書館アルバイト学生を、私学事業団補助金を活用した学内ワークスタディ学生（WS学生）として採用し、図書館の補助的業務を担ってもらおう。
- ⑦ラーニングコモンズとして、静かな閲覧学習環境を整えるとともに、自由に議論できる場を提供する。自学自習ができる快適かつリピート利用を誘導するような、空間づくりをする。また、学生が集う場となり、学習の質的向上を実現させる計画を立て、補助金獲得を継続し推し進める。

(3) 取り組みの結果及び点検・評価

Do・Check

【図書館委員会】

◆①2015年度から取り組んでいるプログラムにおいて、学生の学習向上のための授業支援を行った。また、新規授業支援として2017年度から『絵本deブックトーク』、2018年度から四大の『1年次終了までに読みたい図書100冊』および短大の『1年次終了までに読みたい図書150冊』を追加した。

(ア) 『文献検索セミナー』では、図書館司書が講師となり、図書館での資料検索方法・データベース利用法等を指導する取り組みを実施した。2018年度は前期実施期間に初級編70人、中級編18人、上級編17人が参加者したが、後期は応募者がいなかったため実施しなかった。募集に対して応募件数が減少傾向にあるという結果がでた。以上のことから参加者増の対策が必要だと考える。

(イ) 英語コミュニケーション学科1年次通年科目「フレッシュマン・セミナーⅠ」、英語科1年次前期「フレッシュマン・セミナー」、保育科1年次前期「表現技法」において、新入生を対象に図書館の利用法を学んでもらうことを目的に図書館ツアーを実施した。前半部分ではパワーポイントを利用し図書館の概要や利用方法を説明するなど工夫を加えた。その際に『1年次終了までに読みたい図書100冊（短大では150冊）』のリストおよび読書記録用紙を配布し、授業科目と連携した図書館利用を促す取り組みを行った。各学科教員の協力によりスムーズに実施された。

(ウ) 学生が本と出合える機会を作ることを目的に始めた『ビブリオバトル』では、総合教育系科目「文学と読書」、英語コミュニケーション学科科目「フレッシュマン・セミナー」および「卒業基礎研究」と連携し開催された。今年度は図書館への直接応募者もいて、活気のあるイベントとなった。

(エ) 『絵本読み聞かせ講座』は、読み聞かせ技能や表現力の向上を目指し、2年次の「保育所実習Ⅰ」の前に開催した。前半部分を講義形式、後半を演習形式で行い終始リラックスした参加型の講座となった。学生からの評価も高く、再開希望の声も多く寄せられた。

(オ) 『絵本読み聞かせ講座』の準備講座として、2017年度から新たに『絵本deブックトーク』を保育科学生向けに開催したが、2018年度においては図書館のスタッフ不足もあり予定していた1月に開催することができなかった。

②キリスト教関連資料の収集については、宗教部長およびキリスト教平和総合研究所所長に協力していただき推薦する本を積極的に購入した。また、キリスト教関係書店へも直接選書に行った。

③数年継続してきたキャリア支援課と図書館が協力企画している春の「キャリアフェア」および国際平和文化交流センターも加えた「秋のキャリア&留学」フェアを開催した。フェア期間中、両課担当者による図書館内での講座も実施した。講座開催の告知から講座当日までの期間が長かったためか申込者の当日キャンセルが多く見受けられた。講座内容は充実していたが、参加者が少なかったことが反省材料としてあ

げられる。

④今年度は、海外データベースに特化した講習会の開催を見送った。理由は「文献検索セミナー」との内容重複および参加希望者の減少のためである。次年度からの開催については英語で卒論を書く予定の学生へ焦点を当てて開催希望の確認を実施できるように外国人の先生方との連携を図りたいと考える。

⑤「図書館を活用した学習支援」に関しては、新規で「学習支援課」が設置されたため、実施しなかった。今後は学習支援課と連携し引き続き学生のサポートをしていきたいと考える。

⑥図書館アルバイト学生の多くを、学内ワークスタディ学生（WS学生）として採用した。採用時には「学内ワークスタディ申請書」を作成し保管している。図書館業務に従事することにより、職業意識および職業観を育てられるよう指導にも気を配った。経済的事情を持つ学生の支援として今後も継続していきたいと考える。

⑦ラーニングコモンズとしての活用を目指し、総合的な自主学習のための環境を確保した。グループ学習や小規模の討論会が開けるような環境として利用されている。

(4) 次年度への課題・改善方策

Act

【図書館委員会】

◆①図書貸出しの利便性および本・雑誌・視聴覚資料の利用に焦点を当て、改善に取り組む。

(ア) 『文献検索セミナー』では、図書館司書が講師となり、図書館での資料検索方法・データベース利用法等を指導する取り組みを実施予定。但し、募集に対する応募件数が減少傾向にあるので、学生支援充実のため、募集方法の再検討を行うとともに実施内容や時期等について教員の意見を求めていく必要があると考えている。

(イ) 新入生対象の図書館ツアーは、各学科教員の協力によりスムーズに実施された。今後の課題としては、『1年次終了までに読みたい図書100冊（短大では150冊）』の「読書記録用紙」を間違えて図書館へ提出に来る学生がいたので、教員との連携を密にして学生へのアナウンス体制を向上させたいと考えている。

(ウ) 『ビブリオバトル』開催における今後の課題としては、図書館独自で説明会を開くなど事前告知に力を入れることを検討していきたいと考える。新規科目との授業連携の試みも継続して行いたい。

(エ) 『絵本読み聞かせ講座』は、学生からの高評価を得ているが、運営内容の更なる向上をめざし、今後も研究を重ねてゆきたいと考える。

(オ) 2018年度は図書館のスタッフ不足もあり、『絵本deブックトーク』を開催することができなかったが、次年度に向けては、『絵本読み聞かせ講座』前に開催できるよう検討したい。

②キリスト教関連資料の収集については、引き続き宗教部長およびキリスト教平和総合研究所所長に協力していただき推薦する本を積極的に購入したい。また、キリスト教関係書店へも直接訪問し、選書をしていきたいと考える。

③これまで続けてきたキャリア支援課と図書館の協力企画「春と秋のキャリアフェア」については、実施スタイルの見直しが必要であると考えている。課題として、講座開催の告知から講座当日までの期間が長かったためか申込者の当日キャンセルが多く見受けられた。講座内容は充実していたが当の参加者が少なかったことが反省材料としてあげられる。次回からはフェアの実施スタイルについて見直す必要があると考える。また、国際平和文化交流センターとの協力で実施してきた「秋の留学フェア」についても実施スタイルを再検討する必要があると考える。

<p>④「文献検索セミナー」との内容重複および参加希望者の減少のため、海外データベースに特化した講習会の開催を見送った。次年度からの開催については英語で卒論を書く予定の学生へ焦点を当てて開催希望の確認を実施できるように外国人の先生方との連携を図りたいと考える。</p> <p>⑤学習支援に関しては、学習支援課と連携し図書館ができるサポートを検討していきたい。</p> <p>⑥私学事業団からの補助金獲得を視野に入れ、図書館アルバイト生の全員を学内WS学生で採用したかったが実現できなかった。学内ワークスタディに関する情報がほとんど認知されておらず、WS学生バイト募集の案内に関心を示す学生が少ないと感じた。今後は掲示物に工夫を加え認知度の向上に努めたい。図書館業務に従事することにより、職業意識および職業観を育てられるよう指導にも一層気を配る必要がある。経済的事情を持つ学生の支援として今後も継続していきたいと考える。</p> <p>⑦ラーニングコモンズとしての活用を目指し、総合的な自主学習のための環境を確保した。グループ学習や小規模の討論会が開けるような環境として利用されている。今後は、授業との連携を深め活用の幅を広げていきたい。</p>
<p>(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価 Check・Act</p>
<p>学生の学習向上のための授業支援に向けて多くのプログラムを実施したことを評価する。</p> <p>『ビブリオバトル』について、学生からの評判も良く学生が本と出合える機会に大きく貢献している。『絵本読み聞かせ講座』は授業とも連携し、卒業後の就職先でも役に立つ講座なので、今後も実施して頂きたい。</p> <p>「春と秋のキャリアフェア」及び「秋の留学フェア」について、学生自身がキャリア形成を意識する事で学習意欲の向上に繋がるので、今後も検証を重ね開催して頂きたい。</p> <p>卒論作成に際し文献検索は重要であり、学習支援の視点からも学科及び担当教員との連携強化に努めて頂きたい。</p> <p>図書館アルバイト生について、学内WS（ワークスタディーズ）学生での採用を促進して頂きたい。職業意識及び職業観も育まれるが、本学の厳しい財政状況の中、補助金対象となる事業については積極的な活用を要望する。</p> <p>図書館の利用者を増加させるべく、資質向上に向けて各種プログラムの実施と同時にラーニングコモンズによる環境整備も併せて検討して頂き、利用者の満足向上に努めて頂きたい。</p>

13. 宗教部

報告者：宗教部長 金 秀永

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）		
Check		
※2018年度は空欄となります。		
(2) 本年度の目標（方針）及び計画（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）		Plan
<p>● 1. 「建学の精神」の継承発展に向けて</p> <p>(1) キリスト教主義平和教育の拠点形成</p> <p>① キリスト教主義平和教育の実践と実質化 仲里朝章文庫の完成を機にキリスト教主義平和に基づく「建学の精神」の理解と深化を促すため、キリスト教系大学との学生交流、体験型平和学習、視聴覚教育手法を駆使した学びの実質化を図る。</p> <p>② 「建学の精神」の多角的学びの導入 沖縄の戦後社会への本学院の係わりと平和に関する解釈の多様性の実情を踏まえ、学びの柔軟性への配慮と工夫を凝らし「建学の精神」の継承発展への道筋を整え大学運営と教育現場への浸透を促す。</p> <p>③ 自校史教育導入と多様なプログラムを通じたキリスト教主義平和学の深化 キリスト教主義平和学の深化を図る一環として、新入生オリエンテーションの平和学習や月曜礼拝の運営方式を見直す一方で、沖縄キリスト教学院史を通じた自校史教育導入を通して学習者の想像力の覚醒を促す平和学の実質化を図る。</p> <p>(2) 宗教部、沖縄キリスト教平和研究所、日本基督教団沖縄教区の連携強化と学院附属教会設置</p> <p>① 宗教部と沖縄キリスト教平和研究所間の連携強化 宗教部と沖縄キリスト教平和研究所の連携を強化し学生及び地域社会へのコミットメントを強化する。また、日本基督教団沖縄教区との連携を見直し学院発展に向けた協力関係を構築する。</p> <p>◆ 本学建学精神周知の要として、毎週執り行われる月曜礼拝、キリスト教週間・キリスト教講演会と建学の精神懇談会、そしてクリスマス礼拝の充実発展を継続しておこなう。平和プログラムとしては、サマー聖書キャンプをもって沖縄と戦争の学びをおこなう。アジアフレンドシップアワーでは、県内のアジアと関係する教会との交流により異文化理解と平和、そして、より広いキリスト教理解をはかる。教務・学科との協力で自校史教育に着手する。キリスト教平和研究所とそれぞれ平和活動の在りかたを模索検討する。宗教部長が地域の教会での説教奉仕を行うことにより、諸教会との宣教的連携を密にしているが、母教会組織である日本基督教団沖縄教区との関係強化と学院教会設置についてはそのような活動と協議の中で検討する。</p>		

<p>(3) 取り組みの結果及び点検・評価</p> <p>●(1) ①サマー聖書キャンプにおいて、本学院誕生の地である日本基督教団首里教会の歴史を学び、さらに体験型平和学習として同キャンプで、那覇新都心キリスト教会の岡田有右牧師の案内で、ホームレス支援のための夜回りを体験することができた。</p> <p>●(1) ②「建学の精神」の継承発展として、2018年度前期のキリスト教講演会と「建学の精神」ワークショップ（懇談会）において、本学院第二代学長夫人平良悦美氏をお迎えし、学院創立初期の頃のお話を伺うと共に、沖縄の過酷な状況の中でキリスト者として生きる信仰の在り方を示された。</p> <p>●(2) 宗教部、沖縄キリスト教平和総合研究所、日本基督教団沖縄教区の連携強化に関して、後期キリスト教週間では、沖縄キリスト教平和総合研究所、沖縄YWCA、日本YWCAの協力のもと、イスラエル人家具職人・平和活動家ダニー・ネフセタイ氏の講演会を開催することができた。「憲法のない国」イスラエルから来日した講演者が、軍隊の本質を深く洞察し、日本の平和を訴え、学生たちの平和創造への共感を促すものとなった。</p> <p>◆毎週執り行われる月曜礼拝においては、学生企画礼拝で賛美礼拝をはじめ、礼拝の意味を学ぶプログラムを学生宗教委員（Hope）が中心となって発案、今年度後期の礼拝では学生宗教委員長がメッセージを行った。また、演劇で平和を考えるプログラム、海外研修プログラム報告など学生宗教委員以外の学生も多数参加した。クリスマス礼拝では、創立60周年記念として本学院第二代学長がメッセージを行った。</p> <p>2018年2月に開催されたアジアフレンドシップアワーは、インドのナガランド出身の牧師が牧会する「沖縄第1バプテスト教会」の礼拝で特別讃美の奉仕をし、交流会ではカレー等を頂きながら、インドとマイノリティーのナガ族をはじめ世界各地の礼拝について学びを深めた。その後の宗教委員会で「沖縄・アジアフレンドシップアワー」と改称（沖縄とアジアの両方に軸を置くこととなった）。</p>	<p>Do・Check</p>
<p>(4) 次年度への課題・改善方策</p> <p>●次年度も、基本的な活動内容については従来のプログラムを踏襲して「建学の精神」を明確に表すことを期す。</p> <p>●「サマー聖書キャンプ」では、長崎の活水女子大学との交流による平和学習を予定している。また、「前期キリスト教講演会」では、「ロヒンギャ難民の現状報告」の講演を企画し、アジア地域の学びを深め、沖縄・アジアの平和を考える機会としたい。</p> <p>◆前年度から引き続き、学生宗教委員会の活動の活性化が課題であるが、学生のアルバイトなどによりサークル活動が思うようにいかないのが現状である。再開した学生宗教委員会によるコイノニアサークルの活動をどう支えていくかが問われている。</p>	<p>Act</p>
<p>(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価</p> <p>【評価点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を浸透させるため、本学院第二代目学長等を招聘した講演を、大きく評価する。 ・地域に限定されることなく国際的視野を持ち、多様な体験活動をしている点は、大きく評価する。 ・学生宗教委員（Hope）を中心として発案した月曜礼拝プログラムについて、評価する。 <p>【努力課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、国際的な視野を持ち活動していることの他に、本学の学生の置かれている状態も視野におき、プログラムを検討する必要がある。 	<p>Check・Act</p>

- ・学生宗教委員（Hope）を中心として発案した月曜礼拝プログラムについて、本学の建学の精神を踏まえた活動になっているかチェック項目を設けた方法を検討する。
- ・新入生や新採用職員等について建学の精神を浸透させるプログラムを個別に検討する。
- ・他大学のキリスト教系の大学との連携強化について、具体的に検討する。
- ・学内外にかかわらず、建学の精神の理解を深化させる、本学のホームページ等も積極的に活用する方策を検討する。

1 4. 国際平和文化交流センター

報告者：国際平和文化交流センター長 城間 仙子（学生課長 多根 宏治）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）	
Check	
※2018年度は空欄となります。	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	Plan
（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）	
【国際平和文化交流委員会】	
◆（1）「ハワイ研修」「海外幼児教育研修」については、両研修における語学学習や施設見学、異文化コミュニケーション学習等のプログラム内容を充実させ、本学での学びを実践する海外体験学習プログラムとしての性格を強く打ち出していく。各学科、及び学習支援センターと連携し、事前事後の学習体制をさらに強化し、学生の視野を広げ、学習意欲の向上を図る。	
（2）夏季に実施する「台湾研修」を引き続き実施する。派遣先は従来どおり協定校の長栄大学である。英語で中国語、中華文化を学び、長栄大学の教職員や学生、地元の台湾人との交流が実現できる極めてユニークなプログラムである。春季研修の海外研修（ハワイ）と同じく、関係部署と連携し、事前事後学習体制を強化し、学生の視野を広げ、学習意欲の向上を図り、事後の学びに繋げる。	
（3）海外留学（送り出し）に関し、引き続き、個別カウンセリングを強化し学内留学奨学金制度の解説、周知に努め、学生の留学に対する意識改革を図る。特に、留学前オリエンテーションを充実させ、学生が主体的に留学先で学ぶことができるように支援する。	
（4）外国人留学生受入れ態勢については、2018年度も「沖縄の歴史・文化を学び、発信する力の養成」「本学の建学の精神に触れながら、様々な人とコミュニケーションを深め、交流しあい、国際平和に寄与する人づくり」を活動のテーマとして、「-ix-国際交流友の会」活動の活性化を更に進めていく。「沖縄の歴史文化学習会」をはじめ、学内・学外の国際的行事を企画・実施し、外国人留学生と日本人学生との交流を深化させる。	
(3) 取り組みの結果及び点検・評価	Do・Check
【国際平和文化交流委員会】	
(1) ハワイ研修・海外幼児教育研修	
2019年2月に実施し、英コミから5人、英語科から6人、保育科から13人の参加があった。研修に備え、各学科と連携した各種ミーティング・説明会等を複数回実施した。事前学習については、授業「ハワイアン・スタディーズ」を中心に取り組み形式とし、より綿密な準備が成されるよう整えた。現地のプログラムでは、英語での特設授業をはじめ、タロイモ栽培やレイ作り、沖縄県人系移民との交流等、体験型学習を充実させた。英コミ・英語科対象のプログラムとして、リゾートホテル等の施設見学、ホスピタリティの講義をとおり、ハワイと沖縄の観光産業の比較ができた。保育科対象のプログラムでは、ハワイ語のみで授業を展開する幼児教育施設等の見学・交流があり、海外の幼児教育に直に触れ、見識を深めた。	

(2) 台湾研修

2018年8月に実施し、英コミから10人、英語科から4人の学生が参加した。英語科と連携し、事前学習会や各種ミーティングを実施し、研修に備えた。研修中における中国語学、台湾文化等の授業で 사용되는言語は英語であり、本研修の特徴である。更に沖縄の歴史文化を英語で発表するプログラムもあり、参加学生は実践的な英語力を磨くことができた。また、現地学生がボランティアとして参加学生をサポートし、現地学生の家ホームステイする機会もあり、友情の深まる国際交流が達成された。加えて、台湾各地の施設見学も行程として盛り込まれ、多角的に台湾を学ぶ機会となり、総じて充実した内容となった。

(3) 海外留学（送り出し）

留学相談件数は2017年度では延べ227件となった。留学相談の段階から、学生と密にコミュニケーションを図り、留学の目的を明らかにし、留学後の進路も視野に入れ、計画的で質の高い留学が実現できるよう、丁寧な指導を行った。加えて、留学先への入学手続き、ビザ申請に関しても、助言、補助を行った。また、年度を通し、海外留学に関するセミナーやランチ会を以下のとおり実施した。

- ・留学セミナー：4月、10月の2回実施した。春（4月）のセミナーでは、55人の参加があり、学生による留学体験談や学内留学奨学金紹介を中心に、質の高い留学を達成するよう啓発した。秋（10月）のセミナーでは、9人の学生の参加があり、留学体験談に加え、海外大学の留学手続きに係る情報収集の方法についてレクチャーした。

- ・留学経験者とのランチ会：留学経験者と相談者の情報交換、交流の場とした。4月に規模の大きいランチ会を実施し、25人の参加があった。その他、学生の希望があれば、適宜プチランチ会を開いている。

- ・進路セミナー：6月に実施。1年次学生を対象に、留学経験と就職の関連性についてレクチャーした。

- ・オープンキャンパス：6月2日（第1回）、6月27日（第2回）に実施。高校生等を対象としてセミナーとした。本学の海外留学・海外研修、奨学金制度について紹介した。第1回は23人、第2回は10人の参加があった。

- ・出発直前オリエンテーション：8月、2月に実施。学内留学奨学生を中心に、留学生としての心構えや各種事務連絡に加え、海外危機管理についても注意を促し、外務省管轄の海外滞在邦人向けの安全管理システム（「在留届」、「たびレジ」）等に登録するよう案内した。8月は7人の参加があり、2月は3人の学生の参加があった。

学内留学奨学金について、「正規留学派遣奨学金」では、4人の応募があり、2人が採用された。「在学留学特別奨学金」の採用者数は年間16人となり、昨年度から2人増加した。そのうち3人は短期大学1年次学生対象の同奨学金特別制度採用者である。何れの奨学金についても、応募者、採用者の増加を目指し、引き続き学生への周知・広報を徹底する。

(4) 外国人留学生の受け入れ体制

現在本学に所属している外国人留学生は1人あり、細やかに対応可能な体制を整えている。経済的側面では「授業料減免私費外国人留学生奨学生」「前里光盛・島袋忠雄特別奨学金」といった外国人留学生対象の学内奨学金でサポートしている。また、学外奨学金にも積極的にチャレンジするよう案内しており、今年度は「平和中島奨学金」の採用があった。

また、「ix国際交流友の会（以下ix）」活動では、以下のとおり国際交流イベントを実施した。

- ・新入生ランチ会：4月に実施。「ix」活動について新入生対象に紹介した。13名の参加があった。

- ・カナダ人青年との交流会：セブンスデーアドベンチスト教会のカナダ人青年10人が来学。本学学生43人と国際交流の機会をもった。

- ・沖縄の歴史文化学習会：7月に実施。14人の参加があった。昨年度に引き続き、福州園や首里城公園

<p>等を訪問するフィールドワークとした。沖縄の歴史と文化に触れることで、沖縄を世界に発信するための知識を学ぶとともに、外国人留学生と日本人学生との交流を深めた。また、事前学習会（2回）を実施し、フィールドワーク当日の訪問先施設の基礎知識を学ぶ機会とした。今年度から、外国人留学生を除く参加学生から、参加費 500 円を徴収しており、今回の徴収額は 6,500 円（500 円×13 人）となった。</p> <p>・留学生親善交流会：12 月実施。「沖縄地域留学生推進協議会」主催の事業で、沖縄県内の留学生等が参加する大規模な交流会である。本学学生 20 人が参加した。</p>	
<p>(4) 次年度への課題・改善方策</p>	Act
<p>【国際平和文化交流委員会】</p>	
<p>(1) 現行の「協定等を締結している海外高等教育機関（以下協定校等）」との関係の深化・充実協定校等のうち、</p>	
<p>1) 活発な交流が行われている機関については、さらに深化・充実した交流ができるよう模索する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修＝カウアイ・コミュニティ・カレッジ/長栄大学 ・海外留学＝ポートランド・コミュニティ・カレッジ/カピオラニ・コミュニティ・カレッジ ・サマープログラム＝培材大学 ・オックスフォード研修（英コミ事業）＝オックスフォード大学 <p>2) 休眠状態になっている機関について見直し、新規の交流事業を目指し模索する。</p>	
<p>(2) 新規協定校等開拓の模索</p>	
<p>今年度は（2018 年度）は「培材（ペジエ）大学（韓国）」と協定を締結し、協定校等は 9 校となった。海外の複数の大学等から協定締結を視野に入れたアプローチがあり、引き続き新規協定校の可能性について検討する。</p>	
<p>(3) 台湾研修</p>	
<p>海外研修事業では、事前学習の時間確保が近年の課題であった。そこで、ハワイ研修・海外幼児教育研修のために、今年度から「ハワイアン・スタディーズ」が開講され、当該授業を中心に学生は時間をかけて事前学習に取り組むことができた。「台湾研修」でもねらいを同じくし、今年度から「多文化共生」が開講されたが、参加学生は全て当該授業の未履修者であった。そのため別の日程で事前学習会を実施することになり、結果的に担当（引率）教員の負担増となった。原因として、前期授業の登録調整期間後に台湾研修の募集を開始したため、参加希望の学生が当該授業を履修できなかったことが考えられる。この反省を活かし、次年度は研修の募集期間が授業登録期間に同時期となるよう前倒し、当該授業について学生に重点的に周知することで、参加学生が当該授業を履修できるよう整え、事前学習の時間を十分に確保するとともに、担当（引率）教員の負担軽減に繋げる。</p>	
<p>(4) 外国人留学生受け入れ</p>	
<p>1) 今年度（2018 年度）、在籍する外国人留学生は四大に 1 人である。当該学生は今年度卒業予定のため、次年度（2019 年度）は外国人留学生数が 0 人となる見込みである。これは日本語別科が無く、外国人留学生募集に積極的とはいえない体制であることが主な原因と考えられる。外国人留学生の入学者増については、学科の教育観、経済的支援の充実、学生寮の整備等、全学的な課題である。このことは今後「グローバル化推進委員会」を中心に検討する必要がある。</p>	
<p>2) 外国人留学生を中心とした国際交流活動を目的とした「ix」については、次年度から在籍する外国人留学生が 0 人となる見込みから、今後は一般学生を対象とし、「沖縄で国際交流を体験しよう」という</p>	

<p>方針のもと、引き続き運営する。学内イベントの企画実施のみならず、学外の国際交流イベントへの積極的な送り出しを通し、学生が国際感覚を磨ける機会を提供する。</p> <p>(5) 学外留学奨学金獲得に向けた支援体制の構築</p> <p>「トビタテ！留学 JAPAN」や、「海邦養秀ネットワーク事業」等、学外で募集される留学奨学金制度に関心を持つ学生は多い。本センターでは、志願にあたって申請書の作成にあたり助言等の支援を行っているが、情報収集・書き方など、基礎的な部分から支援を要する学生が多い現状である。学科や、学習支援センターと連携しつつ、学生が自立して中長期的に留学計画を立て準備を進めることができるような支援体制の構築について検討を進めていきたい。</p>	
<p>(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価</p>	<p>Check・Act</p>
<p>【評価点】</p> <p>1. 既存の海外研修プログラムの充実</p> <p>「ハワイ研修」「海外幼児教育研修」はじめとするプログラムの内容を、前年度の検証に基づき着実に充実化している。特に授業とリンクさせたハワイ文化や観光産業に関する事前学習は、参加学生のモチベーションを高め、予備知識を修得させる点に非常に効果的である。</p> <p>2. 海外留学希望者へのカウンセリングの充実</p> <p>春と秋にセミナーを実施する留学セミナーの中で、ビザ申請の助言・補助等のきめ細かいレクチャーやカウンセリングが実施されている。また、8月と2月に実施される「出発直前オリエンテーション」で事前のリスク・マネジメントに関する注意喚起も実施されている点は高く評価できる。</p> <p>3. 外国人留学生向け奨学金の充実</p> <p>「平和中島奨学金」の採用等留学生向けの奨学金が少しずつ増加しているのは、大変喜ばしいことである。今後、留学生確保に向けてのPRに繋がっていくことを期待する。</p> <p>【今後に向けての課題点】</p> <p>1. 外国人留学生受け入れの強化</p> <p>(4) 次年度への課題・改善方法で指摘されるように、2019年度の外国人留学生が0名となることから、留学生の受け入れが課題になる。これも指摘されているように、予算に関わる全学的な課題であるが、学生寮等のハード面の整備と同時に、さらなる留学生向けのカリキュラム充実等のソフト面での整備も必要となろう。また、これらの整備に関しては、日本の他大学や海外諸大学の実践例や成功例も精査し、本学やセンターがより明確な方針や特色を打ち出せるよう協議する必要もあろう。</p> <p>2. 海外協定校との連携強化</p> <p>(4) 「次年度への課題・改善方策」(1)で記述されているように、協定校とのさらなる関係強化が望まれる。本件は、国際平和文化交流委員会だけではなく、全学的方針に関わる課題であると思われる。同時に、それを担当・指導する人的リソースの数的確保という課題も協議する必要がある。</p> <p>3. センター主催プログラムのさらなる充実</p> <p>(1) 沖縄の歴史・文化・気候等の特徴と日本本土のそれらとの比較に関するレクチャー、(2) 東南アジアの多くの人口が使用するインドネシア語、マレー語、タガログ語等のミニ・レクチャーの開講もよりマクロ的に沖縄やアジアを理解するための有用な試案であると思われる。</p>	

15. 学習支援センター

報告者：学習支援センター長 浜川 仁

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価） Check	
<u>※2018年度は空欄となります。</u>	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画） ◆2018年度から1年次の学習（修）成果向上を目的に学生チューター制度を導入。動画コンテンツも活用するなど学生支援の更なる強化を図るとともに、学生の離籍率改善につなげる。定期的なチューターミーティングも行い、チューター育成にも力を入れる。専任教員も引き続きセンター員として個別で学生の学習支援を行う。	Plan
(3) 取り組みの結果及び点検・評価 ・学生支援の強化については、ピアノ演奏を指導できる学生チューターを採用して幅を広げられた。 ・チューターミーティングを週1回のペースで実施し、利用学生の学習進捗や指導方法などを互いに共有し、チューター自らが成長できるような環境づくりに努めている。 ・後期には、週1コマ程度ではあるが学習支援センターに来ていただくセンター員の先生もいる。 ・学生チューターが通常の講義等に出向いて、周知活動を行った。	Do・Check
(4) 次年度への課題・改善方策 ・学生への学修(学習)支援に対する学生の意見などをくみ上げるため、「学生生活実態調査」等に質問項目の追加を検討する。 ・学生チューターの人員を確保するため、英検準一級取得者または同様のレベルを有する学生に適宜声かけを行う。また、ピアノ実技の上級者（学生）確保については、該当する科目の担当教員へ推薦を依頼する。 ・利用学生を増やすため、引き続き通常の講義に学生チューターが出向く等の広報活動を行う。 ・カリキュラム（開設科目）との連携を深めるための仕組みづくりを検討する。	Act
(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価 ・学生支援の強化について、ピアノ演奏を指導できる学生チューターを採用するなど、学生支援強化に努めたことを評価する。 ・チューターミーティングにおいてチューター同士での学習進捗の共有も重要だが、指導方法については教諭または教職担当教諭による研修会などチューターの資質向上に繋がる研修の実施を検討して頂きたい。	Check・Act

・広報活動に努めたことを評価する。さらなる利用者の増加を目指し、周知活動に力を入れて頂きたい。

16. IRセンター

報告者：IRセンター長 上地 恵龍（企画推進課長 友利 道明）

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）	
Check	
<u>※2018年度は空欄となります。</u>	
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	Plan
（●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画）	
<p>◆大学運営の戦略性の構築に向けて、教育、経営、財務情報を含む学内外のデータの入手や分析を行うために、大学運営に必要とされる学内情報の一元管理に向けて情報資産の調査を実施する。</p> <p>■学校法人を取り巻く外部環境から本学にとっての機会と脅威、内部環境から強みと弱みを分析して領域に応じた戦略を策定する。</p> <p>■退学・除籍等の実態及び原因分析、改善方策の検討を行うために、中途退学者等の原因分析を実施する。</p> <p>■全学生を対象として実施されているアンケート、「学生生活健康調査」、「授業評価・改善アンケート」、「満足度調査」及び「学生生活実態調査」の4件について、実施目的の明確化及び調査の内容について精査して効率化し、集計、分析の結果が授業改善等に活用される質問内容に改善する。</p> <p>■卒業時のアンケート（学習成果）</p>	
(3) 取り組みの結果及び点検・評価	Do・Check
<p>◆学内の各部署で行われている調査の種類や頻度がどの程度あるのかを把握するために、文書や聴取による情報収集を行いデータカタログを作成した。</p> <p style="text-align: right;">(2018_データカタログ.xlsx)</p> <p>■9月に開催された短大ワークショップにおいて、IRと短大教員によるSWOT分析を行い短大における外部要因、内部要因を共有した。その後の戦略立案は集めた情報をもとに教員により行われた。法人、四大でのSWOT分析は実施しておらず未達である。</p> <p style="text-align: right;">(01_SWOT分析（書き込み用）.xlsx / 01_短大WS.pptx)</p> <p>■休退学の所見用紙について、より詳細な理由が判明（分析）できるよう設問を改善した。</p> <p style="text-align: right;">(20180731_新) 面接所見.docx / Interview Sheet(IR).docx / vol2_中退学原因分析.docx)</p> <p>■4件のアンケートのうち、「学生生活健康調査」以外の3件についてIRでデータの分析を行った。学生生活健康調査は、学生のプライバシーに係る部分が大きいためIRでは分析していない。他3件のアンケートの目的や質問項目について見直しを行い改善に向けての作業を進めた。また回収率が低いアンケートについては、回収率向上の方策を委員会等を通して教員へ提案した。</p>	

<p>■卒業予定者を対象に、本学で定める学習（修）成果を実感できているかを確認するためのアンケートを実施し、分析結果を関連する委員会へ提出した。</p>	
<p>(4) 次年度への課題・改善方策</p>	Act
<p>【大学運営協議会】</p> <p>◆学内での情報の共有化を目指し、点在する情報の所在や実施されている集計や調査の目的等を聴取したデータカタログを適宜更新する。</p> <p>■IRによる分析結果を教職員で共有するために学内のみ閲覧可能なサイトにIRページを新設する。</p> <p>■戦略立案に必要な情報を集め提供し、短大、四大、法人におけるSWOT分析を行い、学内外の状況や問題を共有化する。</p> <p>■休退学する学生の集計・分析を年に2回行い半期毎の推移とともに、休退学の傾向のある学生像の把握や要因分析結果を所管する各委員会へ提出する。</p> <p>■「授業評価・改善アンケート」「学生生活実態調査」「満足度調査」の目的及び方法を教職員双方で確認し、必要に応じて修正し改善につなげていく。今後の教育活動、学生支援に活かすために分析結果を各所管する委員会へ提出する。それとともに、効率的な回収方法や回収時期についても提案する。</p> <p>■予算を確保し、IR担当者の能力向上のためのIR研修会へ参加する。</p> <p>■入学者を追跡調査し、成績及び活動実績等から入試の選抜の妥当性を検証するための基礎資料を作成し、「学生募集・入試委員会」へ提出する。</p>	
<p>(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価</p>	Check・Act
<ul style="list-style-type: none"> ● 大学運営に必要とされる学内情報の一元管理向けに、各部署で行われている調査の種類や頻度の程度を把握するため、文書や聴き取りによる収集を行い、データカタログを作成したことが評価できる。 ● 大学を取り巻く外部環境から本学にとっての機会と脅威、内部環境からの強みと弱みを分析して領域に応じた戦略を作成するために、短期大学の教員ワークショップにおいてSWOT分析を行い、外部要因および内部要因を共有したことは評価できる。今後は大学法人および四大においてもSWOT分析を行い、本学院の強みと弱みを分析し共有し、領域に応じた戦略を立てて欲しい。 ● 休退学者のより詳細な理由を分析するために、所見用紙の設問を改善したことは評価できる。 ● 学生の実態把握のために、「授業評価・改善アンケート」「学生生活実態調査」「満足度調査」目的や質問項目についての見直し改善に取り組んだことが評価でき、分析結果が今後の教育活動、学習支援に活かせるように努めてほしい。 ● 卒業予定者を対象として、学習（修）成果を実感できているかを確認するためにアンケートを実施し、分析したことは評価できる。 ● 成績および活動実績等から入試選抜の妥当性を検証するために、入学者追跡調査実施、その結果を分析することは、入試選抜の妥当性ばかりではなく、休退学者を減らす対策にもつながるので、積極的に行ってほしい。 	

17. 沖縄キリスト教平和総合研究所

報告者：キリスト教平和総合研究所所長 内間 清晴

○取組みの結果と点検評価

(1) 自己点検・評価・改善委員会からの前年度の評価（認証評価等から評価）		
Check		
※2018年度は空欄となります。		
(2) 本年度の目標（方針）及び計画	(●：中長期計画 ◆：事業計画 ■：新規計画)	Plan
<p>1. 「建学の精神」の継承発展に向けて</p> <p>(1) キリスト教主義平和教育の拠点形成</p> <p>①キリスト教主義平和教育の実践と実質化 仲里朝章文庫の完成を機にキリスト教主義平和に基づく「建学の精神」の理解と深化を促すため、キリスト教系大学との学生交流、体験型平和学習、視聴覚教育手法を駆使した学びの実質化を図る。</p> <p>②「建学の精神」の多角的学びの導入 沖縄の戦後社会への本学院の係わりと平和に関する解釈の多様性の実情を踏まえ、学びの柔軟性への配慮と工夫を凝らし「建学の精神」の継承発展への道筋を整え大学運営と教育現場への浸透を促す。</p> <p>③自校史教育導入と多様なプログラムを通じたキリスト教主義平和学の深化 キリスト教主義平和学の深化を図る一環として、新入生オリエンテーションの平和学習や月曜礼拝の運営方式を見直す一方で、沖縄キリスト教学院史を通じた自校史教育導入を通して学習者の想像力の覚醒を促す平和学の実質化を図る。</p> <p>(2) 宗教部、沖縄キリスト教平和研究所、日本基督教団沖縄教区の連携強化と学院附属教会設置</p> <p>①宗教部と沖縄キリスト教平和研究所間の連携強化 宗教部と沖縄キリスト教平和研究所の連携を強化し学生及び地域社会へのコミットメントを強化する。また、日本基督教団沖縄教区との連携を見直し学院発展に向けた協力関係を構築する。</p> <p>②学院附属教会の設置 チャペルにおいて教会活動を続けている沖縄インターナショナル教会を学院附属教会として位置づけ、地域社会への奉仕と学院の教育活動への繋がりを強めるため、積極的な協力体制を構築する。</p> <p>◆2018 学年度キリスト教平和研究所事業計画</p> <p>(1) 公開講座</p> <p>(2) 仲里朝章文庫の一般公開作業</p> <p>(3) 9条世界宗教者会議参加</p> <p>(4) 学生活動</p> <p>①県外学校の修学旅行ガイド</p> <p>②「沖縄 長崎 広島 から平和を考える学び合い」</p>		

(3) 取り組みの結果及び点検・評価	Do・Check
<p>【沖縄キリスト教平和総合研究所運営委員会】</p> <p>◆(1) 公開講座を6月24日(日)午後3時～5時に実施。講師：安海和宣氏。テーマ「平和をつくる者として」。いわゆる福音派の牧師が平和をテーマに講演して下さったおかげで、社会問題に関心のうすい県内の福音派の人々も聴きにきてくれたことは、平和総合研究所の活動の幅が広がることにつながった。</p> <p>また本講演会は福音派の信徒の購読者が多いクリスチャン新聞にも掲載され、福音派と社会派の信徒が共に集う集会に関心が持たれた。(●1.「建学の精神」の継承発展に向けて(1)②)</p> <p>◆(2) 仲里朝章文庫の一般公開作業についてはボランティアのほかに事務職員も業務として製本作業に加わることになった。このことによって作業進捗状況が改善された。(●1.「建学の精神」の継承発展に向けて(1)①)</p> <p>◆(3) 9条世界宗教者会議参加：6月12日～15日。広島で開催された「第6回9条世界宗教者会議」に所長・コーディネーターが参加した。宗教を超えて世界の宗教者が平和の問題を語り合うこの機会に、毎回沖縄の基地問題が取り上げられることは意義深い。</p> <p>◆(4) 学生活動</p> <p>8月20日～23日「第6回 沖縄 長崎 広島 から平和を考える学び合い」を本学にて実施した。</p> <p>この会には毎年西南学院大学、広島女学院大学が参加費補助を出して学生を送ってくれる。大学間協力で支えられていることは意味深い。</p> <p>2019年2月6日に近江兄弟社中学修学旅行ガイド実施。</p> <p>中学生にガイドすることで学生自らの学びも深めることができる。</p> <p>2019年2月26日～3月1日 石垣島における平和学習フィールドワーク実施。</p> <p>(●1.「建学の精神」の継承発展に向けて(1)①)</p> <p>■(5) 連続講座</p> <p>7月24日(火)「青木恵哉と愛楽園」講師：森川泰剛氏</p> <p>9月18日(火)「沖縄・宮古・八重山における米軍による軍事占領と教会」講師：一色哲氏</p> <p>連続講座は5回開催の計画であったが2回しか実施できなかった。テーマ、講師選定に難航した。</p> <p>■(6) 連続講座講演録発行</p> <p>連続講座第Ⅲシリーズ(2014年)と第Ⅳシリーズ(2015年)の中から文字起こし、編集の終わった部分を今年度は発行することとした。</p> <p>■(7) キリスト教団体との協力、連携</p> <p>沖縄キリスト教協議会、沖縄YWCA、信教の自由祈祷委員会、沖縄教会史を学ぶ会等に協力し、各団体主催の講演会に共催あるいは協力した。</p> <p>■(8) 同志社大学の原誠教授より寄贈された書籍の整理・登録がなかなか進まなかった。</p>	
(4) 次年度への課題・改善方策	Act
<p>【沖縄キリスト教平和総合研究所運営委員会】</p> <p>(3) 9条世界宗教者会議は2020年に第7回を沖縄で本学を会場に開催することに決まった。このための準備作業、体制作りが次年度の課題となる。</p>	

- (5) 連像講座は統一テーマを「戦後の沖縄における教会の歩みと回顧——苦難の中での平和の願い」として第Ⅰシリーズから第Ⅶシリーズまで行なってきた。しかしテーマ設定と講師選定に限界も見えてきたことと、当研究所が「沖縄キリスト教平和総合研究所」と改称され、より総合的な視野が求められることをも考慮し、次年度は充実した講座を行なうために、沖縄・キリスト教・平和に関する幅広い分野で講座を実施していく。
- (8) 原誠氏より寄贈された書籍の整理・登録を完成させる。そのためにボランティアだけでなく、所長以下、研究所全員がこの業務に当たる。

(5) 自己点検・評価・改善委員会からの評価

Check・Act

【評価点】

- ・連続講座を継続して実施していることは評価できる。
- ・学生活動において、他大学との共同事業や修学旅行ガイドを実施するなど、平和活動を推進している点評価できる。

【課題】

- ・連続講座において改善方策に示されているとおり、統一テーマを見直し、より幅の広い充実した講座となるよう期待する。
- ・仲里朝章文庫の一般公開については、学内外から期待されているところであり、完成に向け引き続き取り組んでいただきたい。
- ・学生活動については、「チーム琉球」の活動をさらに支援するうえでも、学内サークル化し、学生会予算も活用できるよう検討していただきたい。
- ・地域連携・社会貢献活動の一環として、西原町との連携事業について取り組みを強化していただきたい。

2018(平成30)年度

エビデンス集(データ編)

沖縄キリスト教短期大学

データ作成に関する注意事項

以下の注意事項に従って作成してください。なお、個々の様式に注釈がある場合、この限りではありません。

1. 原則として当該年度5月1日現在のデータを記載してください。前年度等指示がある場合も同様に、毎年5月1日時点のデータを記載してください。
2. 小数点以下は、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位まで記載してください。
3. 指定するデータ以外に、独自のデータを追加する場合は、様式の末尾に続けて記載し、タイトルも付けてください。【例】様式3のデータを追加する場合…表3_2「タイトル」
4. 該当しない項目がある場合、タイトルの横に「該当なし」と記載してください。また、目次にもその旨を記載してください。
5. データ内に該当しない箇所がある場合、「ー」を記載してください。
6. 様式が当てはまらない場合、備考欄や欄外に注釈を記載してください。表は、わかりやすい形に加工することができます。また、既に作成しているデータがある場合、それに代えることもできます。（その場合は企画推進課までご連絡下さい。）
7. 複数ページにわたる場合、タイトルは初ページ、注釈は終ページのみに残してください。
8. 様式に付されている注釈は削除せず残してください。
9. MS明朝体を使用し、英数字のみCenturyを使用してください。
10. 「データ編」に関する不明点がある場合は、kikaku@oc.jc.ac.jpまで問い合わせてください。

2018(平成30)年度 自己点検・評価

データ編

様式	資料名	ページ
1	学校法人が設置しているすべての教育機関の現状	1
2	短期大学の概要	3
3	学生数	4
4	出身地別学生数	5
5	教員以外の職員の概要	6
6	学生データ	7
7	教育課程に対応した授業科目担当者一覧(7_1英語科 7_2保育科 7_3総合教育系)	9
8	単位認定状況表(8_1英語科 8_2保育科 8_3総合教育系)	16
9	専任教員の研究活動状況表	23
10	外部研究資金の獲得状況一覧表	24
11	理事会の開催状況	25
12	評議員会の開催状況	27
13	活動区分資金収支計算書(学校法人全体)	29
14	事業活動収支計算書の概要	31
15	貸借対照表の概要(学校法人全体)	33
16	財務状況調べ	35

1 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述してください。

2 様式3及び様式6(①～⑤)には、「長期履修生」が含まれます。

学校法人が設置しているすべての教育機関の現状
様式1
(2018(平成30)年5月1日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
沖縄キリスト教短期大学	沖縄県中頭郡西原町字翁長777	200	400	403
沖縄キリスト教学院大学		90	390	485
沖縄キリスト教学院大学大学院		5	10	1

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

様式2

沖縄キリスト教短期大学の概要

(2018(平成30)年5月1日現在)

事項	項目	記入欄	備考							
短期大学の名称	沖縄キリスト教短期大学									
学校の所在地	沖縄県中頭郡西原町字翁長777									
学科課程の名称	開設年月日	所在地								
英語科	1963(昭和38)年	沖縄県中頭郡西原町字翁長777								
保育科	1967(昭和42)年									
短期大学士課程	教授	専任教員等	備考							
教員組織	准教授	講師	助教	計	基準数	うち教授数	助手	非常勤教員	専任教員一人あたる在籍学生数	備考
	6人	0人	0人	8人	5人	2人	0人	11人	21人	文学関係 教育学・保育学関係
	4人	3人	1人	9人	8人	3人	0人	32人	27人	
	0人	0人	0人	0人	0人	-	-	0人	0人	
	-	-	-	-	-	4人	2人	-	-	
10	3	3	1	17	17	7	0	43		
校地等	区分	基準面積	専用	共用	共用する他の学校の専用	計				
校舎等	校舎敷地面積	-	0 m ²	30,259 m ²	0 m ²	30,259 m ²				
	運動場用地	-	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	校地面積計	4,000 m ²	0 m ²	30,259 m ²	0 m ²	30,259 m ²				
	その他	-	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
校舎等	区分	基準面積	専用	共用	共用する他の学校の専用	計				
	校舎面積計	3,650 m ²	1,105 m ²	10,642 m ²	633 m ²	12,380 m ²				
	学科等の名称	教室数								
	英語科	9	室							
	保育科	10	室							
施設・設備等	区分	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	沖縄キリスト教短期大学教室等施設	1室	3室	2室	1室	1室				沖縄キリスト教短期大学と共用 大学基準面積 校地 4,300 m ² 校舎 3,429 m ²
	沖縄キリスト教学院大学教室等施設	1室	1室	1室	1室	2室				
	供用施設	24室	14室	1室	1室	2室				
	図書館等の名称	面積	閲覧座席数							
Walker-Walker記念図書館	1,271 m ²	178席								
図書・図書室	学科等の名称	図書(うち外国書)	学術雑誌(うち外国書)	電子ジャーナル(うち国外)						
	英語科	14,918 [6,897] 冊	8 [6] 種	0 [0] 種						
	保育科	19,556 [550]	19 [1]	0 [0]						
	総合教育系	49,465 [3,888]	18 [6]	0 [0]						
	供用	11,132 [3,572]	17 [11]	2 [2]						
計	94,971 [13,897]	62 [24]	2 [2]							
体育館その他の施設	体育館面積	1,404 m ²								
	その他	0 m ²								

〔注〕

- 1 学科、研究所等ごとに記載してください。
- 2 教養教育科目、外国語科目、保健体育科目、教職科目等を担当する独立の組織や、附置研究所、附属病院等がある場合には、「別科等」の欄に記載してください。
- 3 所在地について、2以上の校地において行う場合で当該校地にキャンパス名称があれば、当該所在地の後に「〇〇キャンパス」と記載してください。
- 4 教育研究組織の欄には、教育研究組織の欄で記載した組織単位で専任教員数を記入してください。また、上記2に記載した、学科教育を担当する独立の組織がある場合には、組織名は、「学科・専攻課程の名称」の欄に「その他の組織等(〇〇)」と記載し、専任教員数を記載してください。なお、その場合は、「基準数(及び「教授数」)」の欄は「一」としてください。
- 5 専任教員数の記入に際しては、休職、サバティカル制度等により一時的に短期大学を離れている場合も専任教員に算入してください。ただし、短期大学設置基準第21条における「授業を担当しない教員」については含めないでください。
- 6 「非常勤教員」の欄には、客員教員や特任教員等で専任の教員は含みません。
- 7 他の学科等に所属する専任の教員であって、当該学科等の授業科目を担当する教員(兼担)は、「非常勤教員」の欄には含めないでください。また、「専任教員等」の各欄にも含めないでください。
- 8 専任教員の基準数については、それぞれ以下に定める教員数を記載してください。
 - ・短期大学設置基準第22条別表第一イ及びロ(備考に規定する事項を含む。)
- 9 「専任教員1人あたりの在籍学生数」の欄には、様式2の在籍学生数/本表の専任教員数計により、算出してください。
- 10 「校舎敷地面積」、「運動場用地」の欄は、短期大学設置基準上算入できるものを含めてください。
- 11 寄宿舎その他大学の附属病院以外の附属施設(短期大学設置基準第32条を参照)用地、附置研究所用地、駐車場、大学生協用地など短期大学設置基準上「校地」に算入できない面積は「校地等」の「その他」の欄に記入してください。
- 12 「校舎面積計」の欄は、学校基本調査の学校施設調査票(様式第20号)における学校建物の用途別面積の「校舎」の面積の合計としてください。
- 13 校地面積、校舎面積の「専用」の欄には、当該短期大学が専用で使用する面積を記入してください。「共用」の欄には、当該短期大学が他の学校等と共用する敷地面積を記入してください。「共用する他の学校等の専用」の欄には、当該短期大学の敷地を共用する他の学校等が専用で使用する敷地面積を記入してください。
- 14 「基準面積」の欄は、短期大学設置基準第30条の校地の面積及び第31条の校舎の面積、または短期大学通信教育設置基準第10条の校舎等の施設的面積としてください。
- 15 「教員研究室」の欄は、専任教員数に算入していない教員の実験室は記入する必要はありません。なお、複数の助教等が共同して1室で執務する場合は、教員数を室数に換算してください。

学生数

学科・専攻課程名	項目	(2018(平成30)年5月1日現在)								備考
		2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	入学定員に対する平均比率			
英語科	志願者数	75	89	102	83	79				
	合格者数	74	82	96	77	80				
	入学者数	67	75	90	72	70				
	入学定員	100	100	100	100	100	75%			秋入学者含む 基準日10月1日
	入学定員充足率	67%	75%	90%	72%	70%				
	在籍学生数	188	189	186	190	164				
保育科	入学定員	200	200	200	200	200				
	入学定員充足率	94%	95%	93%	95%	82%				
	志願者数	201	167	130	148	146				
	合格者数	133	131	113	130	113				
	入学者数	123	126	109	126	110				
	入学定員	100	100	100	100	100	119%			秋入学者含む 基準日10月1日
学科合計	入学定員充足率	123%	126%	109%	126%	110%				
	在籍学生数	229	253	234	234	238				
	入学定員	200	200	200	200	200				
	入学定員充足率	115%	127%	117%	117%	119%				
	志願者数	276	256	232	231	225				
	合格者数	207	213	209	210	190				
学科合計	入学者数	190	201	199	198	180				
	入学定員	200	200	200	200	200	97%			
	入学定員充足率	95%	101%	100%	99%	90%				
	在籍学生数	417	442	420	424	402				
	入学定員	400	400	400	400	400				
	入学定員充足率	104%	111%	105%	106%	101%				

[注]

- 1 学生を募集している学科等ごとに行を追加して作成してください。
ただし、学科等を追加する場合は、直下に追加しないと集計値がずれてしまうので、注意して下さい。
- 2 学科の改組等により、新旧の学科が併存している場合には、新旧両方を併記し、「備考」に記載してください。
- 3 学科等が完成年度に達していない場合、その旨を備考に記載してください。
- 4 募集定員が若干名の場合は、「0」と記載し、入学者数については実入学者数を記載してください。
- 5 入学定員充足率は、入学定員に対する入学者の割合、収容定員充足率は、収容定員に対する在籍学生数の割合としてください。
- 6 入学定員に対する平均比率は、過去5年分の入学定員に対する入学者の比率を平均したものが自動計算されます。

様式4

出身地別学生数

(各年度5月1日現在)

学科名	地域	2013(平成25)年度		2014(平成26)年度		2015(平成27)年度		2016(平成28)年度		2017(平成29)年度	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
英語科	沖縄県	92	97.9	64	95.5	74	98.7%	89	100.0%	71	100.0%
	北海道			1	1.5						
	佐賀			1	1.5						
	長崎					1	1.3%				
	その他	2	2.1	1	1.5						
保育科	沖縄県	98	96.1	121	98.4	122	96.8%	106	97.2%	125	99.2%
	秋田					1	0.8%				
	群馬			1	0.8						
	埼玉							1	0.9%	1	0.8%
	千葉	1	1.0								
	神奈川	1	1.0					1	0.9%		
	京都							1	0.9%		
	大阪	1	1.0								
	島根					1	0.8%				
	福岡			1	0.8						
	熊本					1	0.8%				
	宮崎	1	1.0								
鹿児島					1	0.8%					

[注] 文部科学省「学校基本調査」に準じ、出身高校の所在地県別学生数を記載。

様式5

教員以外の職員の概要(人)

(2018(平成30)年5月1日現在)

	専任	兼任	計
事務職員	13	9	22
技術職員	0	0	0
図書館・学習資源センター等の専門事務職員	0	0	0
その他の職員	0	0	0
計	13	9	22

[注]

- 1 「その他の職員」とは、守衛、自動車運転手、作業員等の技能労務職員等を指します。
- 2 契約職員、派遣職員等は「兼任」に分類してください。

様式6

学生データ

① 卒業者数(人)

学科	2013(平成25) 年度	2014(平成26) 年度	2015(平成27) 年度	2016(平成28) 年度	2017(平成29) 年度
英語科	83	69	86	62	83
保育科	106	96	120	120	101

② 退学者数(人)

学科	2013(平成25) 年度	2014(平成26) 年度	2015(平成27) 年度	2016(平成28) 年度	2017(平成29) 年度
英語科	14	8	9	6	13
保育科	5	6	7	5	5

③ 休学者数(人)

学科	2013(平成25) 年度	2014(平成26) 年度	2015(平成27) 年度	2016(平成28) 年度	2017(平成29) 年度
英語科	25	33	20	20	27
保育科	4	2	5	4	5

④ 就職者数(人)

学科	2013(平成25) 年度	2014(平成26) 年度	2015(平成27) 年度	2016(平成28) 年度	2017(平成29) 年度
英語科	33	41	37	31	43
保育科	90	81	101	102	88

⑤ 進学者数(人)

学科	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度
英語科	16	11	16	16	10
保育科	6	10	6	5	3

⑥ 科目等履修生(人)

学科	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度
英語科	0	1	1	1	0
保育科	7	7	9	8	11

⑦ 長期履修生(人)

学科	2013(平成25)年度	2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度
英語科	0	0	0	0	1
保育科	1	1	0	0	0

[注] 1 学科ごとに、自己点検を受ける前年度の平成29年度を起点とした過去5年間のデータを示してください。

2 ⑥及び⑦は、当該年度に在学する学生数を記入してください。

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

様式7_1

教育課程に対応した授業科目担当者一覧

区分	授業科目名	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
必修科目	フレッシュマン・セミナー	教授	作田 真由子	文学	
	同上	准教授	柳田 正豪	日英コミュニケーション、心理学、病理学	
English Bible Reading		特任教授	山里 恵子	英語教授法	
			Benjamin Fogel	言語学	非常勤
Oral English I			Caroline C. Latham	TESOL	
		教授	Michael Bradley	Bilingualism in children Language planning and revitalizing minority languages Communicative ways to teach grammar	
Oral English II			Grant Osterman	英語教授法	非常勤
			Benjamin Fogel	言語学	非常勤
Oral English III			Andrew Alan Gayler	英語教授法	非常勤
			Michelle Higaonna	英語教育法	非常勤
Oral English IV			Joshua Troy Nieubuert	英語教授法	非常勤
			Caroline C. Latham	TESOL	非常勤
Oral English V		准教授	Jonathan Hatcher	Colonial American History 日英コミュニケーション、心理学、病理学	非常勤
		教授	Michael Bradley	Bilingualism in children Language planning and revitalizing minority languages Communicative ways to teach grammar	
Oral English VI		准教授	Robert Duckworth	Composition new media	非常勤
			柳田 正豪	日英コミュニケーション、心理学、病理学	非常勤
Oral English VII			Jonathan Hatcher	Modern History	非常勤
		教授	Michael Bradley	Bilingualism in children Language planning and revitalizing minority languages Communicative ways to teach grammar	
Oral English VIII		准教授	柳田 正豪	日英コミュニケーション、心理学、病理学	非常勤
			David Webb	英語教授法	非常勤
Oral English IX			Andrew Alan Gayler	英語教授法	非常勤
			Peter Wodarz	Literature and The Teaching of Writing	非常勤
Oral English X			Michelle Higaonna	英語教育法	非常勤
			Michelle Higaonna	英語教育法	非常勤
Discussion in English I			Simon Robinson	Democratic Education Critical Pedagogy	非常勤
		教授	Michael Bradley	Communicative language teaching Bilingualism in children Language planning and revitalizing minority languages Communicative ways to teach grammar	
Oral Presentation I		教授	Michael Bradley	Bilingualism in children Language planning and revitalizing minority languages Communicative ways to teach grammar	
			Christopher Valvona	English Language Teaching Communicative ways to teach grammar	非常勤
Oral Presentation II			Simon Robinson	Democratic Education Critical Pedagogy	非常勤
			Simon Robinson	Communicative language teaching	非常勤

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

選択必修B	英作・文法 I	特任講師	スミス 陽子	英語教育、国際多文化教育、言語学	総合教育系
	英作・文法 II	特任教授	山里 恵子	英語教授法	総合教育系
	英作・文法 I (夏期集中講義)		仲屋 栄利子	情報学、言語学、教育学	総合教育系
	Paragraph Writing I		仲屋 栄利子	情報学、言語学、教育学	
	Paragraph Writing II	特任講師	スミス 陽子	英語教育、国際多文化教育、言語学	非常勤
	Making a Newspaper		山城 莉乃	日英コミュニケーション	
	英語講読 I	特任教授	17年度開設なし	Logic, Ethics	
	英語講読 II	教授	山里 恵子	英語教授法	
	同上		作田 真由子	文字	総合教育系
	英語講読 III		仲屋 栄利子	情報学、言語学、教育学	非常勤
選択必修C	同上		呉屋 英樹	応用言語学	非常勤
	英語講読 IV		玉城 要	言語学	
	同上	特任教授	山里 恵子	英語教授法	
	英語講読 V	教授	作田 真由子	文字	
	Current Issues in English	教授	Michael Bradley	Bilingualism in children Language planning and revitalizing minority languages Communicative ways to teach grammar	
	Current Issues Online	教授	Michael Bradley	Bilingualism in children Language planning and revitalizing minority languages Communicative ways to teach grammar	
	多読 I	教授	作田 真由子	文字	総合教育系
	多読 II		仲屋 栄利子	情報学、言語学、教育学	総合教育系
	英語検定演習 I	教授	仲屋 栄利子	情報学、言語学、教育学	
	英語検定演習 II	教授	作田 真由子	文字	
選択必修D	Shadowing (Listening)		作田 真由子	初年次教育、同時通訳、マーケティング、プレゼンテーション	非常勤
	English & American Literature	教授	城間 仙子	文字	
	TOEIC I		作田 真由子	情報学、言語学、教育学	総合教育系
	TOEIC II	教授	仲屋 栄利子	英語教育、英米文学	非常勤
	TOEIC III	教授	新城 知子	文字	
	Business Writing	教授	作田 真由子	文字	
	同時通訳 I	特任講師	スミス 陽子	英語教育、国際多文化教育、言語学	
	同時通訳 II		城間 仙子	初年次教育、同時通訳、マーケティング、プレゼンテーション	非常勤
	同時通訳実践演習 I (Chapel Service)		城間 仙子	初年次教育、同時通訳、マーケティング、プレゼンテーション	非常勤
	同時通訳実践演習 II (Chapel Service)		城間 仙子	初年次教育、同時通訳、マーケティング、プレゼンテーション	非常勤
同時通訳初級 (夏期集中講座)	准教授	城間 仙子	初年次教育、同時通訳、マーケティング、プレゼンテーション	非常勤	
同時通訳上級 (夏期集中講座)		柳田 正豪	日英コミュニケーション、心理学、病理学		
通訳実践活動 (認定科目)	准教授	柳田 正豪	初年次教育、同時通訳、マーケティング、プレゼンテーション	非常勤	

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

コトバと論理	上原 明子	平和主義的感性の育成としての言語教育のあり方と実践	総合教育系
日本語表現法	上原 明子	平和主義的感性の育成としての言語教育のあり方と実践	総合教育系
秘書学概論	スミス 陽子 兼任講師	英語教育、国際多文化教育、言語学	
秘書実務	スミス 陽子 兼任講師	英語教育、国際多文化教育、言語学	
経営概論	多賀 寿史	経営学	非常勤
簿記論	17年度開設なし		
キャリアガイダンス	松堂 美和子	キャリア教育学、キャリアコンサルティング	非常勤
キャリア・レッスン	17年度開設なし		
マーケティング入門	大城 朝子	経営学	非常勤
インターンシップ(認定科目)	柳田 正豪	日英コミュニケーション、心理学、病理学	
マルチメディア演習	金城 豪	言語学、フランス語教育、メディアコミュニケーション	
プレゼンテーション概論	上原 明子	平和主義的感性の育成としての言語教育のあり方と実践	総合教育系
情報機器利用プレゼンテーション演習	城間 仙子	初年次教育、同時通訳、マーケティング、プレゼンテーション	非常勤
通訳とプレゼンテーション	城間 仙子	初年次教育、同時通訳、マーケティング、プレゼンテーション	非常勤
異文化理解	新垣 誠	沖縄の海外離散共同体とエスニックネットワーク、沖縄のアイデンティティ、開発教育	非常勤
異文化共生	柳田 正豪	日英コミュニケーション、心理学、病理学	
国際ボランティア論	玉城 直美	NGO・NPO、市民活動研究、開発教育、国際理解教育の教材開発および授業研究	非常勤
海外研修(国際交流)	崎原 千尋	米国マイノリティ文学、ハワイ研究、戦後沖縄文化史	非常勤
海外研修(多文化共生)	17年度開設なし		
海外研修(国際協力)	17年度開設なし		

[注]

- 1 「区分」には、教育課程表に沿って「共通科目」、「専門科目」等の科目群名を記入してください。
- 2 一つの授業科目を複数の教員が担当する場合、「授業科目」を記入の上、次行以降は「同上」とし、全ての担当教員について記入してください。
- 3 「教員配置」には、以下のように記載してください。
○当該学科所属教員は空欄としてください。
○他学科所属教員は「学科名」を記載してください。
○非常勤・併設大学所属教員は「非常勤」と記載してください。
- 4 全学科共通の科目群についてはタイトルを「全学科共通」等、権数学科共通の科目群等がある場合にはタイトルを「〇〇学科・〇〇学科共通科目」等とし、単独の表を作成してください。

教育課程に対応した授業科目担当者一覧
保教科

2017(平成29)年度

区分	授業科目名	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
必修科目	保育原理	講師	喜舎場 勤子	教育学(幼児教育)、保育学	非常勤
	同上		糸洲 理子	保育学、幼児教育学	
	教育原理	講師	喜舎場 勤子	教育学(幼児教育)、保育学	非常勤
	同上		糸洲 理子	保育学、幼児教育学	
	児童家庭福祉	教授	川西 康裕	保育士養成、子どもと家族の福祉、キリスト教社会福祉	
	社会福祉		保良 昌徳	社会福祉学、高齢者福祉論	非常勤
	キリスト教保育		喜舎場 勤子	教育学(幼児教育)、保育学	非常勤
	同上	講師	糸洲 理子	保育学、幼児教育学	
	発達心理学Ⅰ	准教授	大城 りえ	心理学	非常勤
	同上		池田 尚子	幼年期総合科学	非常勤
	乳児保育		仲宗根 京子	保育学	非常勤
	同上		大石 洋子	保育学	非常勤
	子どもの保健Ⅰ	准教授	大城 りえ	心理学	非常勤
	同上		知念 菜穂子	母子保健	非常勤
	子どもの食と栄養		笹良 秀美	地域母子保健	非常勤
	同上		古堅 由紀子	栄養学	非常勤
	同上		下地 房子	管理栄養学	非常勤
	家庭支援論	教授	川西 康裕	保育士養成、子どもと家族の福祉、キリスト教社会福祉	
	健康指導法		宮城 圭子	健康教育	非常勤
	人間関係指導法	特任教授	山城 真紀子	幼児教育学、舞踊教育学	
	同上	准教授	赤嶺 優子	幼児教育学	
	環境指導法	教授	平安名 盛孝	心理教育学	非常勤
	言葉指導法		照屋 建太	保育学、森林学	非常勤
	音楽表現指導法	特任教授	分 秀子	幼児の言葉と大人の関わり	非常勤
	同上		奥原 友紀乃	音楽、リズム	非常勤
	造形指導法	講師	佐久本 邦華	美術教育、造形教育、沖縄の伝統染織研究、現代美術	
	地域子育て支援実習Ⅰ	准教授	赤嶺 優子	幼児教育学	
	同上	教授	照屋 建太	保育学、森林学	
同上	教授	川西 康裕	保育士養成、子どもと家族の福祉、キリスト教社会福祉		
同上	准教授	大城 りえ	心理学		
同上	特任教授	山城 真紀子	幼児教育学		
同上	特任教授	大山 伸子	音楽教育学		
同上	講師	佐久本 邦華	美術教育、造形教育、沖縄の伝統染織研究、現代美術		
同上	講師	糸洲 理子	保育学、幼児教育学		
地域子育て支援実習Ⅱ	准教授	赤嶺 優子	幼児教育学		
同上	教授	照屋 建太	保育学、森林学		
同上	教授	川西 康裕	保育士養成、子どもと家族の福祉、キリスト教社会福祉		
同上	准教授	大城 りえ	心理学		
同上	特任教授	山城 真紀子	健康教育、体育科教育、舞踊教育、野外教育、保育・子育て		
同上	特任教授	大山 伸子	音楽教育学		
同上	講師	佐久本 邦華	美術教育、造形教育、沖縄の伝統染織研究、現代美術		
同上	講師	糸洲 理子	保育学、幼児教育学		
保育ボランティア体験	特任教授	山城 真紀子	健康教育、体育科教育、舞踊教育、野外教育、保育・子育て		

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告書
自己点検・評価データ編

選 択 科 目	特任教授	大山 伸子	音楽教育学		
音楽 I			音楽教育学		
同上		古謝 麻耶子	民族音楽学		非常勤
同上		津田 涼子	音楽教育学		非常勤
同上		糸洲 のぶ子	ピアノ教育(鍵盤音楽教育)		非常勤
同上		神谷 智子	ミュージック、パップス声楽曲研究		非常勤
同上		仲松 あかり	音楽教育、声楽		非常勤
音楽 II		神谷 智子	ミュージック、パップス声楽曲研究		非常勤
同上	特任教授	大山 伸子	音楽教育学		
同上		古謝 麻耶子	民族音楽学、音楽教育学		非常勤
同上		津田 涼子	音楽教育学		非常勤
同上		糸洲 のぶ子	ピアノ教育(鍵盤音楽教育)		非常勤
同上		仲松 あかり	音楽教育、声楽		非常勤
図画工作 I		苅谷 洋介	美学芸術学、近現代美術史(20世紀ドイツ美術史)、美術教育学、日本の古美術研究		非常勤
同上	講師	佐久本 邦華	美術教育、造形教育、沖縄の伝統染織研究、現代美術		
図画工作 II	講師	佐久本 邦華	美術教育、工芸教育、造形教育、沖縄の伝統染織研究、現代美術		
幼児体育 I	特任教授	山城 真紀子	健康教育、体育科教育、舞踊教育、野外教育、保育・子育て		
同上		真栄城 勉	健康・スポーツ科学		非常勤
同上		島袋 桂	保健体育		非常勤
幼児体育 II	特任教授	山城 真紀子	健康教育、体育科教育、舞踊教育、野外教育、保育・子育て		
同上		真栄城 勉	健康・スポーツ科学		非常勤
同上		島袋 桂	保健体育		非常勤
幼児の生活		島袋 浩子	子ども学		
同上	教授	照屋 建太	保育学、森林学		
飼育栽培	教授	照屋 建太	保育学、森林学		
幼児の言葉		山盛 淳子	教育学		非常勤
保育者論	講師	糸洲 理子	保育学、幼児教育学		
保育課程総論	准教授	赤嶺 優子	幼児教育学		
保育指導法ゼミ	准教授	赤嶺 優子	幼児教育学		
同上		松田 恵子	保育学		非常勤
同上		安里 悦子	保育学		非常勤
同上	講師	糸洲 理子	保育学、幼児教育学		
保育カウンセリング	准教授	大城 りえ	心理学		
保育・教職実践演習(幼稚園)	准教授	赤嶺 優子	幼児教育学		
同上	教授	川西 康裕	保育士養成、子どもと家族の福祉、キリスト教社会福祉		
同上	准教授	大城 りえ	心理学		
同上	講師	糸洲 理子	保育学、幼児教育学		
教育実習	准教授	赤嶺 優子	幼児教育学		
視覚教育		真栄城 かの子	保育学		非常勤
同上	准教授	赤嶺 優子	幼児教育学		
保育メディア研究		米盛 徳市	科学教育		非常勤
相談援助		砂川 重紀美	社会福祉学		非常勤

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

様式7_3

教育課程に対応した授業科目担当者一覧

学科名等 総合教育系 2017(平成29)年度

区分	授業科目名	職位	担当教員名	専門分野	教員配置
必修科目	キリスト教I	教授	青野 和彦	神学(歴史)	非常勤
	キリスト教II	教授	青野 和彦	神学(歴史)	
	同上		望月 智	神学	
	表現技法	教授	上原 明子	平和主義的感性の育成としての言語教育のあり方と実践	
	同上		新垣 俊	保育学、幼児教育学	
	コンピュータリテラシー	教授	内間 清晴	物性物理学、自然科学教育の教材開発	
	同上		高江洲 義尚	海洋環境学	
	キリスト教平和学		村橋 嘉信	神学	
	同上		大城 実	神学	
	キリスト教人間学(キリスト教倫理)	教授	青野 和彦	神学(歴史)	
文学と読書		17年度開設なし			
はじめての日本語教育	教授	上原 明子	平和主義的感性の育成としての言語教育のあり方と実践		
朗読の科学	教授	上原 明子	平和主義的感性の育成としての言語教育のあり方と実践		
沖縄の言語		仲原 稜	社会学		
沖縄の歴史と現在		新原 俊昭	史学		
科学リテラシー	教授	内間 清晴	物性物理学、自然科学教育の教材開発		
文系学生のための基礎数学演習Ⅰ	教授	内間 清晴	物性物理学、自然科学教育の教材開発		
文系学生のための基礎数学演習Ⅱ	教授	内間 清晴	物性物理学、自然科学教育の教材開発		
日本国憲法		仲宗根 京子	法学		
心理学		仲村 将義	教育学		
カウンセリング	准教授	柳田 正豪	日英コミュニケーション、心理学、病理学		
経済学		17年度開設なし			
ヘルスプランニング		荒野 太志	保健体育		
体育理論		島袋 桂	保健体育		
体育実技		荒野 太志	保健体育		
要約筆記(ノートテイキング)		真栄城 勉	健康・スポーツ科学		
ポラテア	教授	酒井 ひろ子	農学		
日本語音声表現Ⅰ		上原 明子	平和主義的感性の育成としての言語教育のあり方と実践		
日本語音声表現Ⅱ		17年度開設なし			
基礎英語コミュニケーション		17年度開設なし			
実用英語コミュニケーション		Michael R. Hertz	Logistics Management		
中国語		Michael R. Hertz	Logistics Management		
韓国語	准教授	武村 朝吉	中国語文法		
スペイン語		李 春花	中国語音声学		
		又吉 パトリシア	神学		
			教育学		

[注] 1 「区分」には、教育課程表に沿って「共通科目」、「専門科目」等の科目群名を記入してください。
 2 一つの授業科目を複数の教員が担当する場合は、「授業科目」を記入の上、各行以降は「同上」とし、全ての担当教員について記入してください。
 3 「教員配置」には、以下のように記載してください。
 ○当該学科所属教員は空欄としてください。○他学科所属教員は「学科名」を記載してください。○非常勤・併設大学所属教員は「非常勤」と記載してください。
 4 全学科共通の科目群についてはタイトルを「全学科共通」等、種別学科共通の科目群等がある場合にはタイトルを「〇〇学科・〇〇学科共通科目」等とし、単独の表を作成してください。

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

様式8_1

単位認定状況表
学科名等 英語科

区分	授業科目名	授業形態	履修者数	成績評価の方法	最終評価(%)				
					秀	優	良	可	否
必修科目	フレッシュマン・セミナー	講義・演習	81	課題30%、テスト30%、授業への参加度40%	87.7	11.1	0.0	1.2	0.0
	English Bible Reading	講義	86	定期試験60%、毎回の小テスト20%、課題提出10%、受講者の発表10%	36.0	25.6	18.6	17.4	2.3
	Oral English I	演習	24	Classroom participation 20%/Oral presentations 20%/Listening tests 10%/Short tests 10%/End-of-Semester test 40%	16.7	66.7	12.5	4.2	0.0
	Oral English II	演習	57	Classroom participation 20%/Oral presentations 20%/Listening tests 10%/Short tests 10%/End-of-Semester test 40%	24.6	56.1	12.3	5.3	1.8
	Oral English III	演習	78	Classroom participation 20%/Oral presentations 20%/Listening tests 10%/Short tests 10%/End-of-Semester test 40%	30.8	48.7	11.5	5.1	3.8
	Oral English IV	演習	71	Classroom participation 20%/Oral presentations 20%/Listening tests 10%/Short tests 10%/End-of-Semester test 40%	38.0	39.4	14.1	5.6	2.8
	Oral English V	演習	59	Classroom participation 20%/Oral presentations 20%/Listening tests 10%/Short tests 10%/End-of-Semester test 40%	20.3	62.7	16.9	0.0	0.0
	Tourism English I	演習	6	授業参加度:30%、2プレゼンテーション:各20%=40%、最終プレゼンテーション:30%	33.3	16.7	0.0	33.3	16.7
	Tourism English II	演習	24	授業参加度:30%、2プレゼンテーション:各20%=40%、最終プレゼンテーション:30%	54.2	45.8	0.0	0.0	0.0
	Discussion in English I	演習	31	Classroom Preparation and Classroom Participation 30%/Final two debates 35% each	22.6	41.9	25.8	6.5	3.2
	Oral Presentation I	演習	16	Participation 10%、Six Presentations 15% each	31.3	31.3	31.3	0.0	6.3
	英作・文法 I	演習	51	定期試験60%、宿題や小テスト40%	47.1	21.6	19.6	9.8	2.0
	英作・文法 II	演習	79	定期試験60%、小テストや宿題40%	30.4	29.1	26.6	10.1	3.8
高等英文法	演習	46	定期試験60%、小テスト・発表40%	47.8	17.4	15.2	10.9	8.7	
Paragraph Writing I	演習	77	提出物50%、授業貢献度50%	72.7	13.0	2.6	3.9	7.8	
Paragraph Writing II	演習	9	Quizzes/Volunteer(30%)/In class activities(10%)/Homework assignments(20%)/Final Essay(40%)	33.3	11.1	11.1	11.1	33.3	
選択必修 A									
選択必修 B									

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

選 択 必 修 C	英語講読 I	演習	50 定期試験60%、小テスト20%、発表20%	48.0	26.0	22.0	2.0	2.0
	英語講読 II	演習	78 定期試験60%、課題や小テスト40%	55.1	15.4	24.4	3.8	1.3
	英語講読 III	演習	73 Achievement sheet 10%/Reading Reflection 20%/Review Quiz 20%/Exams 50%	38.4	26.0	15.1	11.0	9.6
	英語講読 IV	演習	37 定期試験60%、課題や小テスト40%	70.3	18.9	5.4	5.4	0.0
	Current Issues in English	演習	6 Assignments/Classwork: 40% Two Presentations: 30% each	33.3	16.7	16.7	33.3	0.0
	Current Issues Online	演習	7 Assignments 10% each. Final exam 30 %	57.1	0.0	14.3	28.6	0.0
	多読 I	演習	54 課題レポート100%	61.1	20.4	14.8	3.7	0.0
	多読 II	演習	13 課題レポート100%	76.9	0.0	7.7	0.0	15.4
	英語検定演習 I	演習	31 課題50%、テスト50%	54.8	29.0	3.2	12.9	0.0
	英語検定演習 II	演習	38 課題50%、テスト50%	71.1	18.4	0.0	7.9	2.6
	Shadowing(Listning)	演習	56 授業中のパフォーマンスや課題の提出100%	80.4	16.1	1.8	1.8	0.0
	English & American Literature	講義	25 小テスト60%、課題や発表40%	76.0	12.0	12.0	0.0	0.0
	選 択 必 修 D	TOEIC I	演習	小テスト10%、授業への参加度20%、学期末テスト40%、宿題30%	18.9	24.3	24.3	27.0
TOEIC II		演習	58 宿題30%、授業への参加度20%、学期末テスト40%、小テスト10%	36.2	43.1	12.1	5.2	3.4
TOEIC III		演習	34 小テスト10%、宿題30%、授業への参加度20%、学期末テスト40%	55.9	8.8	17.6	2.9	14.7
Business Writing		演習	23 授業への参加度15%、小テスト40%、課題30%、授業態度等15%	91.3	4.3	0.0	0.0	4.3
同時通訳 I		演習	42 授業中のパフォーマンス100%	73.8	23.8	2.4	0.0	0.0
同時通訳 II		演習	13 授業中のパフォーマンス100%	61.5	38.5	0.0	0.0	0.0
同時通訳実践演習 I (Chapel Service)		演習	3 礼拝等における通訳実践100%	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3
同時通訳実践演習 II (Chapel Service)		演習	0 礼拝等における通訳実践100%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
同時通訳初級(夏期集中講座)		演習	9 演習中のパフォーマンス50%、同時通訳実践50%	22.2	22.2	0.0	22.2	33.3
同時通訳上級(夏期集中講座)		演習	3 演習中のパフォーマンス50%、同時通訳実践50%	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
通訳実践活動(認定科目)	演習	0 レポートおよび面談100%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

コトバと論理	演習	19	毎回のフィードバックレポート提出30%、課題への取り組みと試験70%	15.8	68.4	5.3	0.0	10.5
日本語表現法	講義	14	授業のタスクへの取り組み20%、プレゼンテーション30%、即興スピーチ20%、最終レポート30%	35.7	57.1	0.0	0.0	7.1
秘書学概論	講義	49	授業への参加度15%、課題提出30%、受講態度15%、発表内容40%	79.6	16.3	2.0	0.0	2.0
秘書実務	演習	46	授業への参加度15%、受講態度15%、課題発表40%、課題提出30%	71.7	17.4	8.7	0.0	2.2
経営概論	講義	2	期末試験70%、レポート等の課題30%	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
簿記論	講義	0	課題30%、期末試験70%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
キャリアガイダンス	講義	20	定期試験40%、レポート10%、授業態度20%、発表20%、演習10%	20.0	45.0	35.0	0.0	0.0
マーケティング入門	講義	33	授業への参加度・貢献度・受講態度30%、課題等提出70%	12.1	15.2	30.3	39.4	3.0
インターンシップ(事前指導及び実習)	実習	3	レポート	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マルチメディア演習	演習	8	小テスト・授業内レポート40%、演習40%、授業態度10%、その他10%	0.0	0.0	25.0	62.5	12.5
プレゼンテーション概論	講義	7	フィードバックレポート30%、ハフオアス20%、フロッグ外への取り組み30%、最終レポートとフロッグ外報告書20%	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0
情報機器利用プレゼンテーション演習	演習	1	個人のアレクサンダーソン 50%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通訳とプレゼンテーション	演習	12	クラス内での課題への取り組みとハフオアス100%	58.3	33.3	0.0	0.0	8.3
異文化理解	講義	10	期末レポート50%、学期内不定期課題(2回程度)20%、授業への参加度30%	50.0	10.0	20.0	0.0	20.0
異文化共生	講義	25	ハフオアスの資料作成20%、プレゼンテーション60%、ハフイズ20%	96.0	0.0	4.0	0.0	0.0
海外研修(国際交流)	実習	1	プレゼンテーション40%、研修中の態度+積極性40%、研修後のレポート40%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
海外研修(多文化共生)	実習	6	プレゼンテーション40%、研修中の態度+積極性40%、研修後のレポート40%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
海外研修(国際協力)	実習	0	プレゼンテーション40%、研修中の態度+積極性40%、研修後のレポート40%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
評価基準			合格…秀、A: 90点以上、優、B: 80点～90点未満、良、C: 70点～80点未満、可、D: 60点～70点未満 不合格…不可、F: 60点未満					

選択科目

※最終評価には、再履修者も含む。

※必修科目の不可取得者は再履修により単位取得していることを確認済みである。

- [注] 1 2017(平成29)年度に卒業した学生が入学時から卒業までに履修した科目について記載してください。
2 「区分」は、教育課程表に沿って「共通科目」、「専門科目」等の科目群名を記載してください。
3 「授業形態」は、「講義」、「演習」、「実習」等を記載してください。
4 「成績評価の方法」は、「期末試験90%、レポート10%」等を記載してください。
5 「最終評価(%)」は、各短期大学の評価基準に合わせて変更・列の追加をしてください。
6 「評価基準」は、評価の点数区分について記載してください。
(例) 合格…S: 100～90、A: 89～80、B: 79～70、C: 69～60 不合格…D: 59～0

様式8_2

単位認定状況表
学科名等 保育科

区分	授業科目名	授業形態	履修者数	成績評価の方法	最終評価 (%)				
					合				
					秀	優	良	可	不可
必修科目	保育原理	講義	101	試験50%、レポート30%、受講態度20%	37.6	35.6	15.8	10.9	0.0
	教育原理	講義	103	試験60%、レポート30%、受講態度10%	20.4	27.2	33.0	17.5	1.9
	児童家庭福祉	講義	101	小テスト10点×6=60点、現場体験レポート30点、現場体験発表10点	28.7	58.4	11.9	1.0	0.0
	社会福祉	講義	103	期末試験45%、課題レポート20%、レポート現場訪問15%、切り抜き、まとめ15%、質問への対応5%	42.7	27.2	11.7	16.5	1.9
	キリスト教保育	講義	101	グループ発表40%、レポート40%、受講態度10%	51.5	37.6	6.9	4.0	0.0
	発達心理学 I	講義	101	期末試験50%、授業内レポート35%、授業態度15%	37.6	28.7	22.8	10.9	0.0
	乳児保育	演習	101	小テスト30%、グループ発表20%、演習20%、課題(手作り教材の提出)20%、授業態度10%	19.8	47.5	23.8	8.9	0.0
	子どもの保健 I	講義	101	受講者の発表10%	50.5	20.8	13.9	14.9	0.0
	子どもの食と栄養	演習	104	定期試験30%、授業態度20%、演習20%、授業への参加度20%、小テスト、授業内レポート10%	10.6	47.1	27.9	11.5	2.9
	家庭支援論	講義	102	小テスト40%、レポート現場体験30%、発表10%、演習(デイズカッフォン)10%、特別講義レポート10%	52.9	27.5	16.7	2.0	1.0
	健康指導法	演習	101	期末試験60% 授業態度30% 受講者の発表10%	0.0	24.8	57.4	17.8	0.0
	人間関係指導法	演習	101	試験60%、課題・発表等40%	27.7	34.7	27.7	9.9	0.0
	環境指導法	演習	101	講義のまとめ課題50%、レポート課題20%、受講態度30%	57.4	26.7	10.9	5.0	0.0
	言葉指導法	演習	103	課題提出(絵本カード30%、感想文5%)、企画と発表(グループ)5%、定期試験60%	57.3	25.2	8.7	6.8	1.9
	音楽表現指導法	演習	101	演習20%、発表25%、授業態度10%、小テスト・中間テスト20%、指導案作成10%、模擬授業15%	73.3	21.8	4.0	1.0	0.0
	造形指導法	演習	102	ポートフォリオにより学びの過程を評価70%、最終レポート30%	59.8	32.4	6.9	0.0	1.0
	地域子育て支援実習 I	実習	101	授業態度60%、自己評価40%	93.1	6.9	0.0	0.0	0.0
	地域子育て支援実習 II	実習	101	授業態度60%、自己評価40%	96.0	2.0	0.0	2.0	0.0
	保育ボランティア体験	実習	101	ボランティア体験時間(30時間以上)と報告書70%、オリエnteーション・中間報告・全体報告会への参加と報告書30%(3回×10%)	65.3	26.7	5.9	2.0	0.0

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告書
自己点検・評価データ編

選択科目	演習	125	31.2	32.0	12.8	4.0	20.0
音楽 I	演習	125	31.2	32.0	12.8	4.0	20.0
音楽 II	演習	128	26.6	32.8	16.4	2.3	21.9
図画工作 I	演習	102	62.7	17.6	11.8	5.9	2.0
図画工作 II	演習	100	82.0	13.0	5.0	0.0	0.0
幼児体育 I	演習	103	65.0	25.2	6.8	1.0	1.9
幼児体育 II	演習	101	62.4	21.8	13.9	1.0	1.0
幼児の生活	演習	101	44.6	42.6	9.9	2.0	1.0
飼育栽培	演習	103	48.5	41.7	5.8	1.9	1.9
幼児の言葉	演習	101	64.4	22.8	12.9	0.0	0.0
保育者論	講義	100	31.0	27.0	22.0	20.0	0.0
保育課程総論	講義	103	32.0	37.9	17.5	9.7	2.9
保育指導法ゼミ	演習	101	34.7	34.7	22.8	7.9	0.0
保育カウンセリング	演習	100	36.0	41.0	17.0	6.0	0.0
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	100	66.0	27.0	3.0	4.0	0.0
教育実習	実習	98	45.9	42.9	10.2	1.0	0.0
視聴覚教育	演習	60	88.3	10.0	0.0	0.0	1.7
保育メディア研究	演習	41	56.1	43.9	0.0	0.0	0.0
相談援助	演習	100	61.0	28.0	10.0	1.0	0.0
社会的養護	講義	103	59.2	15.5	15.5	7.8	1.9
保育の心理学	演習	103	55.3	29.1	12.6	1.0	1.9
子どもの保健 II	講義	101	51.5	32.7	7.9	7.9	0.0
子どもの保健 III	演習	101	83.2	14.9	2.0	0.0	0.0
障害児保育	演習	101	14.9	16.8	33.7	34.7	0.0
社会的養護内容	演習	100	61.0	33.0	5.0	1.0	0.0

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

選 択 科 目	実習	101	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	92.1	5.0	2.0	0.0	1.0
保育所実習 I	実習	101	実習担当者 の 評 価 (日誌、レポート、反省会、訪問指導、面談等 による)50%、実習施設評価50%	96.0	3.0	1.0	0.0	0.0
施設実習 I	実習	101	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	57.4	24.8	14.9	2.0	1.0
保育所実習指導 I	演習	101	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	86.1	5.0	6.9	2.0	0.0
施設実習指導 I	演習	101	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	19.5	62.1	17.2	1.1	0.0
保育所実習 II	実習	87	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	45.5	54.5	0.0	0.0	0.0
施設実習 II	実習	11	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	54.5	30.7	12.5	2.3	0.0
保育所実習指導 II	演習	88	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0
施設実習指導 II	演習	11	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発達心理学 II	講義	0	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	66.7	16.7	8.3	0.0	8.3
海外幼児教育研究	講義	12	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
総合表現	演習	0	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手話 I	演習	19	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	10.5	36.8	47.4	5.3	0.0
手話 II	演習	9	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
音楽 III	演習	12	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
海外幼児教育研修	実習	9	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
老人福祉論	講義	0	実習担当者 の 評 価 (実習日誌・実習レポート・他)50%、実習 先 の 評 価 50%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
評価基準								

合格…秀、A: 90点以上、優、B: 80点～89点未満、良、C: 70点～79点未満、可、D: 60点～69点未満
不合格…不可、F: 60点未満

※最終評価には、再履修者も含む。
※必修科目の不可取得者は再履修により単位取得していることを確認済みである。

[注] 1 2017(平成29)年度に卒業した学生が入学時から卒業までに履修した科目について記載してください。
2 「区分」は、教育課程表に沿って「共通科目」、「専門科目」等の科目群を記載してください。
3 「授業形態」は、「講義」、「演習」、「実習」等を記載してください。
4 「成績評価の方法」は、「期末試験90%、レポート10%」等を記載してください。
5 「最終評価(%)」は、各短期大学の評価基準に合わせて変更・列の追加をしてください。
6 「評価基準」は、評価の点数区分について記載してください。
(例) 合格…S: 100～90、A: 89～80、B: 79～70、C: 69～60 不合格…D: 59～0

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

ヘルスプランニング	講義	18	レポート40%(中間20%、期末20%)、授業への参加度50%、試験10%	77.8	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
体育理論	講義	101	レポート40%(中間20%、期末20%)、授業への参加度60%	91.1	7.9	1.0	0.0	0.0	0.0
体育実技	実技	114	授業への参加度60点、実技評価40点	76.3	7.0	10.5	5.3	0.9	0.0
要約筆記(ノートテイキング)	講義・演習	22	試験30%、レポート30%、授業態度20%、演習20%	18.2	59.1	13.6	9.1	0.0	0.0
ポラントピア	演習	5	レポート100%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
日本語音声表現 I	演習	0	毎回の授業ごとの確認テスト50%、発表30%、授業態度20%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
日本語音声表現 II	演習	0	毎回の授業ごとの確認テスト50%、発表30%、授業態度20%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
オーラルイングリッシュ	演習	69	講義参加度(態度、プレゼンテーション等)、個人・グループ課題	34.8	43.5	21.7	0.0	0.0	0.0
英語	演習	32	講義参加度(態度、プレゼンテーション等)、個人・グループ課題	62.5	25.0	9.4	3.1	0.0	0.0
中国語	演習	42	期末試験80%、授業態度10%、発表10%	45.2	19.0	14.3	16.7	4.8	0.0
韓国語	演習	32	試験40%(会話10%、筆記30%)、毎回課題提出20%、レポート・発表20%、授業への参加度10%・教回の小テスト10%	62.5	18.8	6.3	6.3	6.3	0.0
スペイン語	演習	23	筆記テスト4回とQuiz60%、会話テスト10点%、宿題及び課題の提出20点、授業態度と参加10点	13.0	17.4	21.7	30.4	17.4	0.0
評価基準	合格…秀、A:90点以上、優、B:80点～90点未満、良、C:70点～80点未満、可、D:60点～70点未満 不合格…不可、F:60点未満								

※最終評価には、再履修者も含む。

※必修科目の不可取得者は再履修により単位取得していることを確認済みである。

- [注] 1 2017(平成29)年度に卒業した学生が入学期から卒業までに履修した科目について記載してください。
2 「区分」は、教育課程に沿って「共通科目」、「専門科目」等の科目群名を記載してください。
3 「授業形態」は、「講義」、「演習」、「実習」等を記載してください。
4 「成績評価の方法」は、「期末試験90%、レポート10%」等を記載してください。
5 「最終評価(%)」は、各短期大学の評価基準に合わせて変更・列の追加をしてください。
6 「評価基準」は、評価の点数区分について記載してください。
(例)合格…S:100～90、A:89～80、B:79～70、C:69～60 不合格…D:59～0

様式9

(2013(平成25)年度～2017(平成29)年度)

氏名	職位	研究業績				国際的活動の有無	社会的活動の有無	備考
		著作数	論文数	学会等発表数	その他			
青野 和彦	教授	0	5	5	11	無	有	
内間 清晴	教授	0	13	19	0	有	有	
上原 明子	教授	0	5	0	0	無	無	
仲座 栄利子	准教授	0	0	0	0	有	有	
作田 真由子	教授	0	1	0	0	無	無	
柳田 正豪	准教授	0	4	0	0	無	有	西原図書館評議員
Michael Bradley	教授	0	1	0		無	有	
照屋 建太	教授	2	3	9	2	無	有	
赤嶺 優子	准教授	1	6	10	1	有	有	
大城 りえ	准教授	0	5	3	0	無	有	
佐久本 邦華	講師	2	4	0	1	無	有	公益財団沖縄こどもの国 評議員(2016年5月～) 社会福祉法人栄福社あかるい子保育園評議員(2017年4月)
糸洲 理子	講師	1	7	0	1	無	有	

様式10

外部研究資金の獲得状況一覧表

	2015(平成27)年度		2016(平成28)年度		2017(平成29)年度	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択
外部研究資金調達先等						
科学研究費補助金	1	0	1	0	0	0
その他の外部研究資金	2	0	2	1	3	1
<u>調達先・資金名等</u> 公益信託 宇流麻学術研究助成基金						

様式11

理事会の開催状況(2015(平成27)年度～2017(平成29)年度)

開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等			監事の 出席状況
定員	現員(a)		出席理事数(b)	実出席率 (b/a)	意思表示 出席者数	
10	10	平成27年5月21日 16:00～18:10	9	90.0%	1	2/2
	10	平成27年8月20日 15:00～16:50	9	90.0%	1	2/2
	10	平成27年9月17日 15:00～17:25	10	100.0%	0	2/2
	10	平成27年10月20日 15:00～17:15	9	90.0%	1	1/2
	10	平成27年11月26日 15:00～16:30	9	90.0%	1	1/2
	10	平成27年12月17日 15:00～18:20	10	100.0%	0	1/2
	10	平成28年2月25日 15:00～17:25	10	100.0%	0	1/2
	10	平成28年3月10日 15:00～17:20	10	100.0%	0	1/2
	10	平成28年3月29日 15:00～17:25	8	80.0%	0	1/2
	10	平成28年5月26日 15:00～17:10	9	90.0%	1	1/2
	10	平成28年10月18日 15:10～17:30	9	90.0%	1	1/2
	10	平成28年11月29日 15:00～17:00	10	100.0%	0	2/2
	10	平成29年3月14日 15:00～18:00	9	90.0%	1	2/2

(人)

10	10	平成29年5月23日 15:30 ~ 17:50	9	90.0%	1	2/2
	10	平成29年6月13日 15:00 ~ 17:30	8	80.0%	1	1/2
	10	平成29年7月4日 15:00 ~ 17:30	8	80.0%	1	1/2
	10	平成29年9月26日 15:00 ~ 17:30	8	80.0%	1	2/2
	10	平成29年10月4日 15:00 ~ 16:30	7	70.0%	0	1/2
	10	平成29年10月21日 14:00 ~ 17:15	10	100.0%	0	2/2
	10	平成29年10月26日 16:30 ~ 16:55	9	90.0%	0	1/2
	10	平成29年12月1日 15:00 ~ 18:00	8	80.0%	0	1/2
	10	平成30年3月14日 15:00 ~ 17:20	7	70.0%	3	1/2

【注】

- 1 2015(平成27)年度から2017(平成29)年度までに開催した全ての理事会について記入・作成してください。
- 2 「定員」及び「現員(a)」欄には、開催日当日の人数を記入してください。
- 3 「意思表示出席者数」欄には、寄附行為に「書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席者とみなす」等が規定されている場合、出席理事数(b)の外数で、該当する人数を記入してください。
- 4 「実出席率(b/a)」欄には、百分率で小数点以下第1位まで記入してください(小数点以下第2位を四捨五入)。
- 5 「監事の出席状況」欄には、「/」の右側に監事数(現員)を記入し、左側に当該理事会に出席した監事数を記入してください。

様式12

評議員会の開催状況(2015(平成27)年度～2017(平成29)年度)

開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等		監事の 出席状況
定員	現員(a)		出席評議員数 (b)	実出席率 (b/a)	
23	23	2015(平成27)年5月22日 18:00～20:05	18	78.3%	0 2/2
	23	2015(平成27)年11月24日 18:00～19:56	15	65.2%	7 1/2
	23	2016(平成28)年3月8日 18:00～20:15	15	65.2%	5 1/2
	23	2016(平成28)年5月27日 18:00～20:00	15	65.2%	0 1/2
	23	2016(平成28)年11月25日 18:00～19:55	18	78.3%	3 1/2
	23	2017(平成29)年3月10日 18:00～20:15	17	73.9%	4 2/2
	23	2017(平成29)年5月26日 18:00～20:10	17	73.9%	4 2/2
	23	2017(平成29)年10月21日 12:00～13:30	19	82.6%	3 2/2
	23	2017(平成29)年11月29日 18:00～20:00	19	82.6%	3 2/2
	23	2018(平成30)年3月9日 18:00～20:20	16	69.6%	4 1/2

[注]

- 1 2015(平成27)年度から2017(平成29)年度までに開催した全ての評議員会について記入・作成してください。
- 2 「定員」及び「現員(a)」欄には、開催日当日の人数を記入してください。
- 3 「意思表示出席者数」欄には、寄附行為に「書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席者とみなす」等が規定されている場合、出席評議員数(b)の外数で、該当する人数を記入してください。
- 4 「実出席率(b/a)」欄には、百分率で小数点以下第1位まで記入してください(小数点以下第2位を四捨五入)。
- 5 「監事の出席状況」欄には、「/」の右側に監事数(現員)を記入し、左側に当該評議員会に出席した監事数を記入してください。

「計算書類等の概要（過去3年間）」の書式

下記の書式により作成し、提出してください。

- 書式13 活動区分資金収支計算書（学校法人全体）
- 書式14 事業活動収支計算書の概要
- 書式15 貸借対照表の概要（学校法人全体）
- 書式16 財務状況調べ

【記入上のお願しい】

- ① 各書式ともに当該年度の財務計算書類を基に千円未満の金額は切り捨てて記入し、該当する金額がない場合でも行の削除をしないで、0（ゼロ）の数字を記入してください。
 - ② 書式1には、日本私立学校振興・共済事業団の「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）平成27年度～」（http://www.shigaku.go.jp/files/s_center_shihyo27.pdf）を参照し、どの区分に該当するかを記入してください。ただし、同事業団では、直近3か年について一昨年度、昨年度の決算実績及び今年度決算見込みとしていますが、この資料においては決算見込みは含まずに、提出資料と同じ過去3年間で行ってください。
- また、同区分のB1～D3に該当する学校法人は経営改善計画を策定し、自己点検・評価報告書に計画の概要を記載してください。

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

経営判断指標の 区分 (法人)	A3
--------------------	----

短期大学名
沖縄キリスト教短期大学

科目	2015(平成27)年度		2016(平成28)年度		2017(平成29)年度	
	金額	金額	金額	金額	金額	金額
(単位:千円)						
教育活動による資金収支						
収入						
学生生徒等納付金収入	723,847	708,219	707,072			
手数料収入	17,021	17,066	16,701			
特別寄付金収入	12,057	16,501	12,890			
一般寄付金収入	0	0	0			
経常費等補助金収入	133,370	90,080	124,753			
付随事業収入	3,925	4,568	6,094			
雑収入	20,794	6,612	14,036			
(何)	0	0	0			
教育活動資金収入計(1)	911,016	843,047	881,547			
支出						
人件費支出	538,304	544,958	556,124			
教育研究経費支出	172,292	168,592	174,198			
管理経費支出	44,782	52,190	45,471			
教育活動資金支出計(2)	755,379	765,741	775,794			
差引(3)=(1)-(2)	155,637	77,305	105,752			
調整定等(4)	17,751	△ 5,147	1,385			
教育活動資金収支差額(5)=(3)+(4)	173,389	72,158	107,138			
施設整備等活動による資金収支						
収入						
施設設備寄付金収入	5,457	4,018	3,193			
施設設備補助金収入	0	0	0			
施設設備売却収入	0	0	0			
第2号基本金引当特定資産取崩収入	19,000	0	0			
(何)引当特定資産取崩収入	0	0	0			
(何)	0	0	0			
施設整備等活動資金収入計(6)	24,457	4,018	3,193			
支出						
施設関係支出	31,617	13,683	10,122			
設備関係支出	21,624	17,990	17,343			
第2号基本金引当特定資産繰入支出	20,000	20,000	0			
減価償却引当特定資産繰入支出	10,000	10,000	15,000			
(何)	0	0	0			
施設整備等活動資金支出計(7)	83,241	61,673	42,465			
差引(8)=(6)-(7)	△ 58,784	△ 57,655	△ 39,272			
調整定等(9)	△ 5,334	△ 5,334	△ 3,292			
施設整備等活動資金収支差額(10)=(8)+(9)	△ 64,118	△ 62,989	△ 42,564			
小計(11)=(5)+(10)	109,270	9,168	64,573			

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

科目	金額	金額	金額
借入金等収入	0	0	0
有価証券売却収入	0	0	0
第3号基本金引当特定資産取崩収入	0	0	0
短期貸付金回収収入	246	444	300
預り金受入収入	560	0	0
仮払金回収収入	0	702	0
小計	807	1,146	300
受取利息・配当金収入	3,958	5,231	4,200
収益事業収入	0	0	0
(何)	0	0	0
その他の活動資金収入計(12)	4,765	6,378	4,500
借入金等返済支出	36,100	36,000	36,000
有価証券購入支出	0	0	0
第3号基本金引当特定資産繰入支出	0	0	0
退職給与引当特定資産繰入支出	5,000	5,000	10,000
大学拡充経費引当特定資産繰入支出	30,000	30,000	40,000
預り金支払支出	0	461	2,139
仮払金支払支出	640	0	0
小計	71,740	71,461	88,139
借入金等利息支出	1,791	1,288	774
(何)	0	0	0
その他の活動資金支出計(13)	73,531	72,750	88,913
差引(14)=(12)-(13)	△ 68,765	△ 66,371	△ 84,413
調整勘定等(15)	0	0	0
その他の活動資金収支差額(16)=(14)+(15)	△ 68,765	△ 66,371	△ 84,413
支払資金の増減額(17)=(11)+(16)	40,504	△ 57,203	△ 19,839
前年度繰越支払資金(18)	1,151,213	1,191,717	1,134,514
翌年度繰越支払資金(19)=(17)+(18)	1,191,717	1,134,514	1,114,674

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

短期大学名
沖縄キリスト教短期大学

(単位:千円)

科目	2015(平成27)年度		2016(平成28)年度		2017(平成29)年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金	723,847	370,769	708,219	354,411	707,072	356,365
手数料	17,021	8,646	17,066	8,849	16,701	8,752
寄付金	12,057	5,787	16,501	7,755	12,890	5,772
經常費等補助金	133,370	63,435	90,080	63,889	124,753	64,288
付随事業収入	3,925	2,553	4,568	3,095	6,094	4,742
雑収入	20,794	9,308	6,612	4,790	14,036	10,156
教育活動収入計(1)	911,016	460,499	843,047	442,792	881,547	450,078
人件費	534,450	252,209	544,778	254,276	558,625	257,433
教育研究経費	266,084	125,534	259,697	123,208	256,879	121,819
(うち減価償却額)	(93,792)	(41,668)	(81,105)	(40,700)	(82,681)	(37,059)
管理経費	55,517	22,791	62,943	25,451	55,456	23,029
(うち減価償却額)	(10,679)	(4,657)	(10,785)	(4,709)	(9,946)	(4,343)
徴収不能額等	113	113	140	140	960	0
教育活動支出計(2)	856,166	400,649	867,559	403,076	871,923	402,282
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	54,849	59,849	△24,511	39,716	9,623	47,795
受取利息・配当金	3,958	1,195	5,231	1,419	4,200	1,038
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
教育活動外収入計(4)	3,958	1,195	5,231	1,419	4,200	1,038
借入金等利息	1,791	752	1,288	541	774	325
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
教育活動外支出計(5)	1,791	752	1,288	541	774	325
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,167	443	3,942	877	3,425	713
経常収支差額(7)=(3)+(6)	57,016	60,292	△20,569	40,593	13,049	48,509
資産売却差額	0	0	0	0	0	0
その他の特別収入	5,774	2,825	5,878	1,970	3,562	1,751
特別収入計(8)	5,774	2,825	5,878	1,970	3,562	1,751
資産処分差額	14,286	12,005	4,366	4,342	1,132	900
その他の特別支出	0	0	0	0	0	0
特別支出計(9)	14,286	12,005	4,366	4,342	1,132	900
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△8,511	△9,180	1,511	△2,372	2,425	850
基本金組入前当年度収支差額(12)*	48,505	51,112	△19,057	38,221	15,479	49,359
基本金組入額合計(13)	△68,811	△23,429	△72,395	△24,625	△19,261	△8,112
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△20,305	27,682	△91,452	13,595	△3,782	41,246
前年度繰越収支差額(15)	△516,531		△536,837		△622,290	
基本金取崩額(16)	0		△6,000		0	
翌年度繰越収支差額(17)*	△536,837		△622,289		△626,071	

2018年度 沖縄キリスト教短期大学 自己点検・評価報告者書
自己点検・評価データ編

事業活動収入計(18) = (1)+(4)+(8)	920,749	464,520	854,157	446,181	889,310	452,868
事業活動支出計(19) = (2)+(5)+(9)	872,244	413,408	873,214	407,959	873,830	403,508
経常収入計(20) = (1)+(4)	914,975	461,694	848,278	444,211	885,748	451,117
経常支出計(21) = (2)+(5)	857,957	401,402	868,848	403,617	872,698	402,608

(12) = (7)+(10)

(17) = (14)+(15)+(16)

短期大学名
沖縄キリスト教短期大学

貸借対照表の概要(学校法人全体)

(各年度末日現在/単位:千円)

資産の部	科目	2015(平成27)年度末	2016(平成28)年度末	2017(平成29)年度末
固定資産	有形固定資産	3,326,132	3,318,408	3,317,482
	特定資産	2,671,869	2,598,812	2,532,346
	その他の固定資産	651,000	716,000	781,000
		3,262	3,595	4,135
流動資産	現金預金	1,207,462	1,138,901	1,123,026
	未収入金	1,191,717	1,134,514	1,114,674
	貯蔵品	13,237	3,394	7,498
	短期貸付金	76	109	69
	有価証券	1,467	883	583
	その他	0	0	0
		963	0	200
資産の部合計		4,553,594	4,457,310	4,440,508

負債の部		2015(平成27)年度末	2016(平成28)年度末	2017(平成29)年度末
科目				
固定負債		303,962	264,489	229,739
流動負債		434,173	416,420	418,888
前受金		353,831	352,656	351,295
その他		80,342	63,763	67,592
負債の部合計		738,136	680,909	648,628
純資産の部		2015(平成27)年度末	2016(平成28)年度末	2017(平成29)年度末
科目				
基本金		4,332,295	4,398,690	4,417,952
繰越収支差額		△ 536,837	△ 622,289	△ 626,071
純資産の部合計		3,795,458	3,776,400	3,791,880
負債及び純資産の部合計		4,533,594	4,457,310	4,440,508

評価前年度の「外部負債」及び「運用資産」の金額を記入してください。(単位:千円)

外部負債
=借入金+学校債+未払金+手形債務

62,094

運用資産
=現金預金+有価証券+特定預金(資産)

1,895,674

短期大学名
沖縄キリスト教短期大学

財務状況調べ

(単位:千円)

短大	所在地	沖縄県中頭郡西原町字翁長777番地
学校	名称・所在地	沖縄キリスト教学院 ・ 沖縄県中頭郡西原町字翁長777番地
法人	併設校	大学(1) 高校() 中学() 幼稚園() その他()

*併設大学が複数ある場合など、大学(2)のように校数を記載してください。

年度	経常収入	経常支出	経常収支差額	短期大学		教研経費比率
				経常収支差額比率	人件費比率	
29	451,116	402,607	48,509	10.75%	57.07%	27.00%
28	444,211	403,617	40,594	9.14%	57.24%	27.74%
27	461,694	401,401	60,293	13.06%	54.63%	27.19%
年度	経常収入	経常支出	経常収支差額	学校法人全体		教研経費比率
				経常収支差額比率	人件費比率	
29	885,747	872,697	13,050	1.47%	63.07%	29.00%
28	848,278	868,847	-20,569	-2.42%	64.22%	30.61%
27	914,974	857,957	57,017	6.23%	58.41%	29.08%

評価前年度末貸借対照表		特定資産	781,000
資産	その他の固定資産		4,135
	流動資産		1,123,026
	計		1,908,161
負債	固定負債		229,739
	流動負債		418,888
	計		648,627
	差額(余裕資金)		1,259,534

流動比率	余裕資金の程度
268.10%	144.14%

*流動比率は流動資産を流動負債で割った数値

です。

*余裕資金の程度とは、ここでは特定資産、その他の固定資産、流動資産の計から固定負債、流動負債の計を引いた差額(余裕資金)を直近の事業活

動支出計で割った数値で示しています。

注1: この書式4については、網掛け部分を入力してください。その他の部分は自動的に計算するように計算式が入力されていますので、何も入力しないでください。

注2: 経常収支差額比率、人件費比率、教育研究経費比率とも、分母は経常収入です。